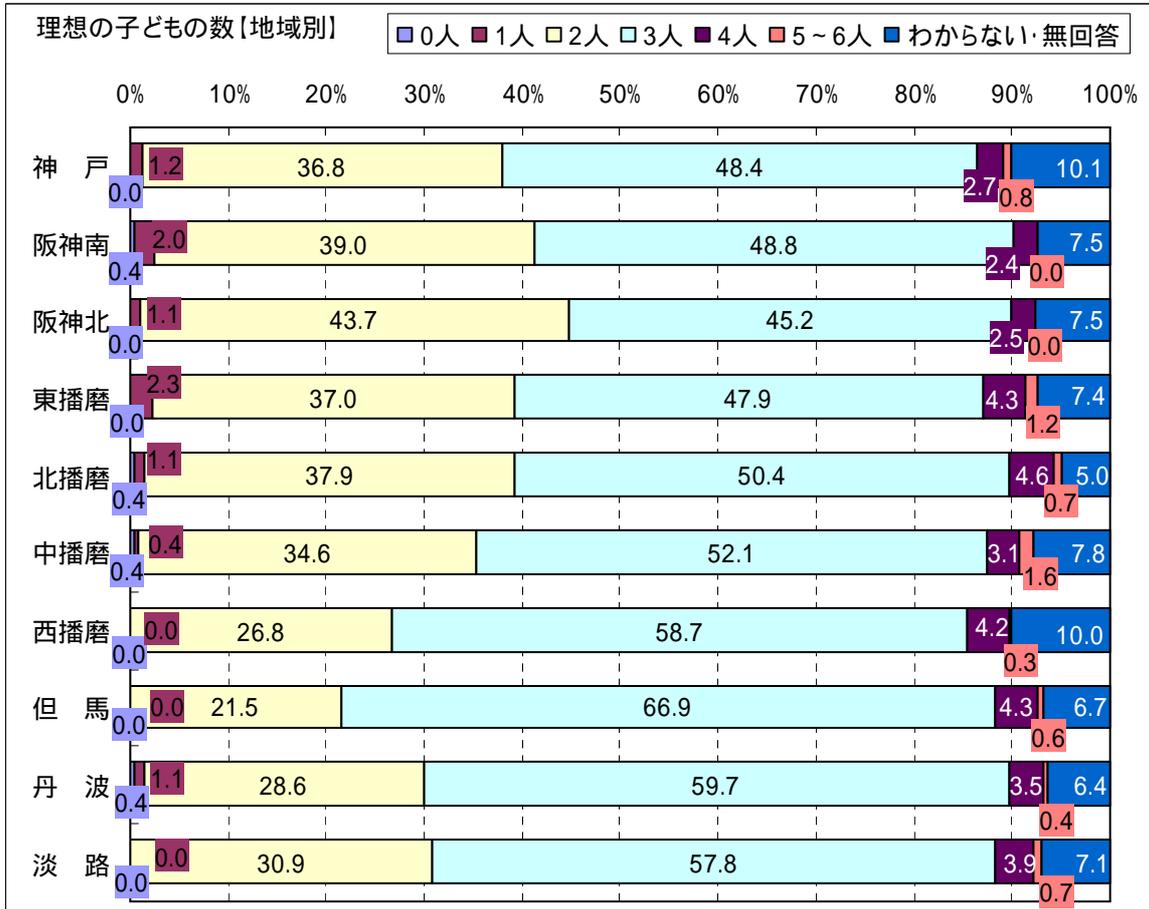


地域別

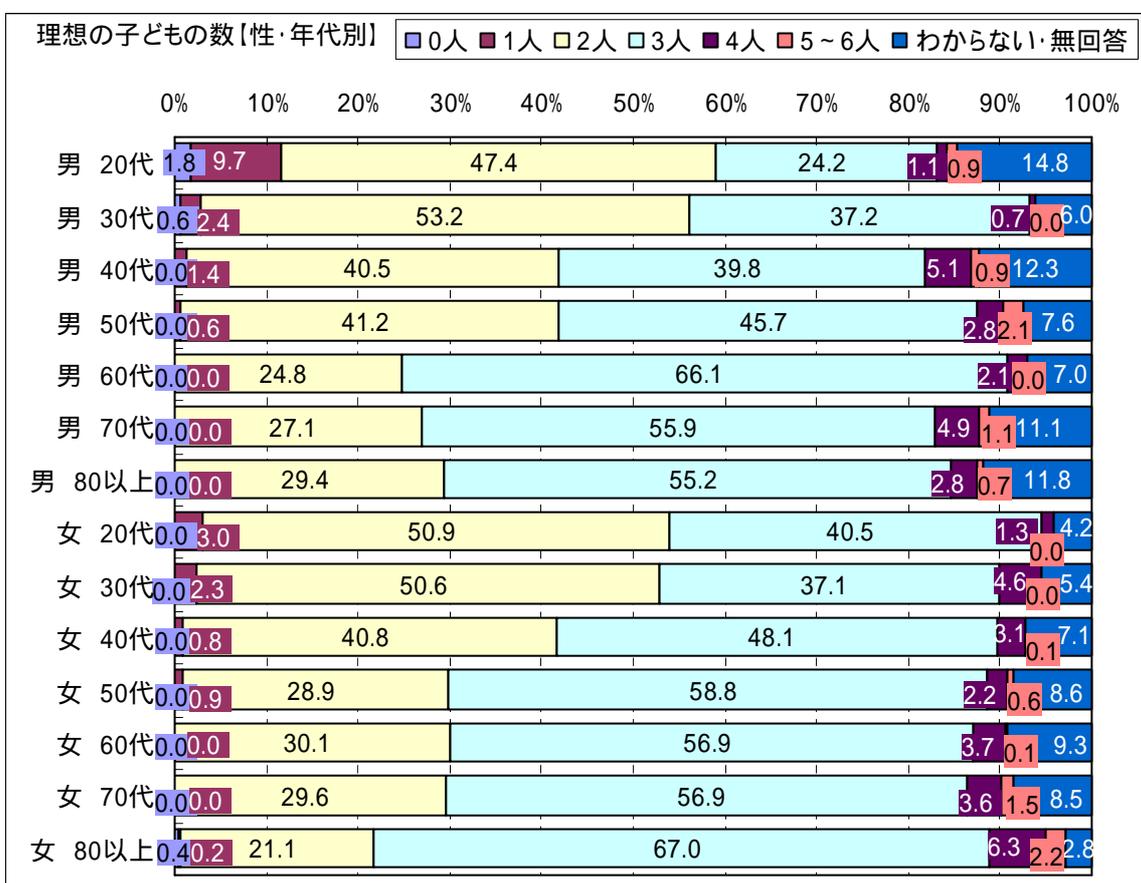
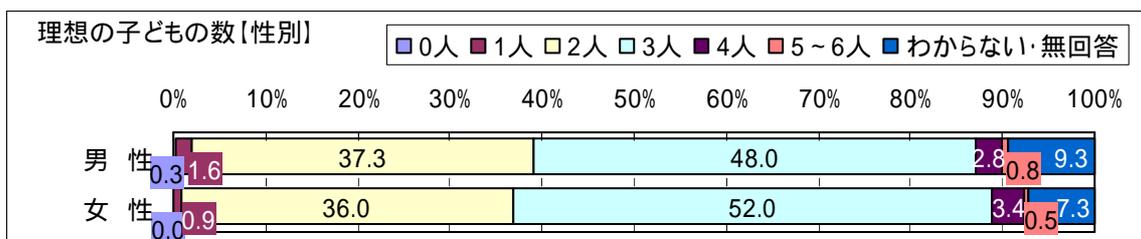
地域別でみると、「3人」は、但馬(66.9%)で6割台半ばと最も多く、丹波(59.7%)、西播磨(58.7%)、淡路(57.8%)が6割弱で続くが、他の6地域は5割前後となっている。

一方、「2人」は、阪神北(43.7%)で4割を超えて最も多く、3割台の地域が多い中、最も少ない但馬(21.5%)を始め、西播磨(26.8%)、丹波(28.6%)では2割台となっている。



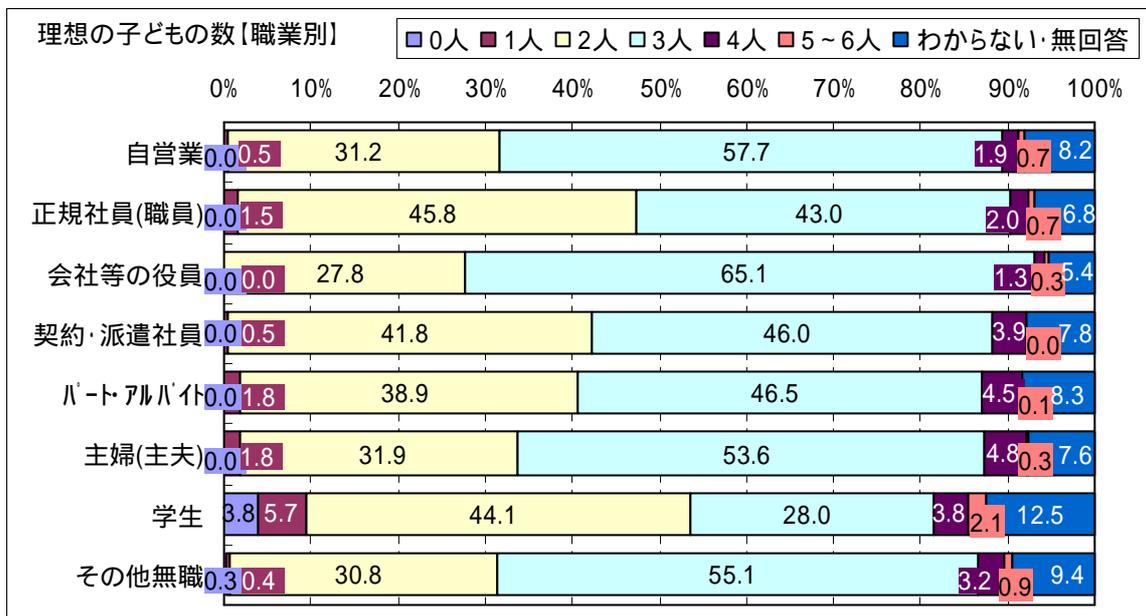
性別 / 性・年代別

性別では、「3人」が、男性(48.0%)より女性(52.0%)でやや多い程度で、特段の差はない。
 性・年代別でみると、「2人」が、男女とも、20代(男47.4%、女50.9%)、30代(男53.2%、女50.6%)
 で5割前後あるが、年代が上がると減少する傾向にあり、男性では60代(24.8%)で2割台半ば、
 女性では80代(21.1%)で2割台前半と最も少なくなっている。
 逆に、「3人」では、男女とも、年代が上がると増加する傾向にあり、男性は60代以上、女性では
 50代以上で5割を超えている。



職業別

職業別では、「2人」は、正規社員(45.8%)、学生(44.1%)で4割台半ばと多く、「3人」では、会社等の役員(65.1%)で6割台半ばと最も多く、次いで自営業(57.7%)となっている。

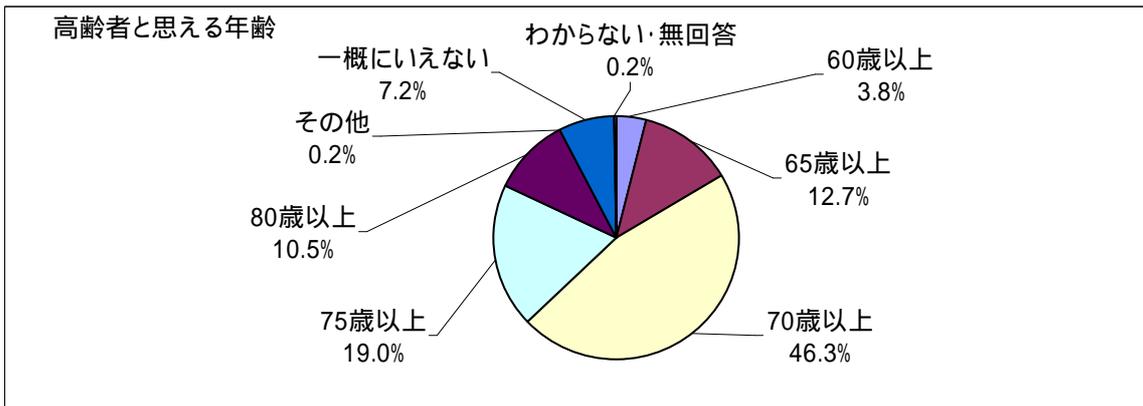


(2) 高齢者と思える年齢

問2 あなたは「お年寄り」というのは年齢的に見て、何歳以上の人をイメージしますか。次の中から1つ選んで番号に 印をつけて下さい。

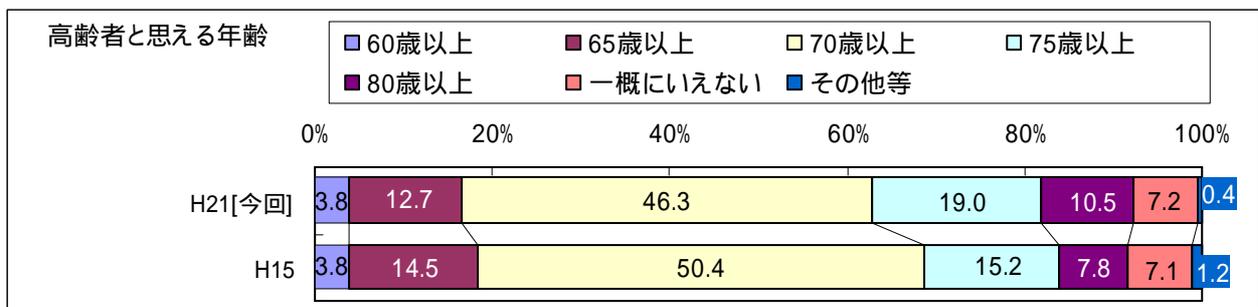
- | | | |
|-----------|---------|----------|
| 1 60歳以上 | 2 65歳以上 | 3 70歳以上 |
| 4 75歳以上 | 5 80歳以上 | 6 その他() |
| 7 一概にいけない | 8 わからない | |

高齢者と思える年齢では、「70歳以上」(46.3%)が半数近くを占め、「75歳以上」(19.0%)、「65歳以上」(12.7%)と続くが、1割台である。



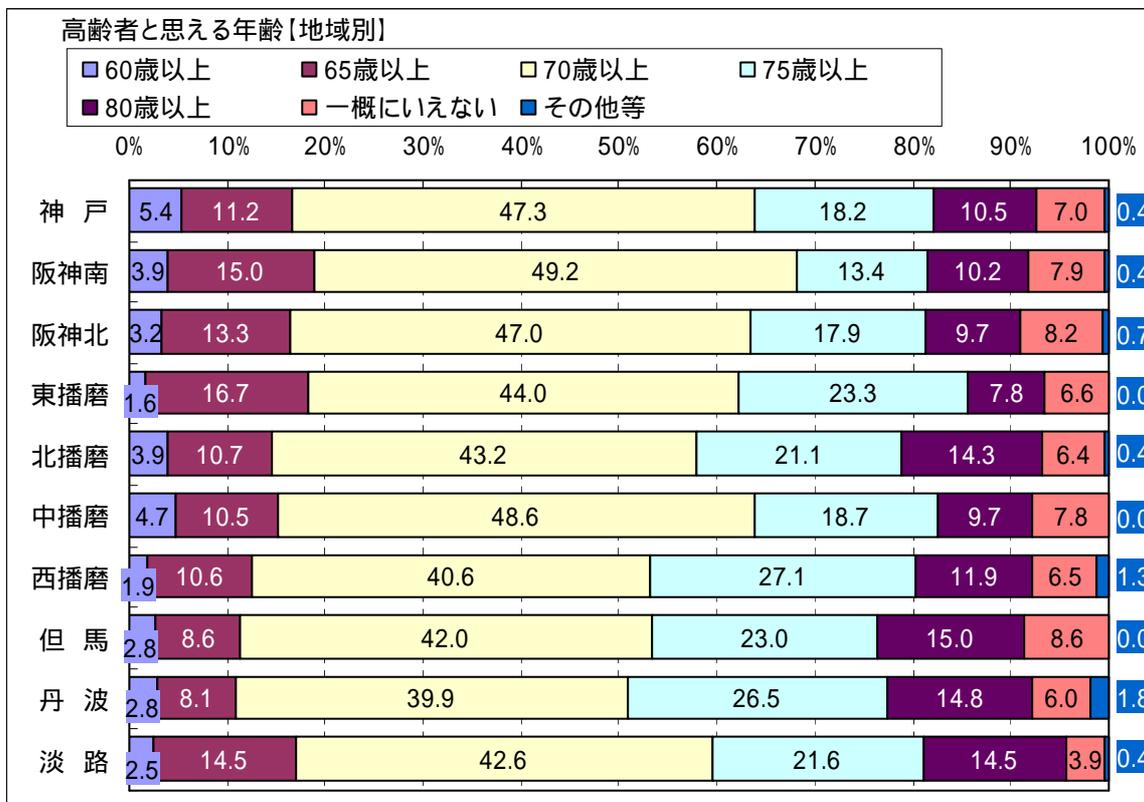
平成 15 年調査との比較

本県が平成 15 年に実施した県民意識調査での結果と比較すると、前回は「70歳以上」(50.4%)が半数を占め、「75歳以上」(15.2%)と「65歳以上」(14.5%)が1割台半ばで続いていて、この傾向は今回調査と同様だが、今回は「65歳以上」と「70歳以上」の比率が減り、「75歳以上」と「80歳以上」の比率が増えており、「お年寄り」の基準が高い年齢へとシフトしている。



地域別

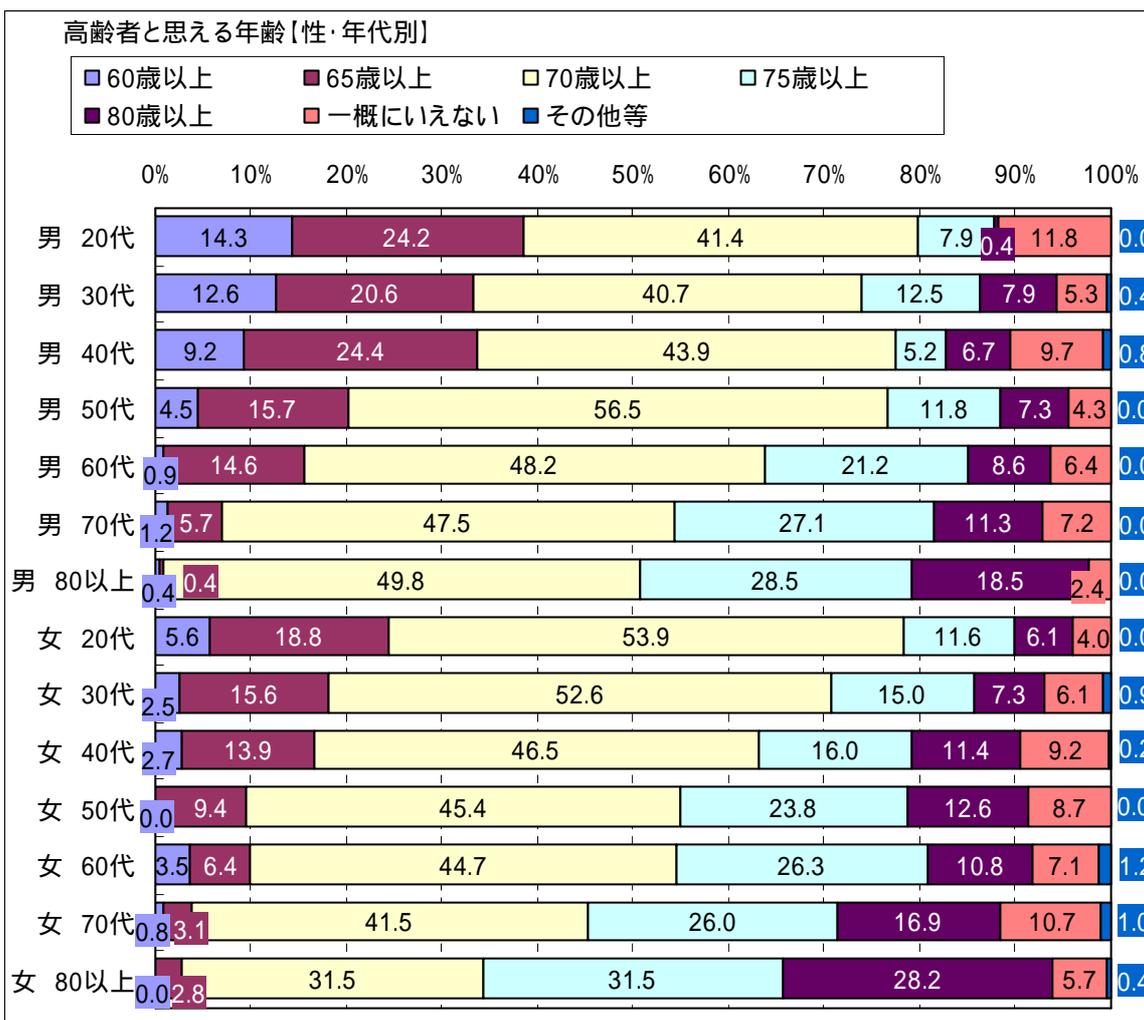
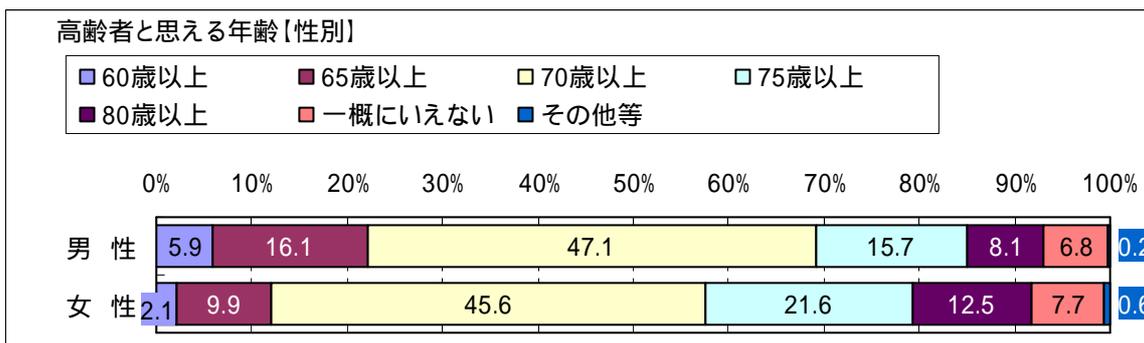
地域別では、「70歳以上」が、各地域とも概ね4割台と特段の差はない。一方、「75歳以上」では、西播磨(27.1%)、丹波(26.5%)で4分の1を超えるが、阪神南(13.4%)は1割台前半に止まっている。



性別 / 性・年代別

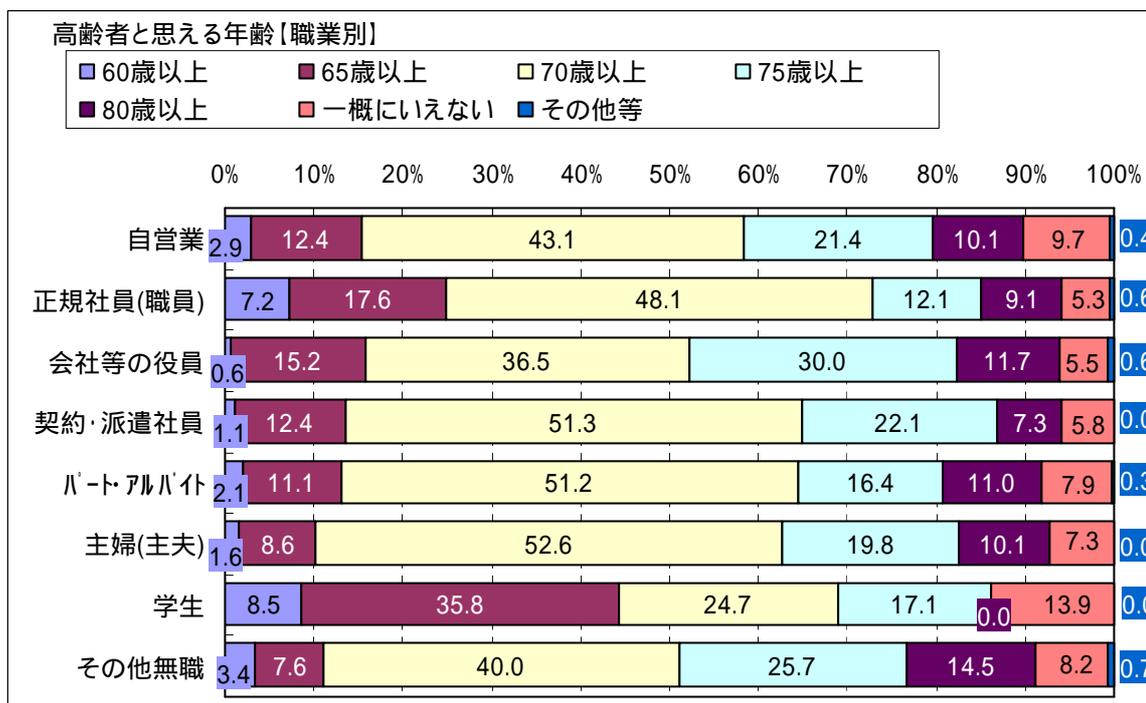
性別では、男性より女性の方が、高齢者と思う年齢が高くなっており、「65歳以上」が、男性(16.1%)で1割台半ばだが、女性(9.9%)では約1割に止まる一方、「75歳以上」では、男性(15.7%)で1割台半ばだが、女性(21.6%)では2割を超えている。

性・年代別でみると、男女とも年代が上がるほど、高齢者と思う年齢が高くなっており、「65歳以上」は、男性では40代までの年代で2割台であるが、70代以上では1割を下回り、女性では20代(18.8%)で2割近いが、50代以上の年代では1割を下回っている。一方、「75歳以上」が、男性では60代以上の年代では2割台と多く、女性でも50代以上の年代で2割以上と多くなっている。



職業別

職業別では、「65歳以上」は1割前後の職業が多いが、学生(35.8%)では3割台半ばである。「75歳以上」では、2割前後の職業が多いが、会社等の役員(30.0%)で3割に及ぶ。

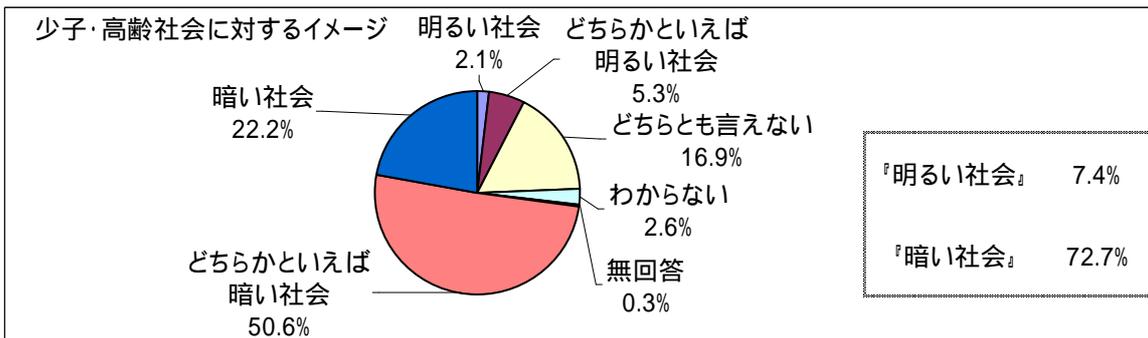


(3) 少子・高齢社会に対するイメージ

問3 あなたは、少子・高齢社会について、どのようなイメージをお持ちですか。次の中から1つ選んで番号に印をつけて下さい。

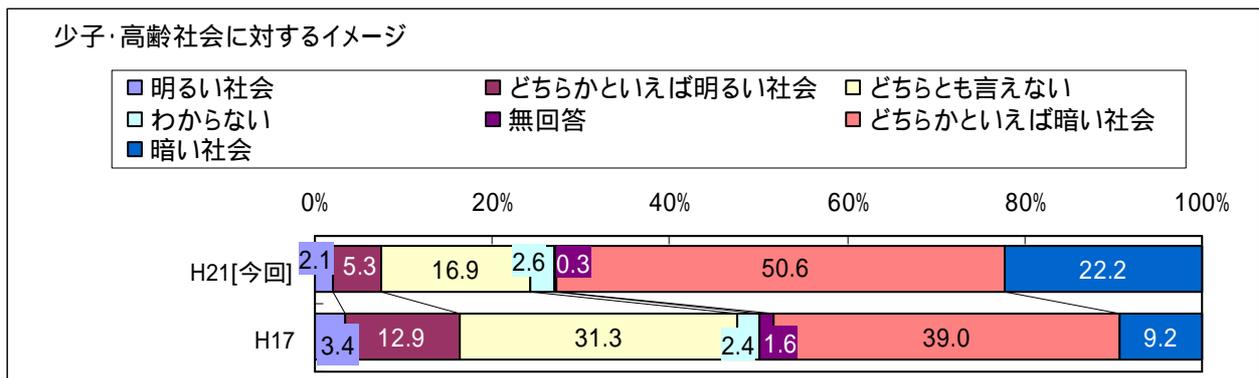
- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1 明るい社会である | 2 どちらかといえば明るい社会である |
| 3 どちらかといえば暗い社会である | 4 暗い社会である |
| 5 どちらとも言えない | 6 わからない |

少子・高齢社会に対するイメージでは、「どちらかといえば暗い社会」(50.6%)が5割に及び、これに「暗い社会」(22.2%)を合わせた『暗い社会』(72.7%)のイメージは、7割を超えている。一方、「明るい社会」(2.1%)と「どちらかといえば明るい社会」(5.3%)を合わせた『明るい社会』(7.4%)のイメージは1割を下回る。



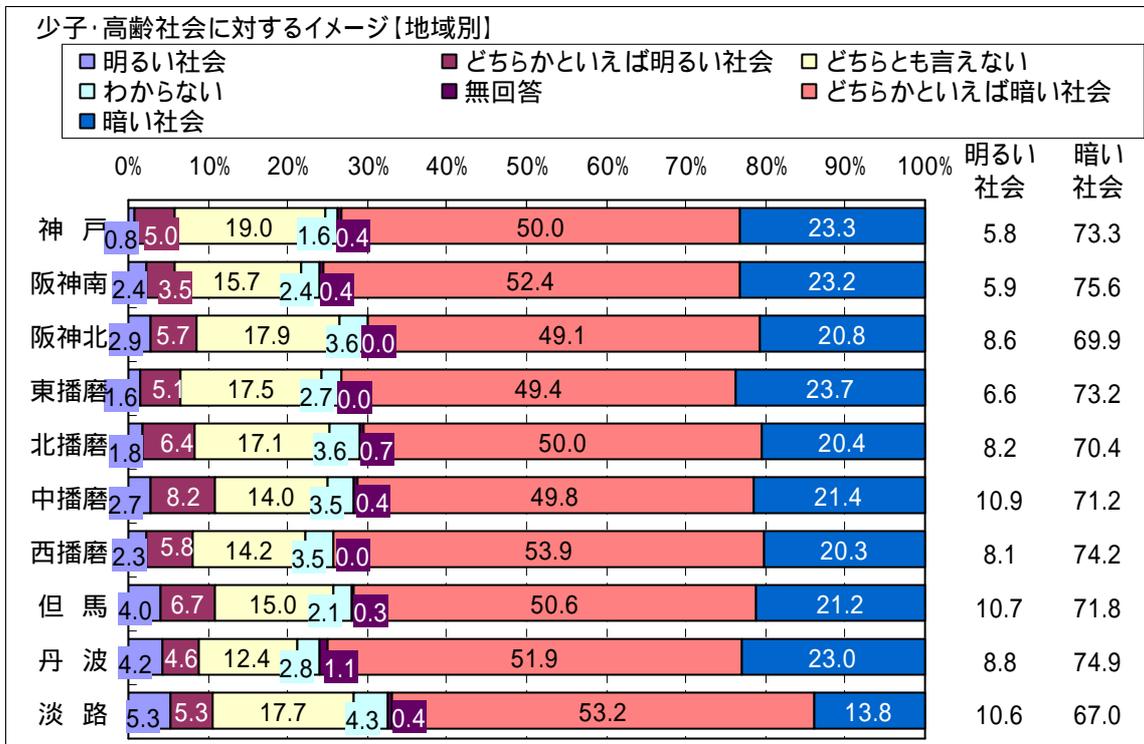
【参考：平成17年の類似調査との比較】

調査地域(対象地域はともに県内)や調査対象数、設問文の表現や選択肢の順番など異なる部分があるが、参考までに、平成17年に(財)21世紀ヒューマンケア研究機構が実施した調査結果と比較した。



地域別

地域別でみると、『明るい社会』は、中播磨(10.9%)、但馬(10.7%)、淡路(10.6%)の3地域で1割を超えている。一方、『暗い社会』は、阪神南(75.6%)、丹波(74.9%)、西播磨(74.2%)の3地域が7割台半ばと若干多くなっている。

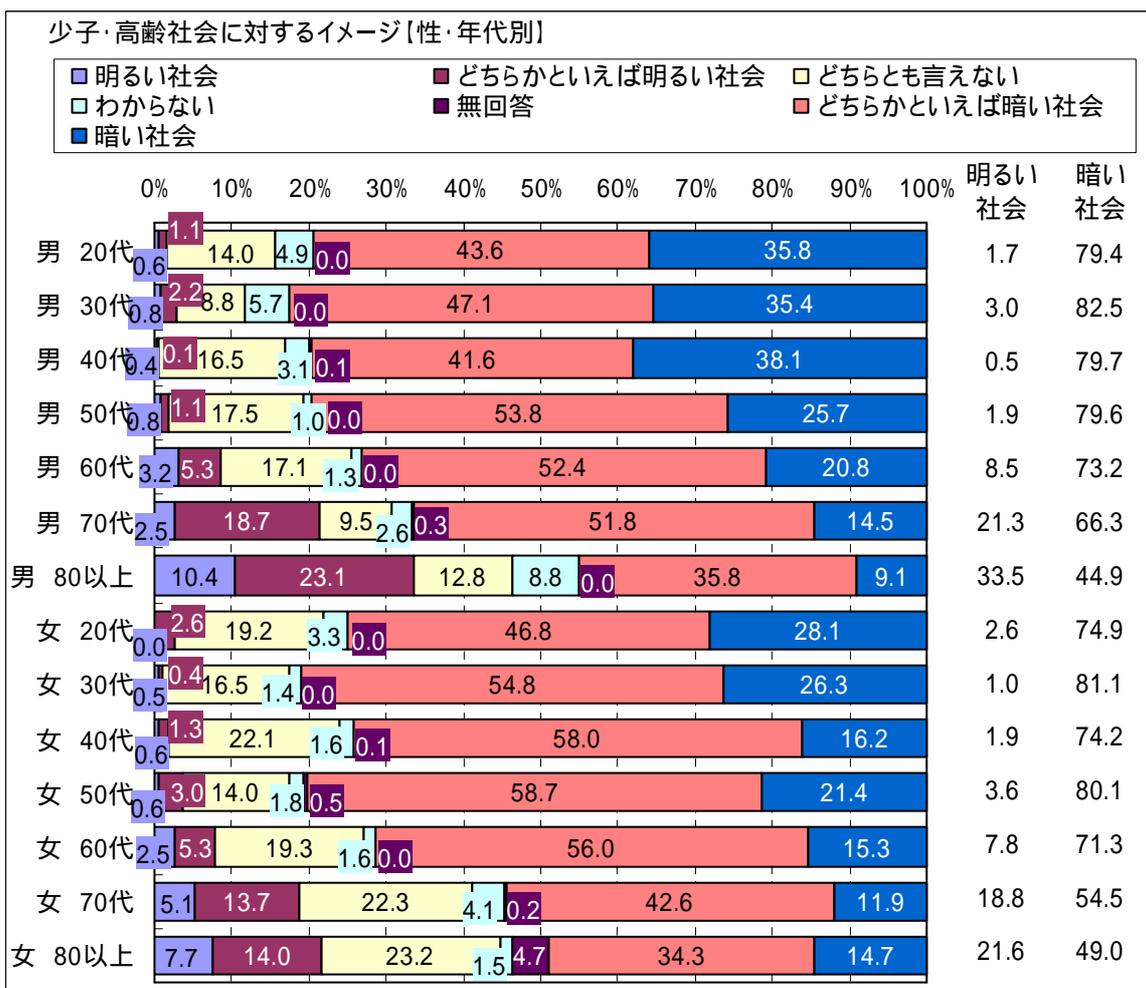
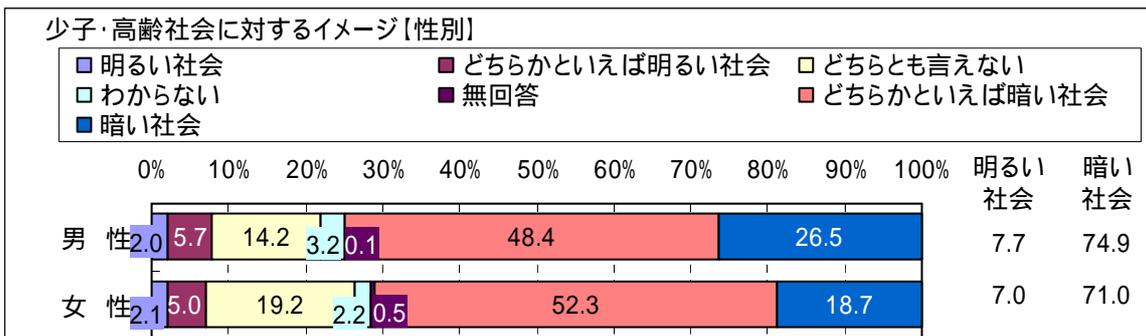


性別 / 性・年代別

性別では、女性(71.0%)より男性(74.9%)で『暗い社会』がやや多いが、男女で特段の差はみられない。

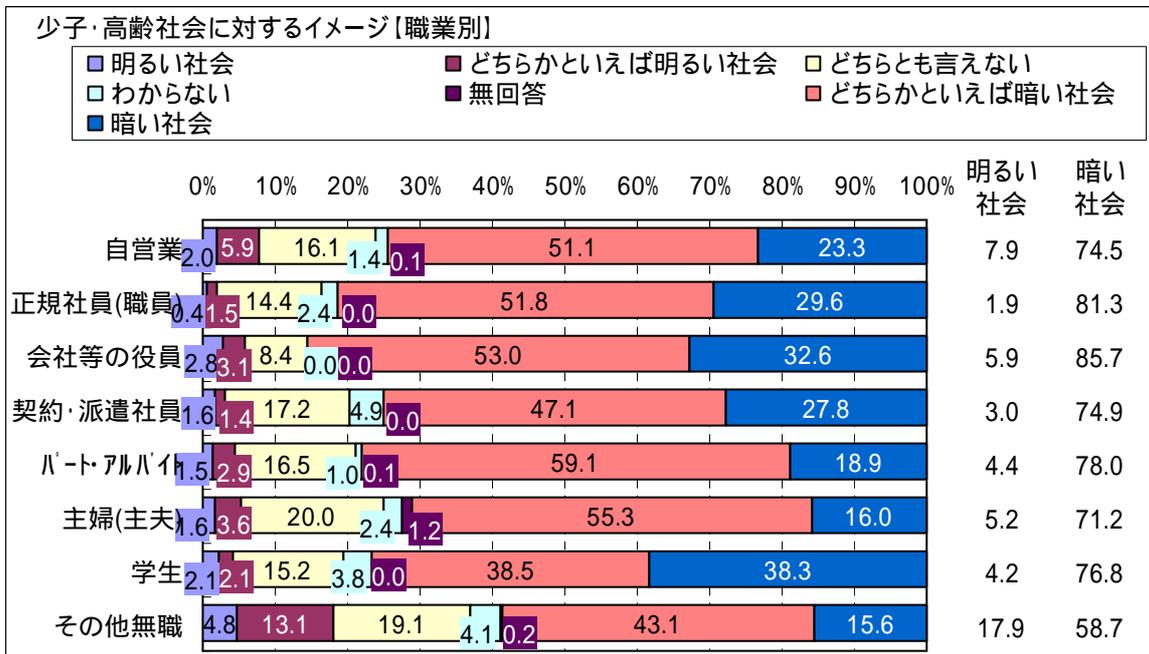
性・年代別で見ると、『明るい社会』は、男女とも60代までの年代では1割を下回るが、男性70代(21.3%)、女性70代(18.8%)、女性80歳以上(21.6%)で2割前後となっており、男性80歳以上(33.5%)では3割を超えている。

一方、『暗い社会』は、男女とも60代までの年代では7割を超えるが、80歳以上(男44.9%、女49.0%)では5割を下回っている。



職業別

職業別では、『明るい社会』が、1割を下回る職業が多い中、その他無職(17.9%)で2割近くある。逆に、『暗い社会』では、その他無職(58.7%)で6割近くに止まるが、他の職業では7割(71.2%)～8割台半ば(85.7%)となっている。

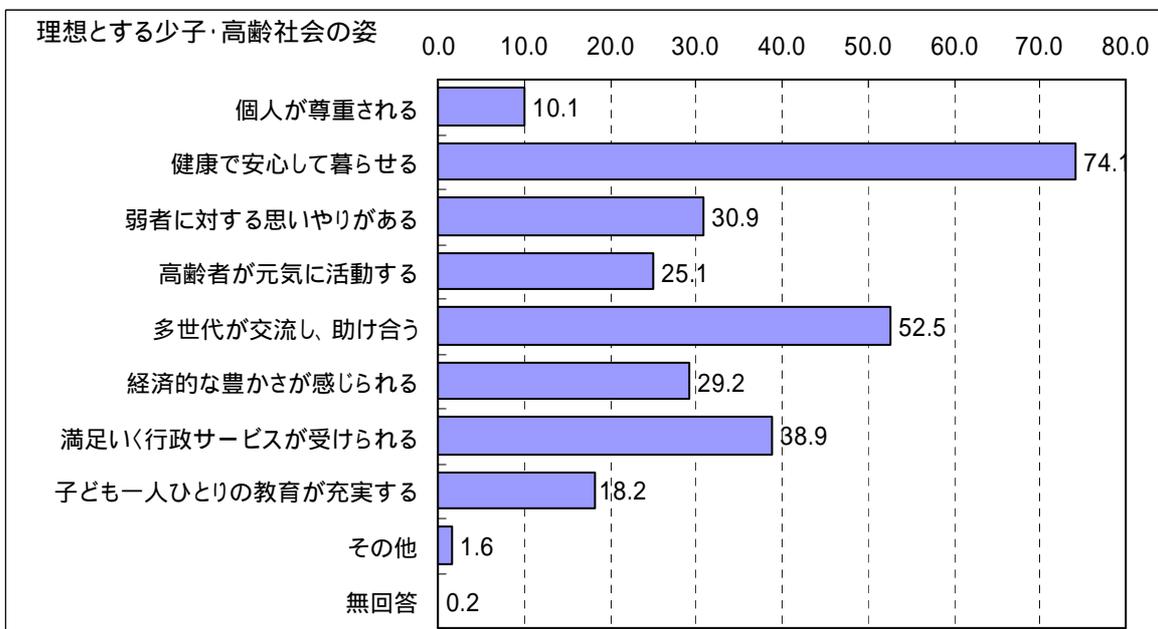


(4)理想とする少子・高齢社会の姿

問4 あなたは、少子・高齢社会をどのような社会にするべきだと思いますか。あなたのイメージに近いものを、次の中から3つ選んで番号に 印をつけて下さい。

- 1 個人が尊重される社会
- 2 健康で安心して暮らせる社会
- 3 弱者に対する思いやりがある社会
- 4 高齢者が元気に活動する社会
- 5 子どもから高齢者までの多世代が交流し、助け合う社会
- 6 経済的な豊かさが感じられる社会
- 7 満足いく行政サービスが受けられる社会
- 8 子ども一人ひとりの教育が充実する社会
- 9 その他

理想とする少子・高齢社会の姿では、「健康で安心して暮らせる」(74.1%)が7割台半ばと最も多く、「多世代が交流し、助け合う」(52.5%)が5割強、「満足いく行政サービスが受けられる」(38.9%)が4割弱で続く。一方、「個人が尊重される」(10.1%)は約1割である。



地域別

各項目とも地域間で大きな差は見られないが、「満足いく行政サービスが受けられる」と「経済的な豊かさが感じられる」の2項目で10ポイントを超える地域差が生じている。

「満足いく行政サービスが受けられる」は、多くの地域で4割前後だが、丹波(29.0%)では3割を下回る。「経済的な豊かさが感じられる」では、3割前後の地域が多いが、淡路(37.6%)で3割台後半である。

理想とする少子・高齢社会の姿【地域別】										
	最大値					最小値				(%)
	1 個人が尊重される	2 健康で安心して暮らせる	3 弱者に対する思いやりがある	4 高齢者が元気に活動する	5 多世代が交流し、助け合う	6 経済的な豊かさが感じられる	7 満足いく行政サービスが受けられる	8 子ども一人ひとりの教育が充実する	9 その他	
全 県	10.1	74.1	30.9	25.1	52.5	29.2	38.9	18.2	1.6	
地域別										
神 戸	7.4	74.0	29.1	27.5	54.3	29.5	39.1	19.8	1.6	
阪神南	12.2	71.3	29.5	24.0	53.1	27.2	37.0	21.7	2.8	
阪神北	13.3	75.6	32.3	25.1	55.2	27.2	39.8	16.8	1.4	
東播磨	9.7	77.0	35.8	23.3	48.2	29.2	42.4	16.0	0.4	
北播磨	12.1	74.3	27.5	21.4	53.9	31.8	38.2	13.6	2.1	
中播磨	9.7	72.4	35.0	26.8	47.1	28.8	38.1	17.1	1.6	
西播磨	7.4	75.5	28.7	22.3	53.9	33.5	42.9	17.7	0.6	
但 馬	10.7	75.8	27.0	25.2	55.8	27.0	34.0	12.3	1.8	
丹 波	15.5	75.6	33.6	21.2	53.4	33.9	29.0	17.3	1.4	
淡 路	8.2	72.3	28.0	22.7	49.3	37.6	38.7	16.0	1.1	
地域間の差	8.2	5.8	8.8	6.3	8.7	10.6	13.9	9.4	2.4	

性別、性・年代別

性別では、「満足いく行政サービスが受けられる」で女性(43.2%)が男性(33.7%)を9.5ポイント上回るが、他の項目では大きな差はみられない。

性・年代別でみると、全県集計で1位の「健康で安心して暮らせる」は、男女とも、7割台の年代が多いが、男性では、40代(81.0%)で8割を超える一方、20代(60.3%)は6割に止まり20ポイントを超える差が生じている。逆に、女性では、40代(68.7%)では7割弱と最も少ない80歳以上(65.1%)に次ぐ水準となっている。

このほか、男女とも「子ども一人ひとりの教育が充実する」(男23.0ポイント、女21.8ポイント)が、男性で「高齢者が元気に活動する」(23.8ポイント)が、年代間で20ポイントを超える差が生じている。

理想とする少子・高齢社会の姿【性別】

(%)

	1 個人が尊重 される	2 健康で安心 して暮らせ る	3 弱者に対す る思いやり がある	4 高齢者が元 気に活動す る	5 多世代が交 流し、助け 合う	6 経済的な豊 かさが感じ られる	7 満足いく行 政サービス が受けられ る	8 子ども一人 ひとりの教 育が充実す る	9 その他
全 県	10.1	74.1	30.9	25.1	52.5	29.2	38.9	18.2	1.6
性別									
男 性	10.6	74.7	30.3	27.6	51.4	30.3	33.7	21.3	1.9
女 性	9.7	73.7	31.3	23.1	53.5	28.4	43.2	15.7	1.3
性別間の差	0.9	0.9	1.0	4.5	2.1	1.9	9.5	5.5	0.6

理想とする少子・高齢社会の姿【性・年代別、男性】

(%)

	1 個人が尊重 される	2 健康で安心 して暮らせ る	3 弱者に対す る思いやり がある	4 高齢者が元 気に活動す る	5 多世代が交 流し、助け 合う	6 経済的な豊 かさが感じ られる	7 満足いく行 政サービス が受けられ る	8 子ども一人 ひとりの教 育が充実す る	9 その他
全 県	10.1	74.1	30.9	25.1	52.5	29.2	38.9	18.2	1.6
性・年代別									
男 性									
20代	12.0	60.3	38.4	15.6	45.3	37.0	36.3	16.9	9.8
30代	5.3	73.4	26.9	31.2	47.2	31.1	32.5	35.0	1.5
40代	10.6	81.0	31.4	25.0	51.0	33.7	29.2	25.2	1.5
50代	10.6	76.2	32.6	23.3	55.2	29.8	42.2	11.9	0.2
60代	9.8	76.5	29.0	31.8	56.0	28.0	32.9	20.6	0.5
70代	13.6	74.7	26.5	37.9	50.2	25.7	30.5	16.0	1.7
80以上	20.2	73.1	31.3	14.1	47.8	28.5	29.1	23.7	2.4
年代間の差	14.9	20.7	11.9	23.8	10.7	11.3	13.1	23.0	9.5

理想とする少子・高齢社会の姿【性・年代別、女性】

(%)

	1 個人が尊重 される	2 健康で安心 して暮らせ る	3 弱者に対す る思いやり がある	4 高齢者が元 気に活動す る	5 多世代が交 流し、助け 合う	6 経済的な豊 かさが感じ られる	7 満足いく行 政サービス が受けられ る	8 子ども一人 ひとりの教 育が充実す る	9 その他
全 県	10.1	74.1	30.9	25.1	52.5	29.2	38.9	18.2	1.6
性・年代別									
女 性									
20代	7.8	71.9	31.6	18.1	54.4	29.3	39.5	26.9	1.8
30代	6.0	74.1	30.5	25.8	55.3	22.8	44.4	24.8	1.2
40代	10.0	68.7	31.1	26.4	57.0	25.6	44.7	18.8	4.1
50代	10.4	76.5	34.4	20.9	51.0	34.5	50.7	10.0	0.3
60代	8.2	77.6	27.3	20.5	56.0	28.3	44.5	14.4	0.1
70代	12.8	76.6	31.8	21.7	52.6	29.1	37.4	5.1	0.0
80以上	16.4	65.1	38.1	31.5	43.1	29.4	32.5	14.2	1.2
年代間の差	10.4	12.5	10.8	13.5	13.8	11.7	18.3	21.8	4.1

職業別

職業別では、「健康で安心して暮らせる」が、学生(48.4%)で4割台と他の職業(7割台)より少なく、同様に「多世代が交流し、助け合う」でも、学生(37.4%)では3割台と他の職業(5割台)より少ない。逆に、「経済的な豊かさが感じられる」は、3割前後の職業が多い中、学生(39.2%)で約4割と多く、最も少ない会社等の役員(21.3%)との差が20ポイント近く生じている。

理想とする少子・高齢社会の姿【職業別】

(%)

	1 個人が尊重 される	2 健康で安心 して暮らせ る	3 弱者に対す る思いやり がある	4 高齢者が元 気に活動す る	5 多世代が交 流し、助け 合う	6 経済的な豊 かさが感じ られる	7 満足いく行 政サービス が受けられ る	8 子ども一人 ひとりの教 育が充実す る	9 その他
全 県	10.1	74.1	30.9	25.1	52.5	29.2	38.9	18.2	1.6
職業別									
自営業	11.5	76.6	33.3	27.6	51.9	30.8	32.4	17.1	2.2
正規社員(職員)	8.9	74.4	26.3	28.6	52.5	31.4	37.0	22.0	1.7
会社等の役員	7.2	70.2	39.3	18.8	56.4	21.3	39.7	30.0	0.0
契約・派遣社員	13.0	71.8	37.3	22.5	52.4	29.0	41.9	19.1	0.4
パートアルバイト	8.3	70.8	33.0	22.4	57.3	28.3	46.2	9.8	3.3
主婦(主夫)	8.8	74.4	34.0	21.6	53.5	27.6	47.3	19.1	0.2
学生	23.6	48.4	29.0	28.2	37.4	39.2	30.4	29.9	11.6
その他無職	11.9	77.3	29.3	23.5	50.8	27.6	33.7	15.2	1.1
職業間の差	16.4	28.9	12.9	9.8	19.9	17.9	16.9	20.2	11.6

2 少子・高齢社会におけるライフスタイル

(1)少子・高齢社会での生活で重視する取組

問5 少子・高齢社会に向けて、今後あなたは、以下の活動に関してどの程度重視して取り組む予定ですか。あなたに当てはまるものを各項目とも1つずつ選んで番号に 印をつけて下さい。

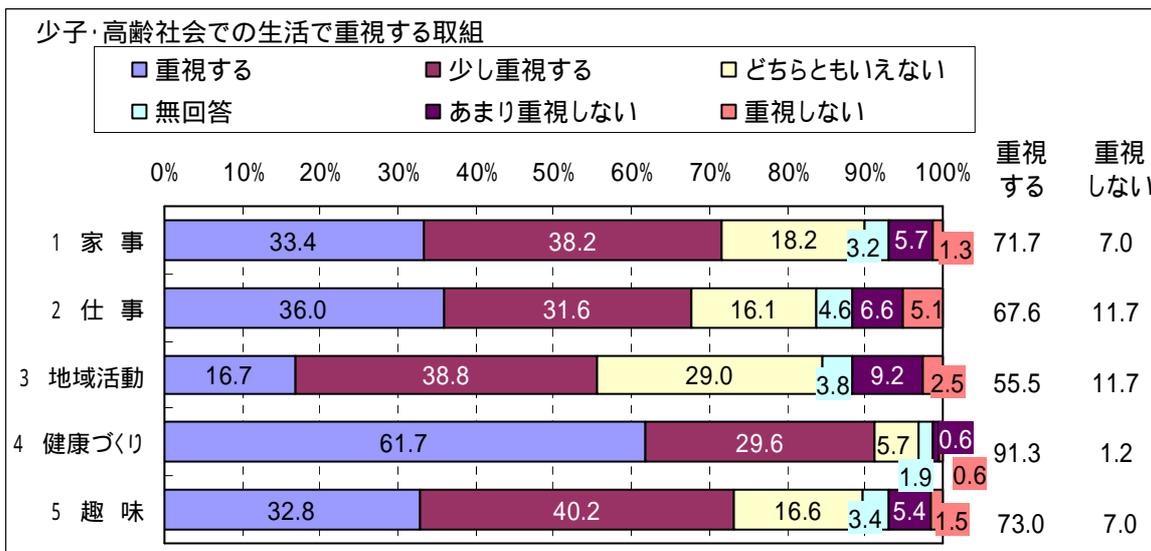
- 1 家事
- 2 仕事(職業)
- 3 地域(コミュニティ)活動
- 4 健康づくり
- 5 趣味

1：重視する 2：少し重視する 3：どちらともいえない
 4：あまり重視しない 5：重視しない

少子・高齢社会での生活で重視する取組で、『重視する』（「重視する」と「少し重視する」の合計）が最も多いのは、「健康づくり」(91.3%)で9割を超え、「趣味」(73.0%)、「家事」(71.7%)の2項目が7割台で続くが、最も少ない「地域活動」(55.5%)でも、5割台半ばとなっている。

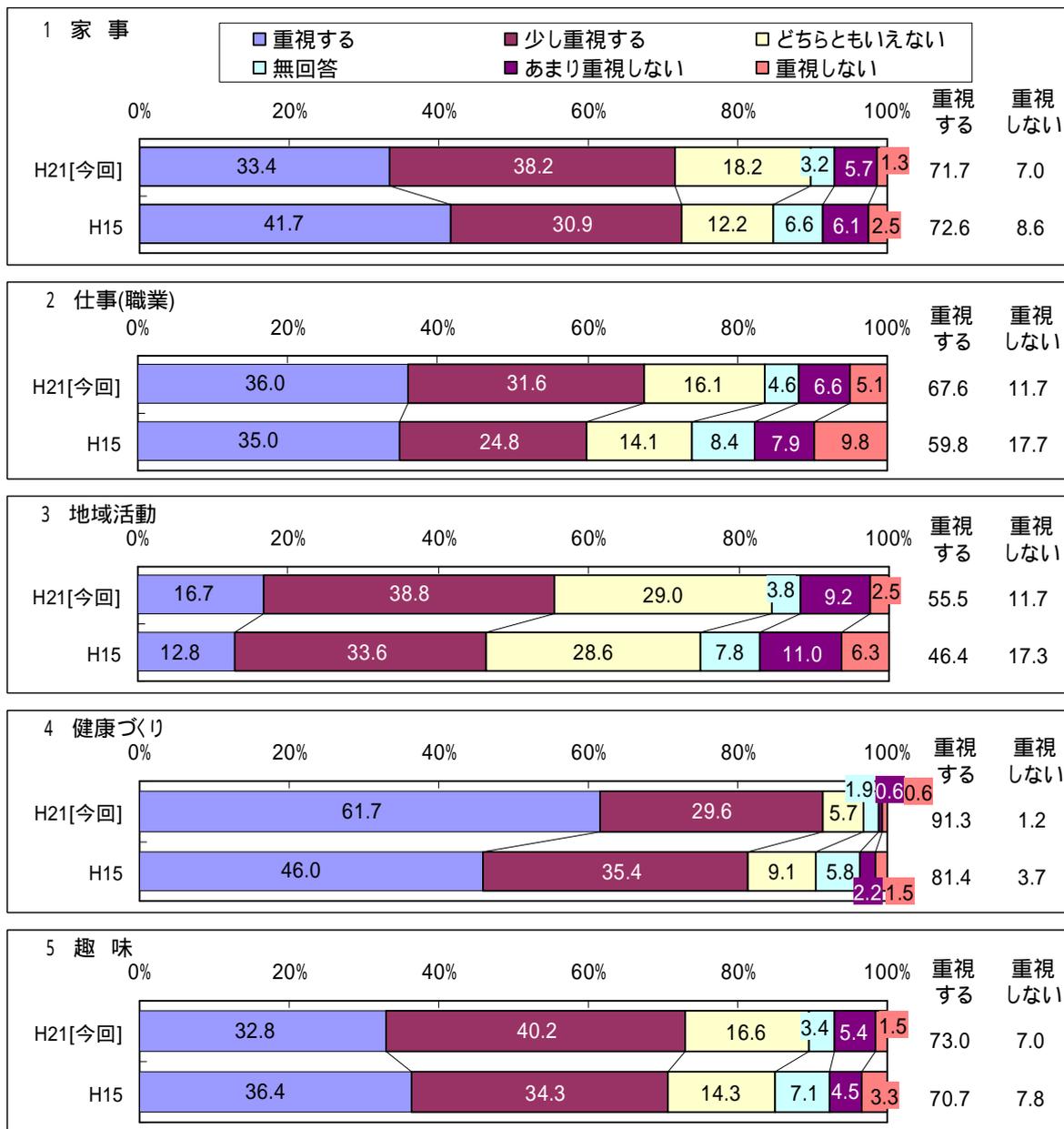
『重視しない』（「あまり重視しない」と「重視しない」の合計）は、「健康づくり」(1.2%)を除き、他の項目では1割前後である。

また、「どちらともいえない」は、「地域活動」(29.0%)で約3割と他の項目(概ね1割台)より多くなっている。



平成 15 年調査との比較

本県が平成 15 年に実施した県民意識調査での結果と比較すると、「家事」と「趣味」は、『重視する』、『重視しない』ともに前回とほぼ同じだが、「仕事(職業)」、「地域活動」、「健康づくり」が、『重視する』でそれぞれ前回より 10 ポイント近く増加し、『重視しない』で 2.5~6 ポイント減っている。

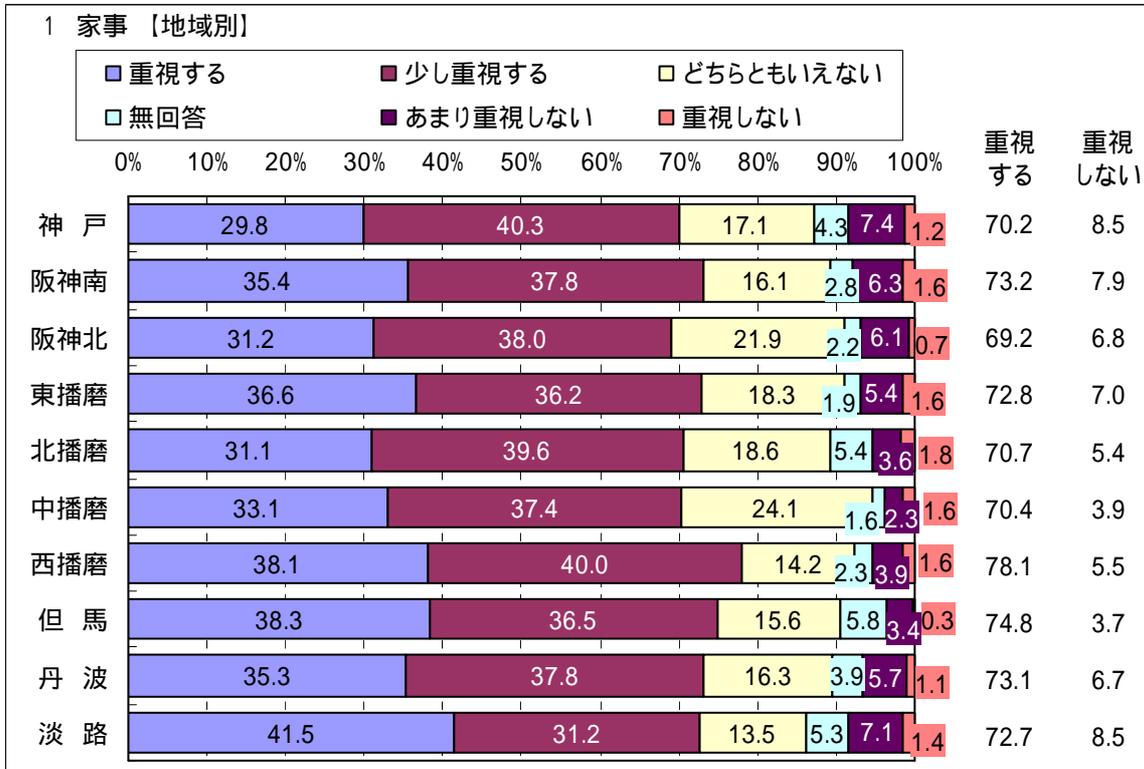


1 家事

地域別

『重視する』は、西播磨(78.1%)で最も多く、阪神北(69.2%)で最も少ないが、その差は8.9ポイントに止まっている。

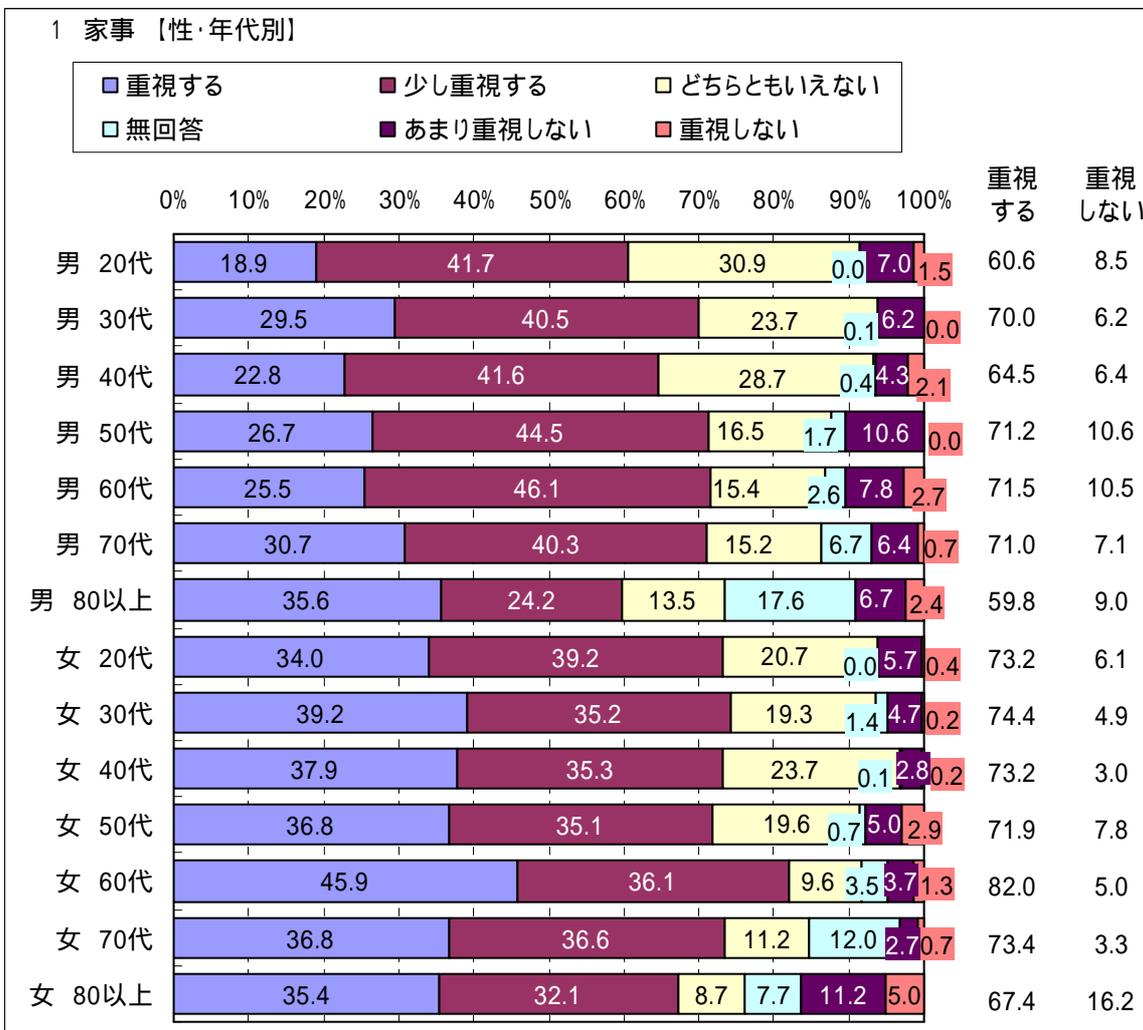
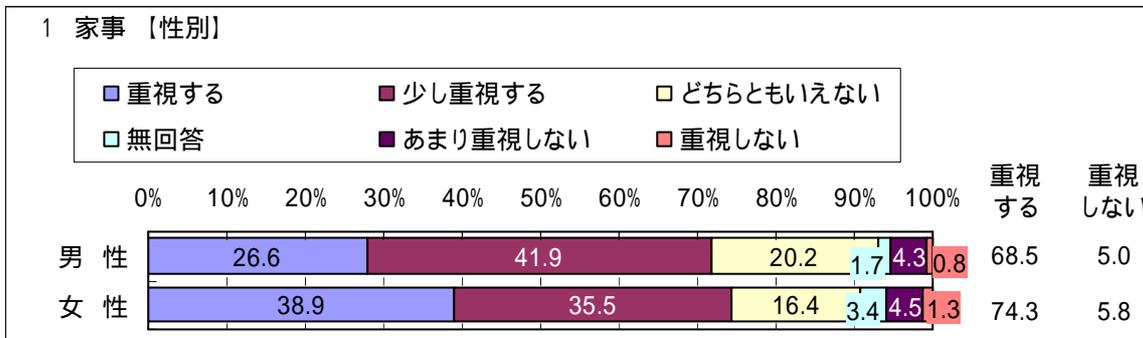
『重視しない』は、いずれの地域も1割を下回り、特段の差は生じていない。



性別、性・年代別

性別では、『重視する』が、男性(68.5%)より女性(74.3%)でやや多くなっている。

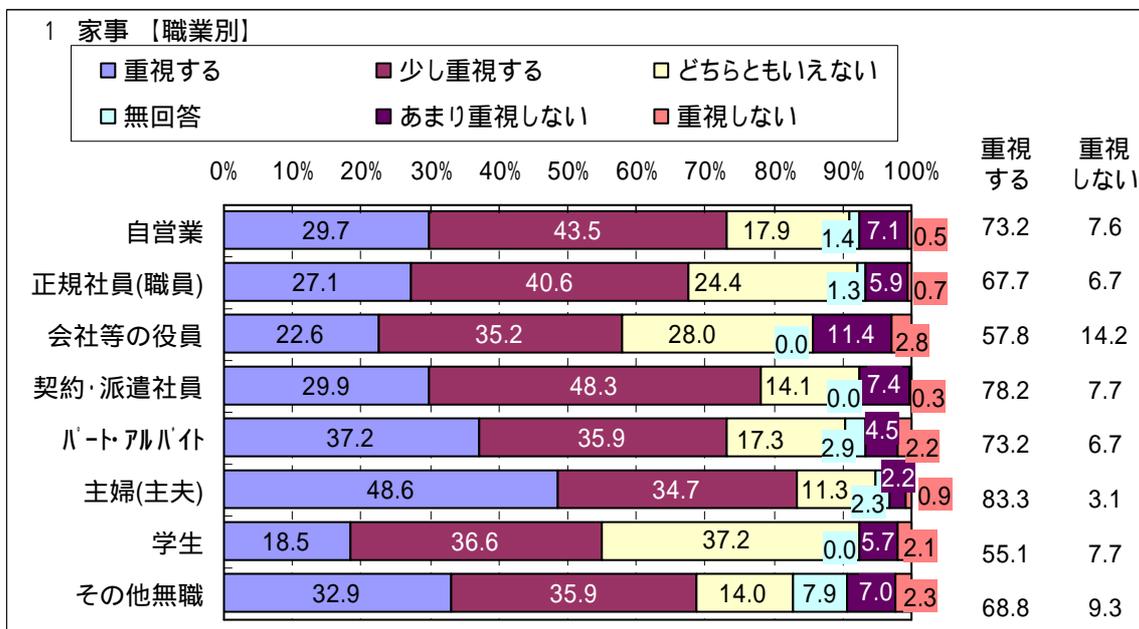
性・年代別で見ると、『重視する』は、男性では、20代(60.6%)、80歳以上(59.8%)で約6割と他の年代(概ね7割前半)より少ない。一方、女性では、男性同様7割前半の年代が多いが、60代(82.0%)で8割を超えるが、80歳以上(67.4%)では6割後半に止まっている。



職業別

職業別では、『重視する』は、主婦(主夫)(83.3%)で8割を超え、契約・派遣社員(78.2%)で7割台後半であるが、学生(55.1%)と会社等の役員(57.8%)では5割台に止まる。

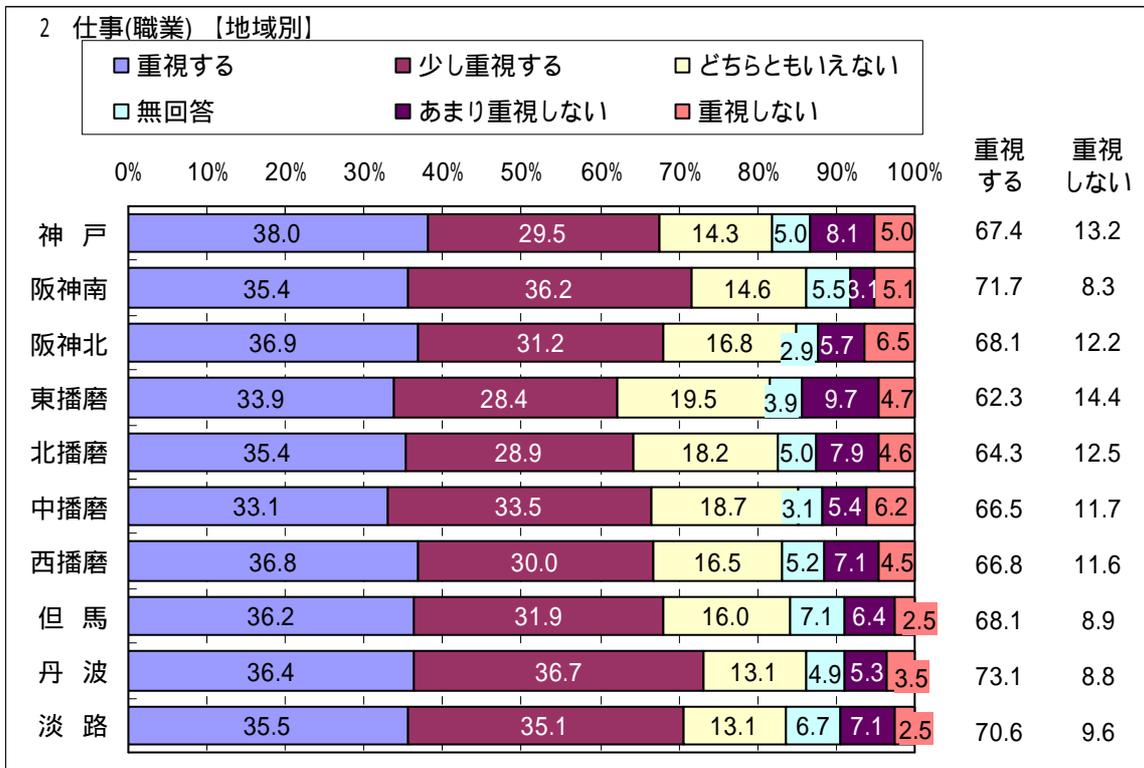
一方、『重視しない』は、1割を下回る職業が多い中、会社等の役員(14.2%)のみ1割を超えている。



2 仕事(職業)

地域別

『重視する』は、丹波(73.1%)、阪神南(71.7%)、淡路(70.6%)で7割を超えている。最も少ないのは東播磨(62.3%)で、丹波と10.8ポイントの差が生じている。一方、『重視しない』は、東播磨(14.4%)、神戸(13.2%)、北播磨(12.5%)など6地域で1割を超えている。

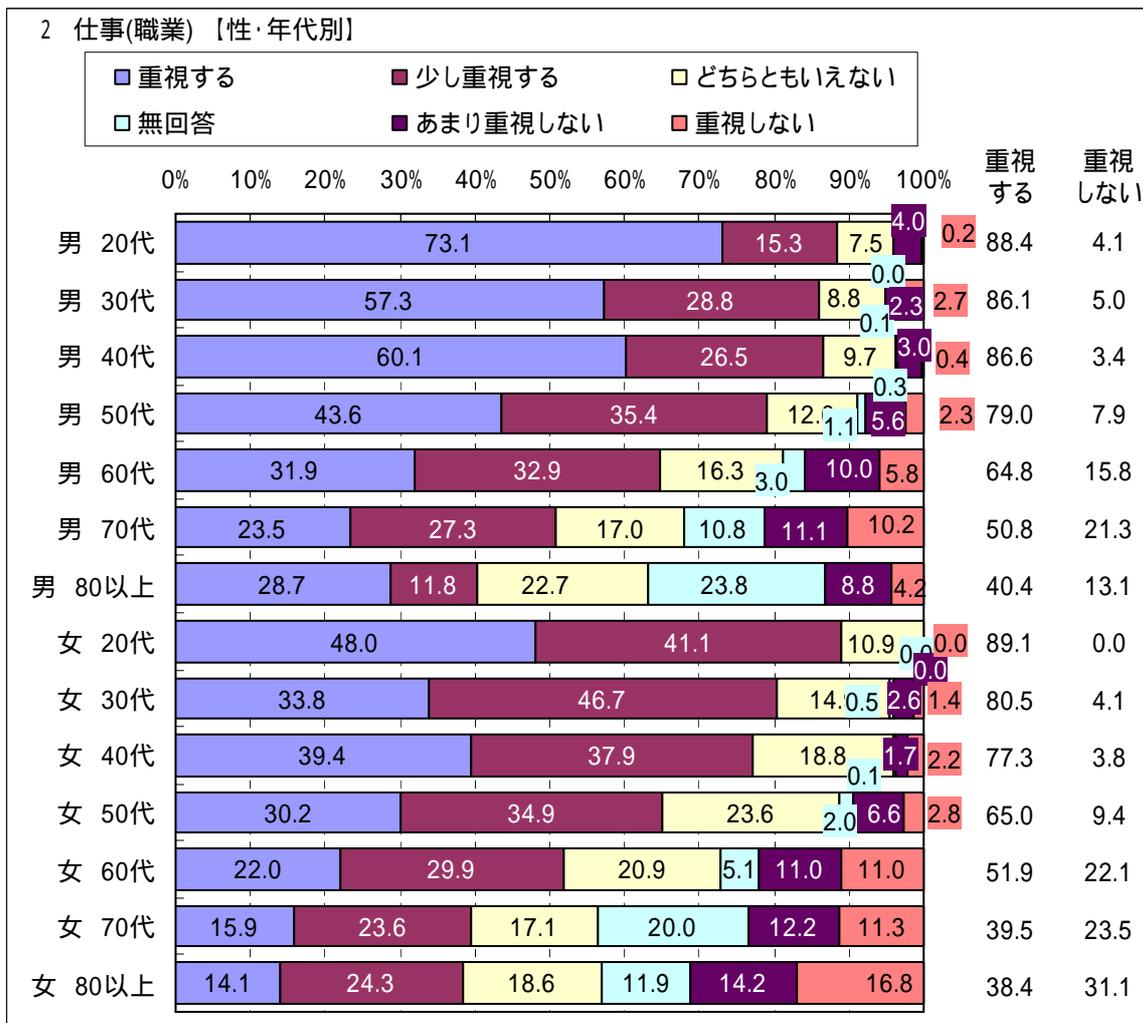
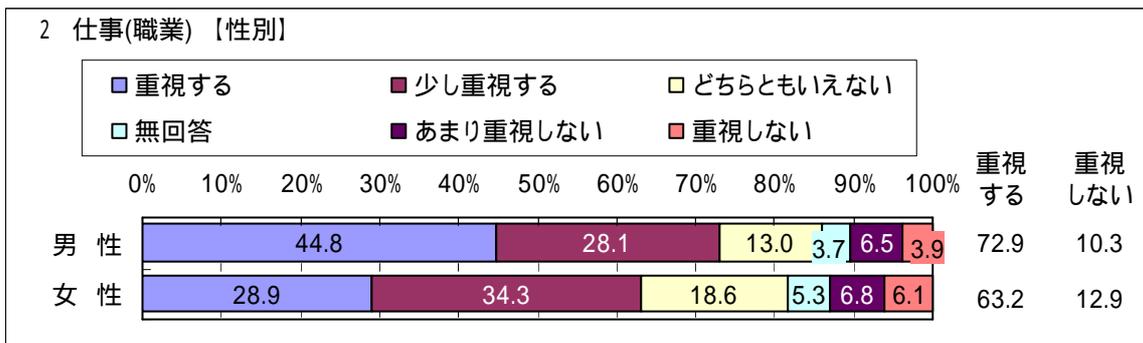


性別、性・年代別

性別では、『重視する』は、女性(63.2%)より男性(72.9%)が多い。

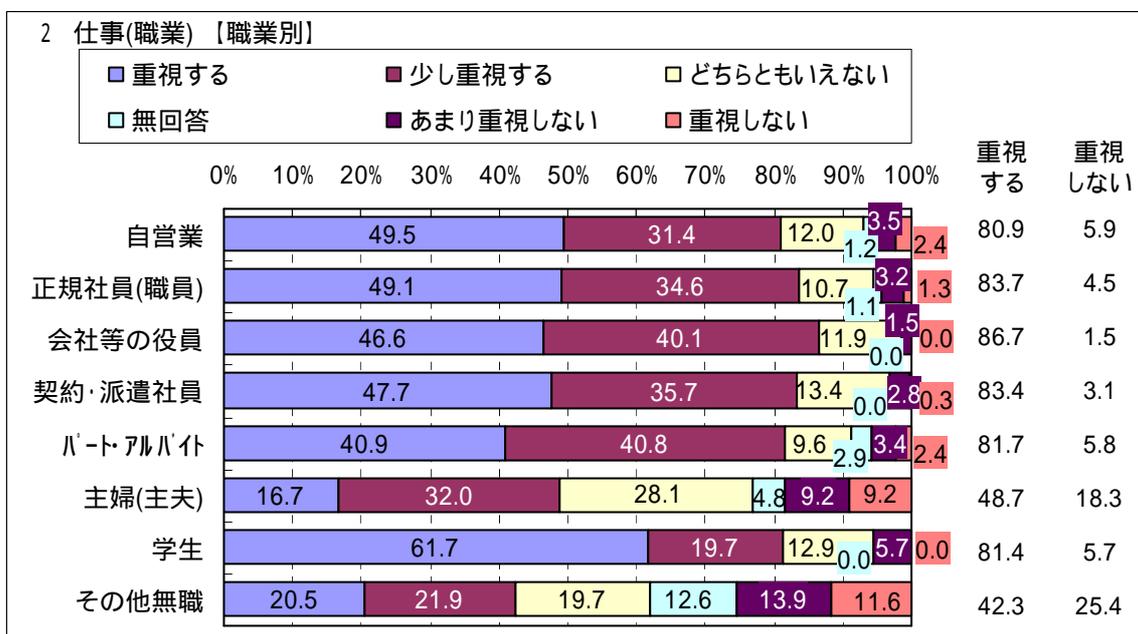
性・年代別で見ると、『重視する』は、男女とも20代(男88.4%、女89.1%)をピークに、年代が上がるほど減少する傾向にあり、男性では80歳以上(40.4%)、女性では70代(39.5%)、80歳以上(38.4%)で約4割となっている。

一方、『重視しない』は、男女とも50代までは1割を下回るが、60代以上は1割強(13.1%)～3割強(31.1%)となっている。



職業別

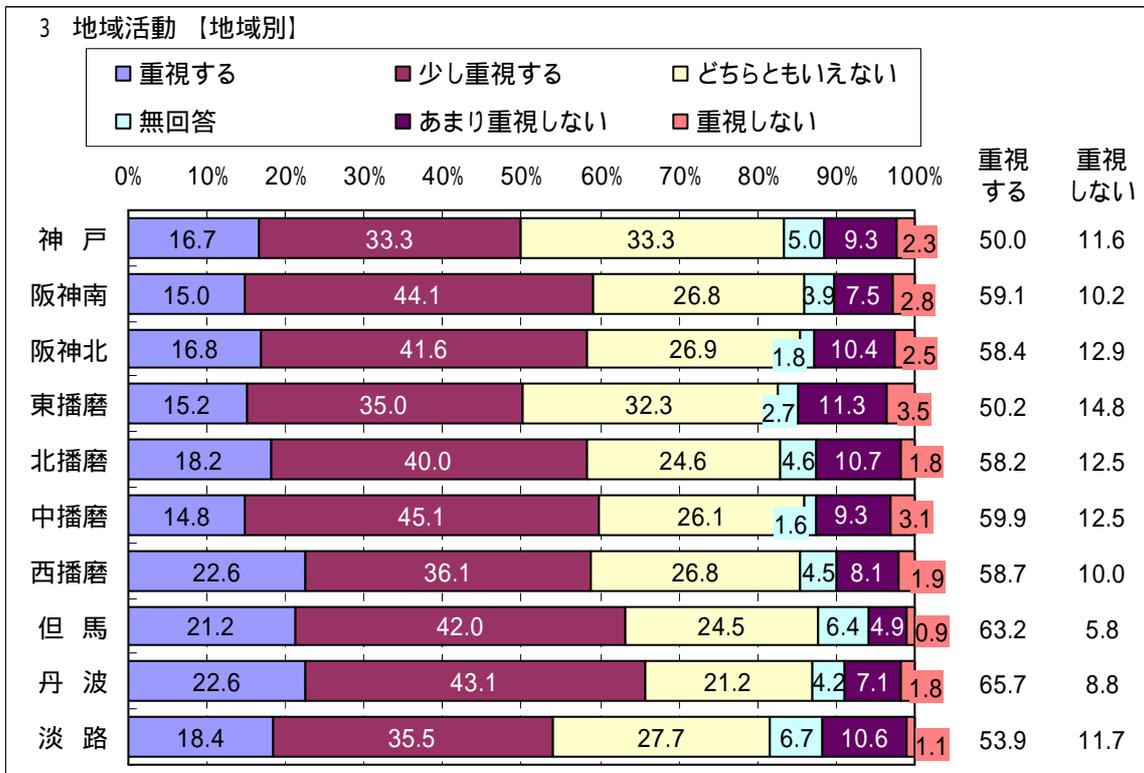
職業別では、『重視する』は、主婦(主夫)(48.7%)とその他無職(42.3%)で4割台に止まるが、他の職業では8割台となっている。また『重視しない』は、その他無職(25.4%)、主婦(主夫)(18.3%)以外の職業では、1割を下回る。



3 地域活動

地域別

『重視する』は、丹波(65.7%)と但馬(63.2%)で6割を超えるが、他の地域は5割台となっている。
逆に、『重視しない』は、但馬(5.8%)と丹波(8.8%)のみ1割を下回る。

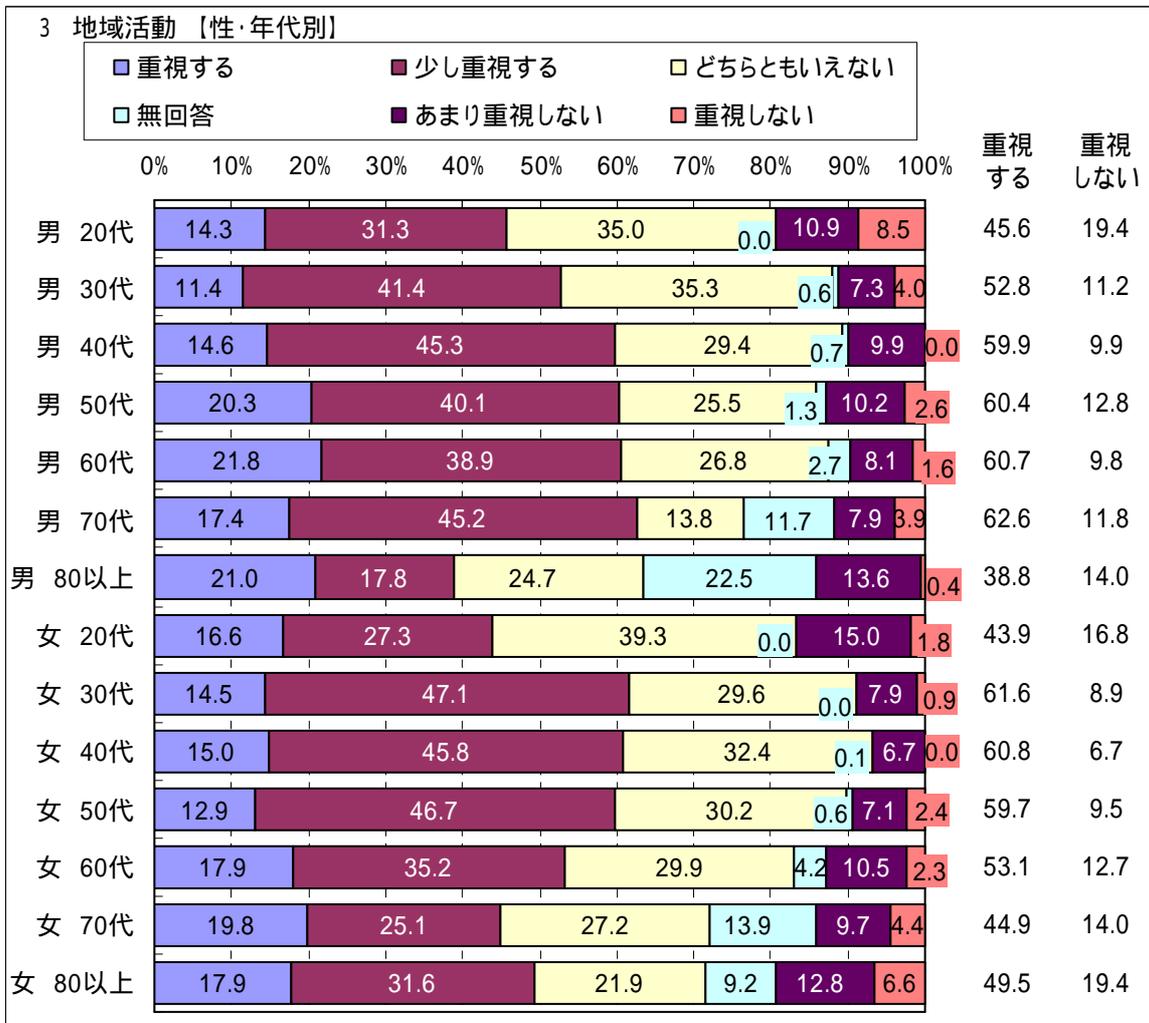
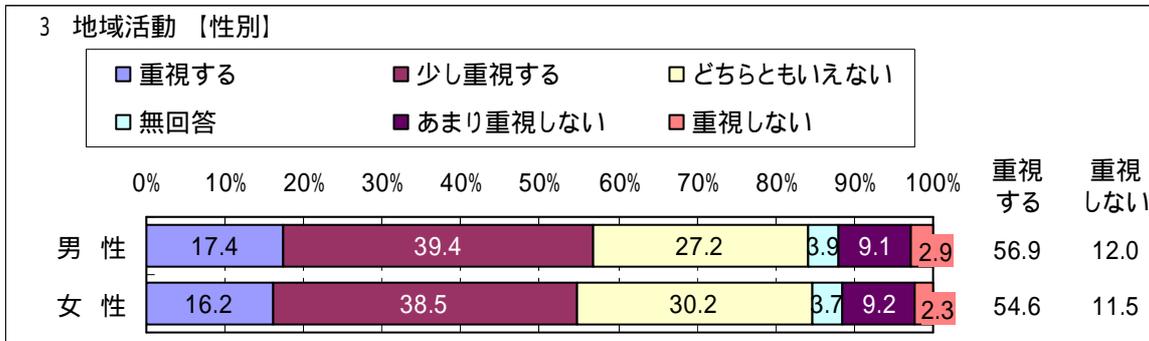


性別、性・年代別

性別で、特段の差はみられない。

性・年代別で見ると、『重視する』は、男性で40～70代、女性で30～50代で約6割と多くなっている。

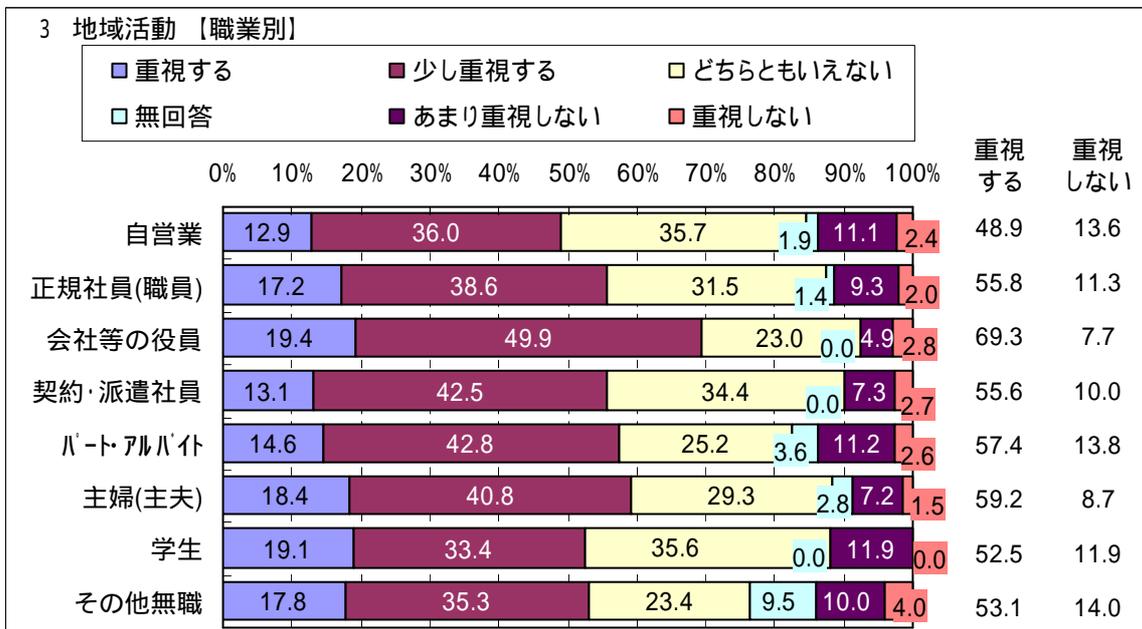
一方、『重視しない』は、男女とも20代(男19.4%、女16.8%)と80歳以上(男14.0%、女19.4%)で多くなっている。



職業別

職業別では、『重視する』は、5割台の職業が多い中、会社等の役員(69.3%)で約7割である一方、自営業(48.9%)では5割を下回る。

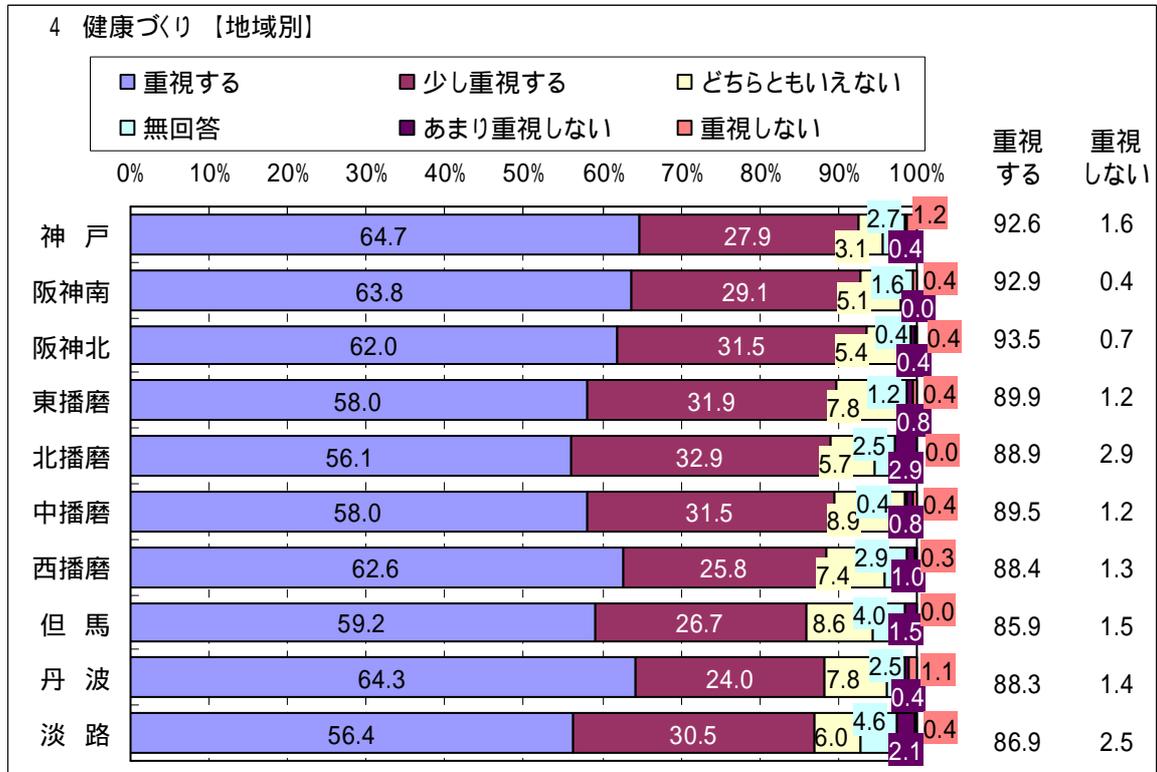
一方、『重視しない』では、いずれの職業でも概ね1割前後であり、職業間で大きな差は見られない。



4 健康づくり

地域別

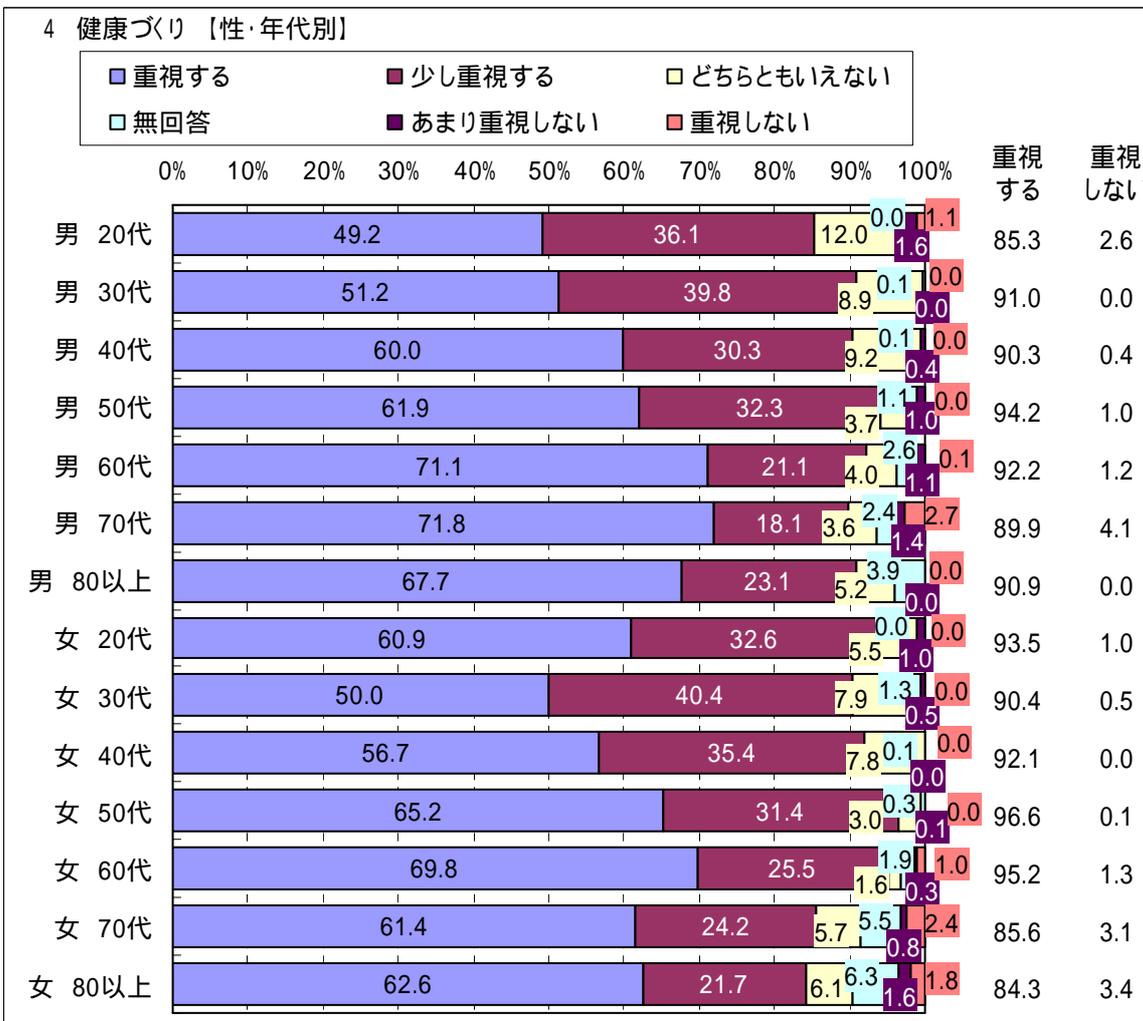
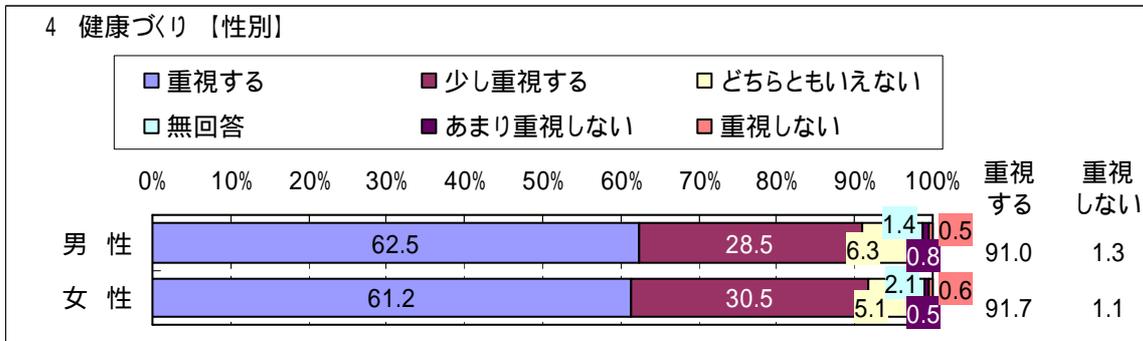
『重視する』は、最も多い阪神北(93.5%)と最も少ない但馬(85.9%)の差が 7.6 ポイントに止まっており、地域間で特段の差はみられない。



性別、性・年代別

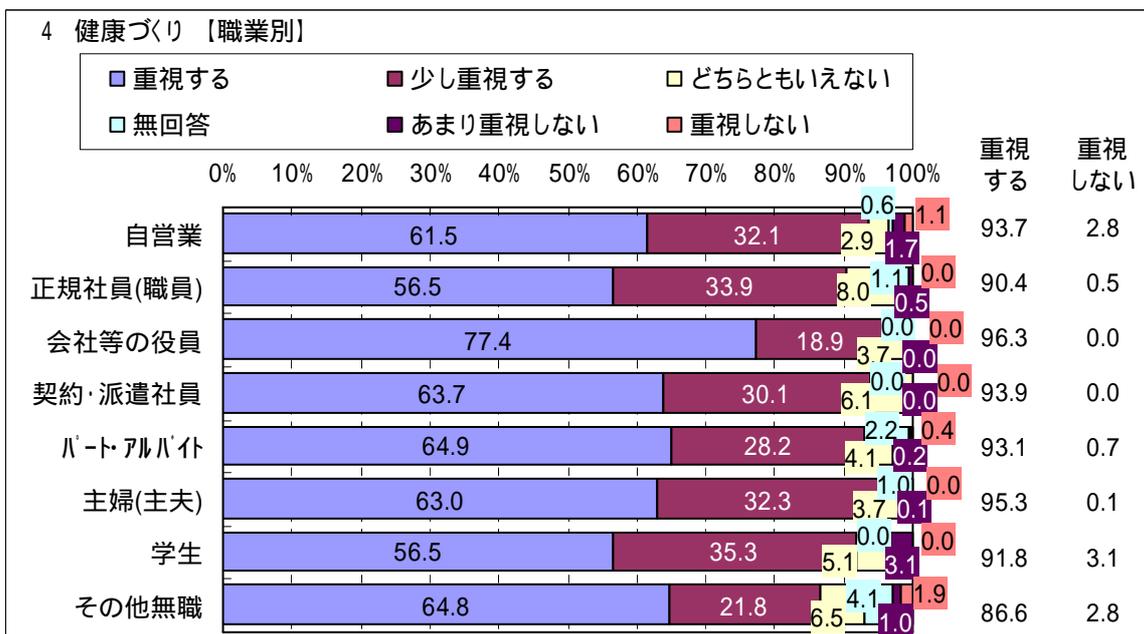
性別で、特段の差はみられない。

性・年代別で見ると、『重視する』、『重視しない』とも特段の差はみられないが、「重視する」では、男性で60代以上、女性で50代、60代で6割台半ば(65.2%)～7割台前半(71.8%)と多くなっている。



職業別

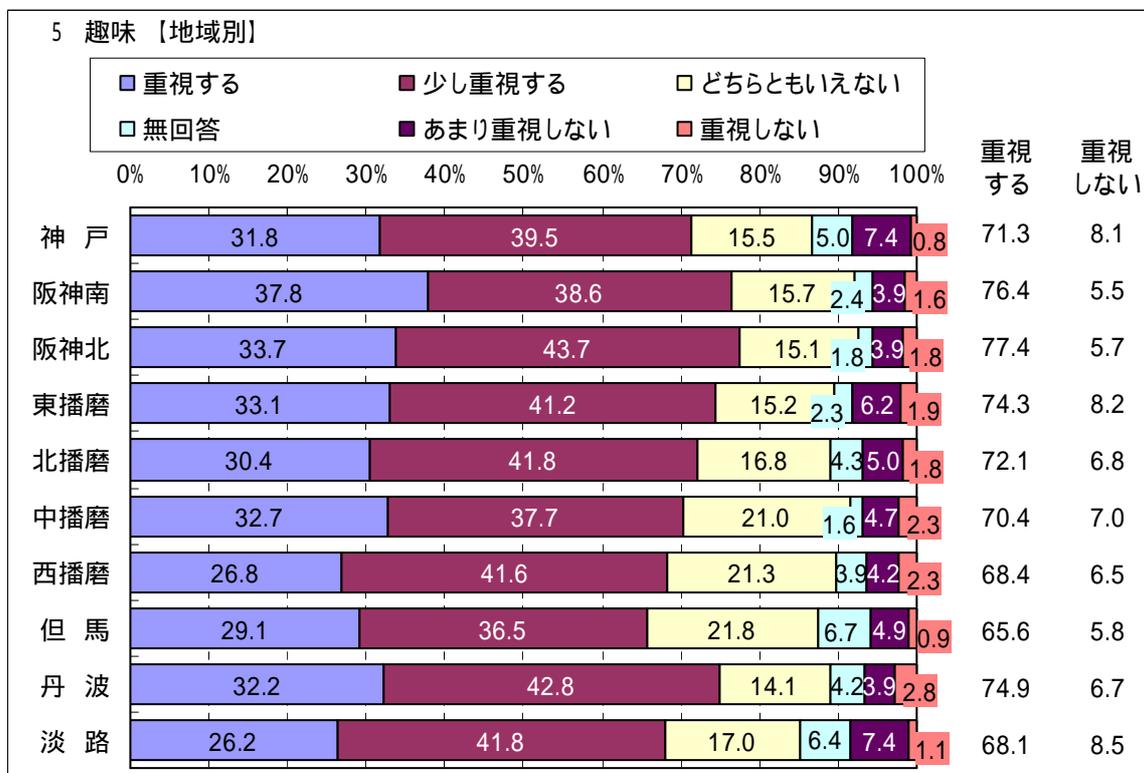
職業別では、『重視する』は、その他無職(86.6%)を除き、いずれの職業でも9割台と特段の差はみられない。



5 趣味

地域別

『重視する』は、阪神北(77.4%)と阪神南(76.4%)で7割台半ばを超えているが、最も少ない但馬(65.6%)を始め、淡路(68.1%)、西播磨(68.4%)では7割を下回っている。

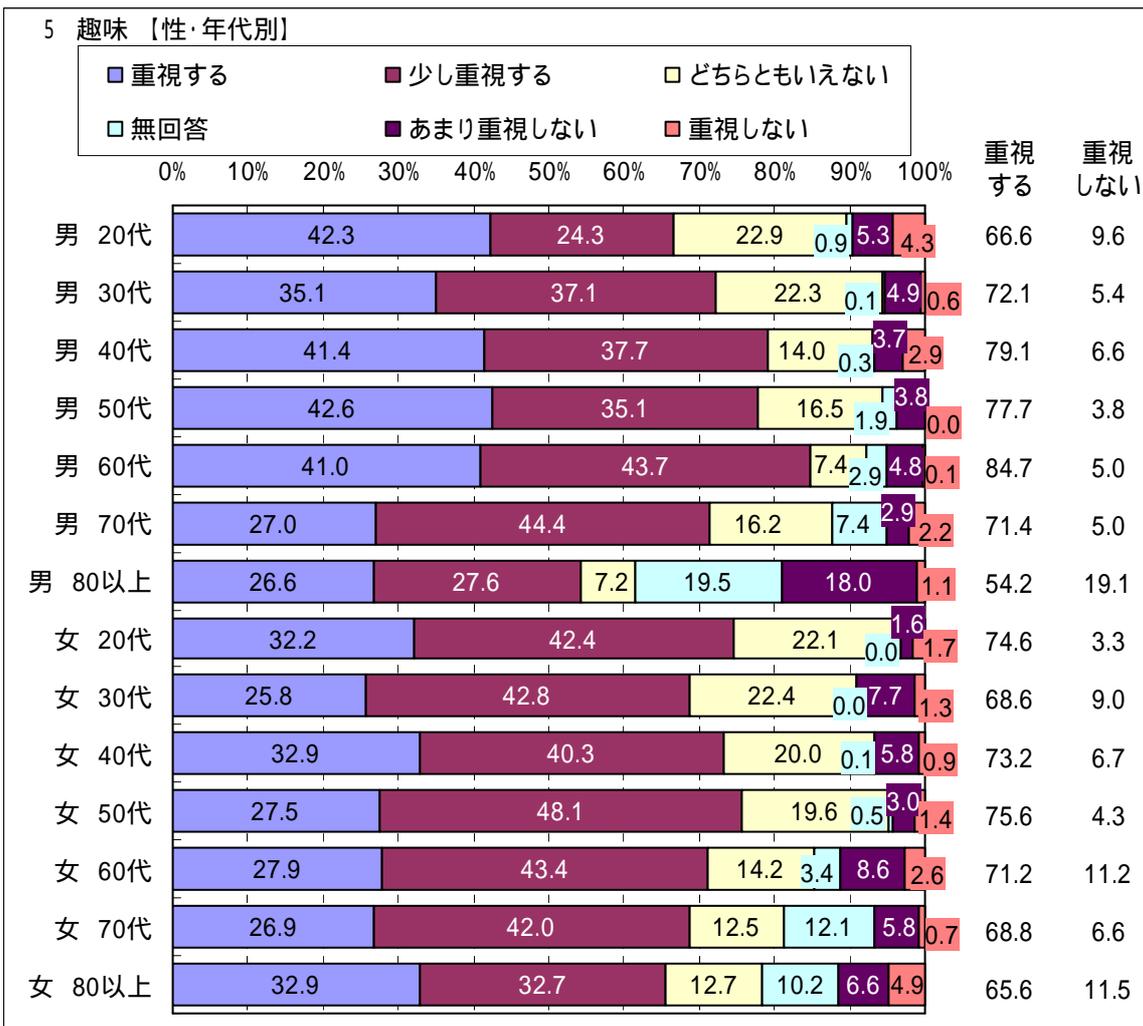
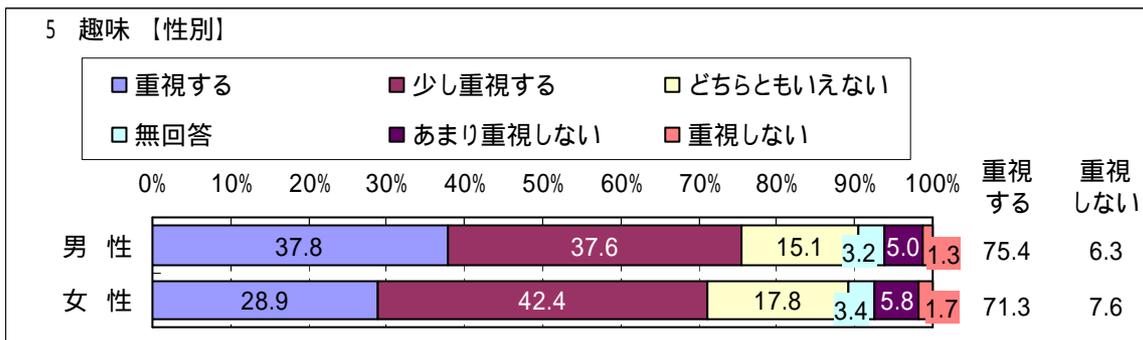


性別、性・年代別

性別では、『重視する』が女性(71.3%)より男性(75.4%)でやや多い程度で、特段の差はみられない。

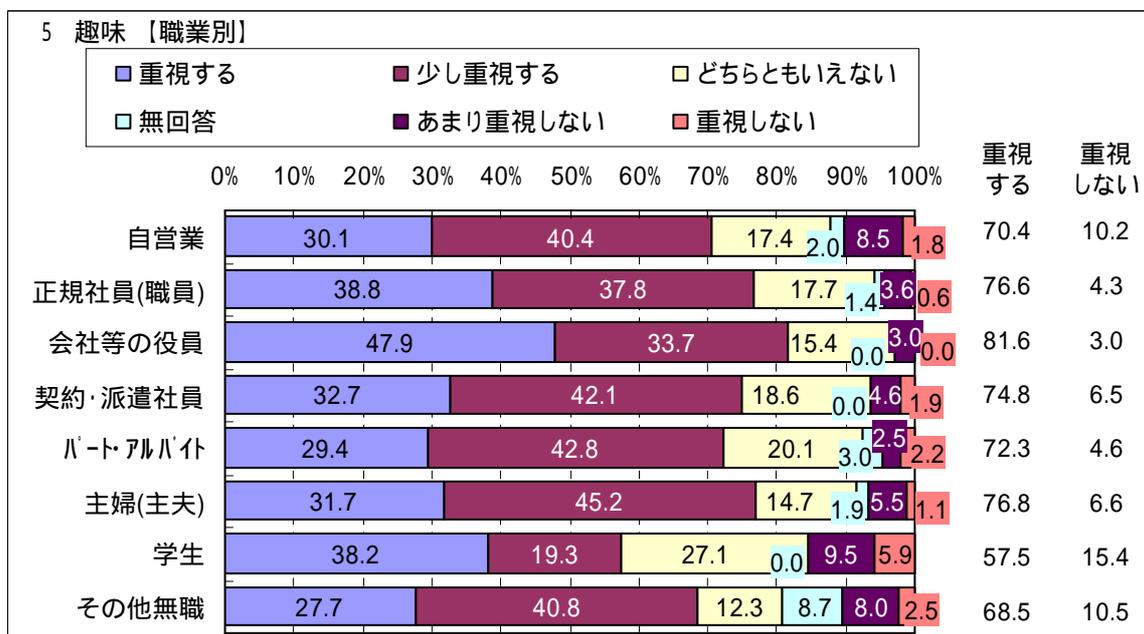
性・年代別では、『重視する』は、男性では、最も多い60代(84.7%)と最も少ない80歳以上(54.2%)で30.5ポイントの差が生じているが、女性では、最も多い50代(75.6%)と最も少ない80歳以上(65.6%)の差は10ポイントに止まっている。

一方、『重視しない』は、男女とも1割を下回る年代が多い中、男性は80歳以上(19.1%)で2割近くあり、女性では80歳以上(11.5%)と60代(11.2%)で1割を超えている。



職業別

職業別では、『重視する』は、男性では、会社等の役員(81.6%)で8割を超える一方、学生(57.5%)では5割台に止まっている。『重視しない』は、学生(15.4%)で最も多く、その他無職(10.5%)、自営業(10.2%)でも1割を超えている。

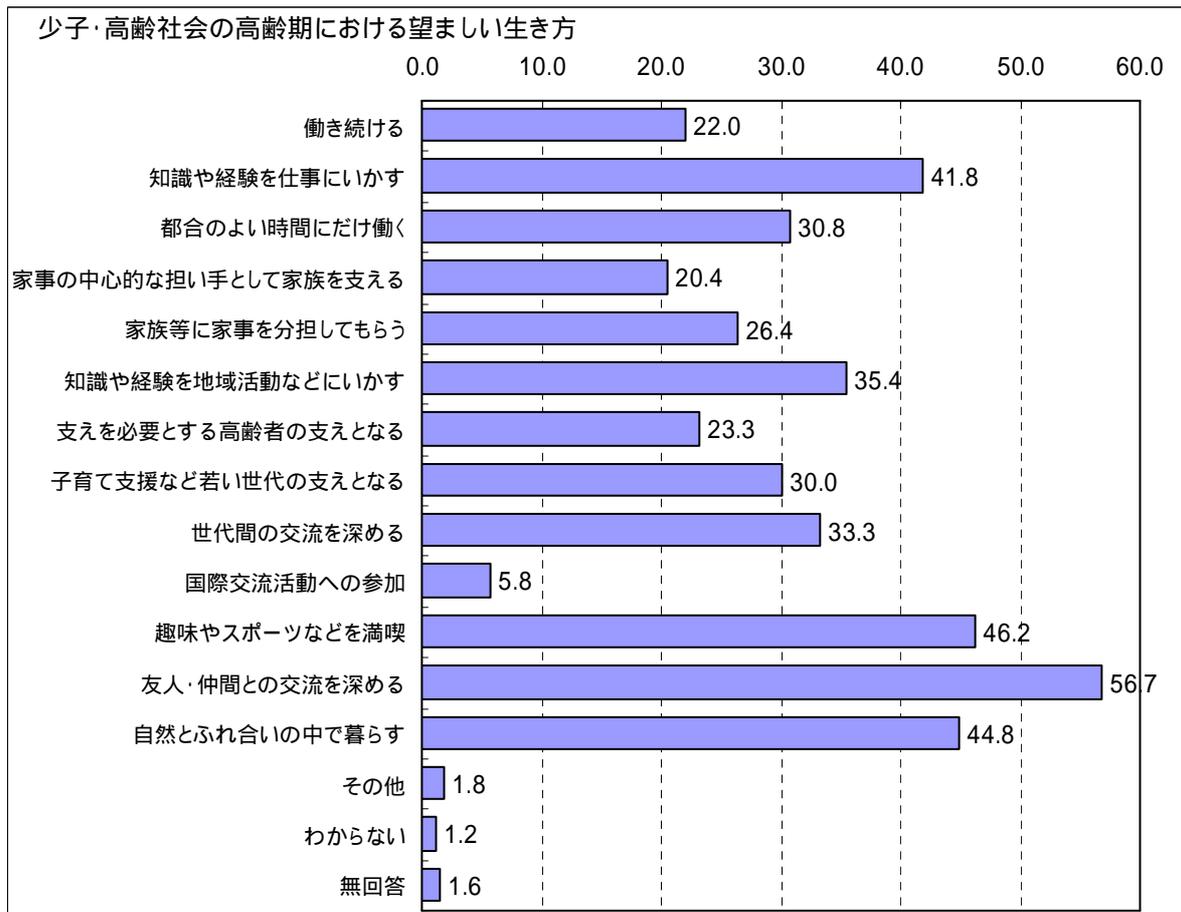


(2) 少子・高齢社会の高齢期における望ましい生き方

問6 あなたが、少子・高齢社会の高齢期における生き方として、特に望ましいと思うものを、この中からいくつでも選んで番号に 印をつけて下さい。

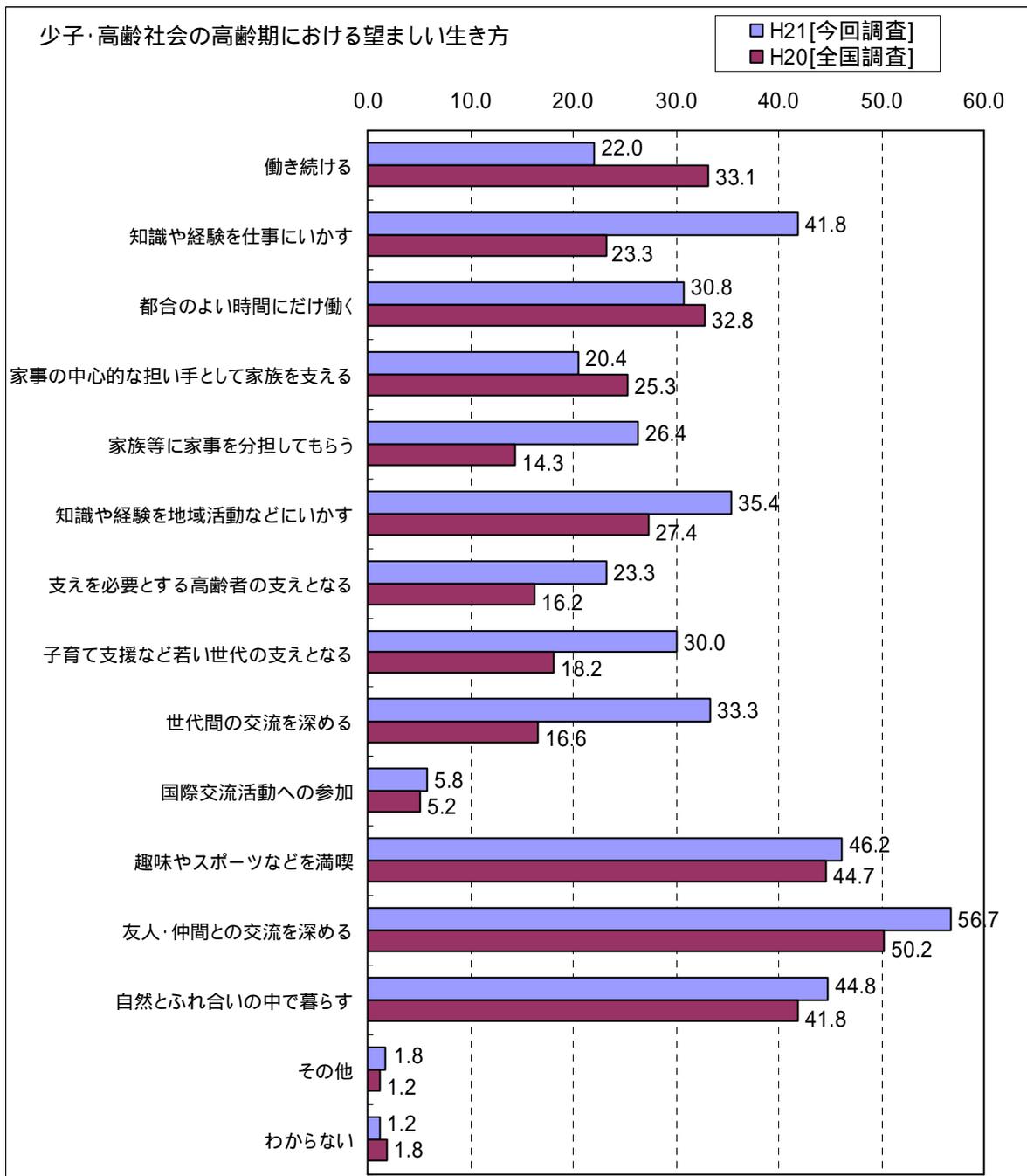
- 1 働き続ける
- 2 知識や経験を仕事にいかす
- 3 都合のよい時間にだけ働く
- 4 家事の中心的な担い手として家族を支える
- 5 家族等に家事を分担してもらう
- 6 知識や経験を地域活動やボランティアなどにいかす
- 7 支えを必要とする高齢者の支えとなる
- 8 子育て支援など若い世代の支えとなる
- 9 知識や経験を若い世代に伝えるなど世代間の交流を深める
- 10 国際交流活動への参加
- 11 趣味やスポーツなどを満喫
- 12 友人・仲間との交流を深める
- 13 自然とふれ合いの中で暮らす
- 14 その他
- 15 わからない

少子・高齢社会の高齢期における望ましい生き方では、「友人・仲間との交流を深める」(56.7%)で5割を超えており、「趣味やスポーツなどを満喫する」(46.2%)と「自然とふれ合いの中で暮らす」(44.8%)が4割台半ばで、「知識や経験を仕事にいかす」(41.8%)が4割台前半で続く。



【参考：平成 20 年の全国調査との比較】

調査対象者や調査方法など異なる部分があるが、参考までに、内閣府が平成 20 年に実施した調査結果と比較した。



地域別

地域別でみると、全県集計で1位の「友人・仲間との交流を深める」は、いずれの地域でも5割を超えているが、東播磨(62.6%)では6割強となっている。全県2位の「趣味やスポーツなどを満喫」は、最も多い阪神南(51.6%)では5割を超えるが、最も少ない淡路(34.8%)では3割台半ばに止まっており、16.8ポイントの差が生じている。

少子・高齢社会の高齢期における望ましい生き方【地域別】

(%)

	1 働き続ける	2 知識や経験を仕事にいかす	3 都合の良い時間にだけ働く	4 家事の中心的な担い手として家族を支える	5 家族等に家事を分担してもらう	6 知識や経験を地域活動などにいかす	7 支えを必要とする高齢者の支えとなる	8 子育て支援など若い世代の支えとなる	9 世代間の交流を深める	10 国際交流活動への参加	11 趣味やスポーツなどを満喫	12 友人・仲間との交流を深める	13 自然とふれ合いの中で暮らす	14 その他	15 わからない
全 県	22.0	41.8	30.8	20.4	26.4	35.4	23.3	30.0	33.3	5.8	46.2	56.7	44.8	1.8	1.2
地域別															
神 戸	26.0	42.6	31.0	19.0	25.2	34.5	22.5	30.2	35.3	4.3	45.3	52.3	43.0	2.7	0.4
阪神南	22.0	42.9	30.7	19.7	28.7	35.0	23.6	33.1	34.3	8.7	51.6	59.1	42.1	1.6	1.2
阪神北	22.2	43.4	35.5	19.0	25.1	40.1	25.4	28.7	33.0	8.2	46.6	58.1	48.4	3.2	1.4
東播磨	16.7	40.1	32.7	21.4	27.6	34.2	22.6	27.2	32.7	6.6	47.5	62.6	44.7	0.4	2.3
北播磨	23.6	41.4	30.0	26.1	28.2	30.0	22.5	31.1	33.2	5.4	41.1	55.4	52.1	1.4	0.0
中播磨	18.7	37.7	28.0	20.2	26.8	34.2	19.1	28.8	29.2	3.1	49.4	57.2	42.8	0.8	1.2
西播磨	18.7	41.6	27.1	21.0	27.4	39.0	28.7	31.6	33.5	4.2	38.7	56.1	46.8	0.3	3.2
但 馬	19.6	40.5	26.7	26.7	24.8	37.1	23.9	29.4	32.5	4.6	39.6	57.7	47.9	1.2	2.1
丹 波	21.2	43.5	22.6	20.5	23.7	35.3	26.1	26.1	33.6	1.1	39.2	59.4	47.0	0.4	1.4
淡 路	24.1	44.0	26.6	23.8	20.2	35.1	26.2	30.1	28.7	3.9	34.8	51.1	50.7	1.8	1.8
地域間の差	9.2	6.2	12.9	7.7	8.5	10.1	9.6	6.9	6.5	7.6	16.8	11.6	10.0	2.9	3.2

性別、性・年代別

性別では、「家族等に家事を分担してもらう」が、男性(16.4%)より女性(34.6%)で多く、男女間で18.2ポイントの差が生じている。逆に、「知識や経験を仕事にいかす」が女性(37.2%)より男性(47.6%)で多く、男女間で10.4ポイントの差が生じている。

性・年代別でみると、男女とも多くの項目で年代間の差が生じており、男性では、「知識や経験を仕事にいかす」が、4～5割台の年代が多い中、最も多い20代(58.6%)と最も少ない80歳以上(28.3%)で30.3ポイントの差が生じている。次に大きな差があるのは、「趣味やスポーツなどを満喫」で、年代が上がるほど減少しており、20代(59.6%)で6割近いが、80歳以上(33.5%)では3割台前半と、26ポイントの差が生じている。このほか、「知識や経験を地域活動などにいかす」や「子育て支援など若い世代の支えとなる」など4項目で20ポイントを超える差がみられる。

一方、女性では、「趣味やスポーツなどを満喫」が、年代が上がるほど減少する傾向は男性と同様で、最も多い20代(66.0%)と最も少ない70代(28.8%)で37.2ポイントの差が生じている。次に差が大きいのは「知識や経験を地域活動などにいかす」で、20～40代では3割台後半～4割台前半あるが、50～70代では2割台後半と減り、80歳以上(13.4%)では1割強に止まっており、最も多い30代(42.7%)と29.3ポイントの差が生じている。このほか、「家族等に家事を分担してもらう」、「子育て支援など若い世代の支えとなる」など5項目で20ポイントを超える差がみられる。

少子・高齢社会の高齢期における望ましい生き方【性別】

(%)

	1 働き続ける	2 知識や経験を仕事にいかす	3 都合の良い時間にだけ働く	4 家事的な中心的な担い手として家族を支える	5 家族等に家事を分担してもらう	6 知識や経験を地域活動などにいかす	7 支えを必要とする高齢者の支えとなる	8 子育て支援など若い世代の支えとなる	9 世代間の交流を深める	10 国際交流活動への参加	11 趣味やスポーツなどを満喫	12 友人・仲間との交流を深める	13 自然とふれ合いの中で暮らす	14 その他	15 わからない	
全 県	22.0	41.8	30.8	20.4	26.4	35.4	23.3	30.0	33.3	5.8	46.2	56.7	44.8	1.8	1.2	
性別																
男 性	23.7	47.6	30.9	15.2	16.4	38.8	18.4	25.5	37.1	6.2	50.9	51.7	47.3	1.1	1.7	
女 性	20.7	37.2	30.7	24.5	34.6	32.7	27.3	33.9	30.3	5.4	42.5	60.9	42.9	2.2	0.8	
性別間の差	3.0	10.4	0.2	9.3	18.2	6.1	9.0	8.4	6.8	0.7	8.4	9.2	4.4	1.1	0.9	

少子・高齢社会の高齢期における望ましい生き方【性・年代別、男性】

(%)

	1 働き続ける	2 知識や経験を仕事にいかす	3 都合の良い時間にだけ働く	4 家事的な中心的な担い手として家族を支える	5 家族等に家事を分担してもらう	6 知識や経験を地域活動などにいかす	7 支えを必要とする高齢者の支えとなる	8 子育て支援など若い世代の支えとなる	9 世代間の交流を深める	10 国際交流活動への参加	11 趣味やスポーツなどを満喫	12 友人・仲間との交流を深める	13 自然とふれ合いの中で暮らす	14 その他	15 わからない	
全 県	22.0	41.8	30.8	20.4	26.4	35.4	23.3	30.0	33.3	5.8	46.2	56.7	44.8	1.8	1.2	
性・年代別																
男 性																
20代	30.0	58.6	29.1	11.0	25.6	34.8	13.2	30.7	41.8	9.6	59.6	58.2	33.7	2.6	2.6	
30代	28.0	54.1	30.1	8.2	14.5	34.1	19.2	30.6	31.6	4.7	53.0	48.2	38.9	1.7	3.6	
40代	32.2	47.2	35.9	16.0	14.9	32.5	15.3	20.8	38.6	11.0	56.8	44.5	49.6	0.7	2.0	
50代	16.2	48.6	32.4	14.7	14.4	44.4	15.7	19.9	33.9	4.1	52.6	50.0	53.7	1.1	1.6	
60代	20.9	40.4	35.5	16.7	17.1	43.0	19.8	27.7	37.6	7.2	48.9	54.3	49.9	0.5	0.3	
70代	20.5	51.1	24.5	20.3	12.1	46.5	27.2	31.1	42.7	3.3	44.1	53.0	53.0	0.2	0.9	
80以上	20.6	28.3	15.2	23.5	24.3	22.3	13.4	7.9	35.5	0.8	33.5	61.4	43.9	3.1	2.0	
年代間の差	16.0	30.3	20.7	15.3	13.5	24.2	14.0	23.2	11.1	10.2	26.0	16.9	20.1	2.9	3.3	

少子・高齢社会の高齢期における望ましい生き方【性・年代別、女性】

(%)

	1 働き続ける	2 知識や経験を仕事にいかす	3 都合の良い時間にだけ働く	4 家事的な中心的な担い手として家族を支える	5 家族等に家事を分担してもらう	6 知識や経験を地域活動などにいかす	7 支えを必要とする高齢者の支えとなる	8 子育て支援など若い世代の支えとなる	9 世代間の交流を深める	10 国際交流活動への参加	11 趣味やスポーツなどを満喫	12 友人・仲間との交流を深める	13 自然とふれ合いの中で暮らす	14 その他	15 わからない	
全 県	22.0	41.8	30.8	20.4	26.4	35.4	23.3	30.0	33.3	5.8	46.2	56.7	44.8	1.8	1.2	
性・年代別																
女 性																
20代	24.6	48.6	34.5	20.7	46.3	36.6	25.9	43.9	38.9	10.9	66.0	70.0	41.1	1.0	1.1	
30代	27.6	49.0	38.1	21.8	29.0	42.7	28.3	42.2	33.6	8.2	54.5	62.4	37.2	2.2	0.1	
40代	24.9	48.0	35.8	19.7	23.4	42.2	28.2	32.6	31.8	6.1	45.4	62.9	30.2	3.8	0.4	
50代	21.2	31.8	30.8	19.7	44.1	28.6	28.6	33.8	26.9	6.1	40.0	57.8	46.2	0.1	0.7	
60代	17.4	28.4	29.4	29.3	36.5	29.1	30.8	38.1	25.1	2.8	38.3	61.4	51.3	3.8	0.5	
70代	14.6	30.0	17.9	35.3	25.6	29.4	23.1	21.8	33.1	3.8	28.8	57.2	51.9	2.0	0.9	
80以上	13.3	28.0	25.2	23.8	48.8	13.4	22.2	19.5	28.6	1.2	29.4	55.8	40.1	1.6	2.5	
年代間の差	14.4	21.0	20.2	15.6	25.4	29.3	8.5	24.4	13.8	9.7	37.2	14.1	21.8	3.7	2.4	

職業別

職業別でみると、会社等の役員で、「知識や経験を仕事にいかす」(67.2%)と「世代間の交流を深める」(57.1%)が他の職業と比べて多く、両項目とも全県の集計結果(前者 41.8%、後者 33.3%)より20ポイント以上の差が生じている。また、「働き続ける」で、主婦(主夫)(14.4%)、その他無職(10.1%)の1割台を除き、2割～3割前半の職業が多い中、自営業(39.6%)は約4割に及ぶ。

少子・高齢社会の高齢期における望ましい生き方【職業別】 (%)

	1 働き続ける	2 知識や経験を仕事にいかす	3 都合の良い時間にだけ働く	4 家事の中心的な担い手として家族を支える	5 家族等に家事を分担してもらう	6 知識や経験を地域活動などにいかす	7 支えを必要とする高齢者の支えとなる	8 子育て支援など若い世代の支えとなる	9 世代間の交流を深める	10 国際交流活動への参加	11 趣味やスポーツなどを満喫	12 友人・仲間との交流を深める	13 自然とふれ合いの中で暮らす	14 その他	15 わからない
全 県	22.0	41.8	30.8	20.4	26.4	35.4	23.3	30.0	33.3	5.8	46.2	56.7	44.8	1.8	1.2
職業別															
自営業	39.6	53.4	26.6	22.5	22.0	36.3	21.8	24.7	34.9	2.8	41.6	55.1	53.3	2.1	0.7
正規社員(職員)	24.1	46.8	33.6	12.9	22.0	39.5	22.0	31.0	34.9	5.6	55.9	54.7	41.9	0.6	1.4
会社等の役員	22.6	67.2	37.6	13.8	17.3	50.5	23.8	41.2	57.1	17.0	45.8	57.3	40.2	0.0	0.0
契約・派遣社員	32.7	54.9	33.3	13.1	22.6	31.7	13.9	23.6	25.6	6.2	43.6	43.2	46.9	0.2	0.0
パート・アルバイト	29.7	41.3	36.7	18.3	31.4	33.3	23.0	29.8	29.6	5.5	45.1	62.3	37.0	3.7	1.3
主婦(主夫)	14.4	32.7	31.8	33.0	34.7	35.5	27.5	38.0	30.6	6.9	42.4	60.0	44.7	2.4	0.1
学生	30.2	44.4	35.3	5.4	39.9	32.8	10.3	39.3	51.7	14.8	61.8	51.6	35.7	0.0	3.8
その他無職	10.1	32.7	23.7	23.6	25.4	30.5	25.2	24.7	33.1	4.6	39.7	58.3	50.1	2.3	2.0
職業間の差	29.5	34.5	14.0	27.6	22.6	19.9	17.2	17.6	31.5	14.2	22.1	19.1	17.6	3.7	3.8

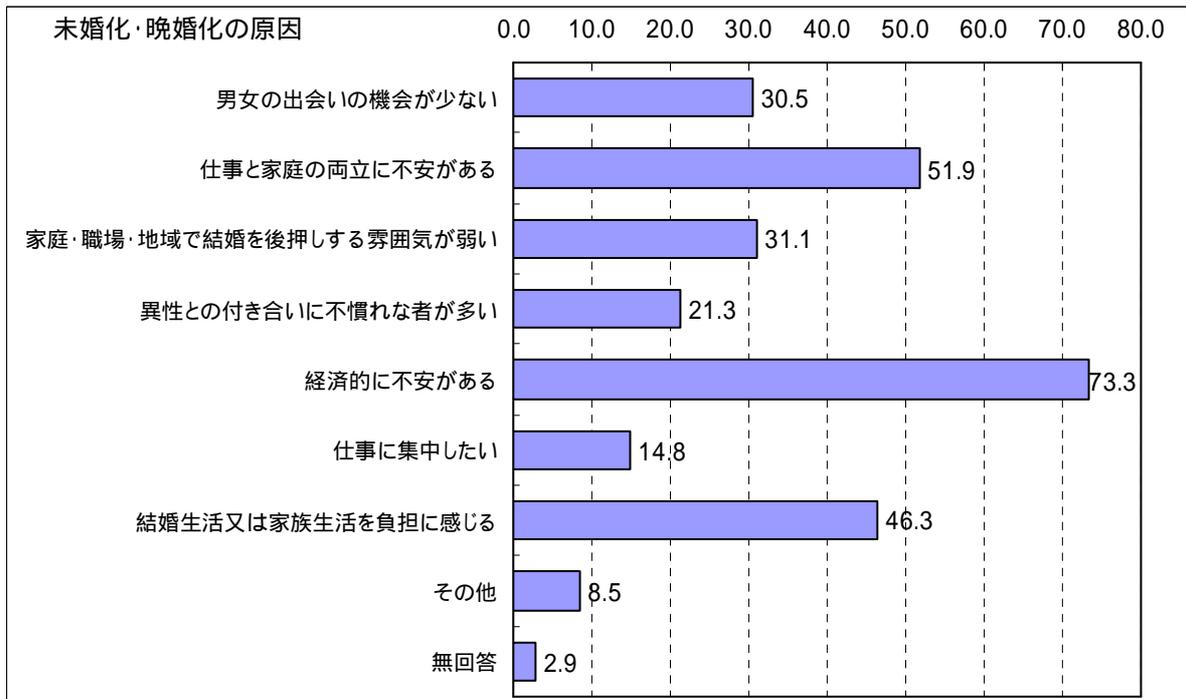
3 少子・高齢社会に向けた対策

(1)未婚化・晩婚化の原因

問7 現在、男女とも未婚化・晩婚化が進んでいますが、その原因について、あてはまると思うことを、この中から3つ選んで 印をつけて下さい。

- 1 男女の出会いの機会が少ない
- 2 仕事と家庭の両立に不安がある
- 3 家庭・職場・地域で結婚を後押しする雰囲気が弱い
- 4 異性との付き合いに不慣れな者が多い
- 5 経済的に不安がある
- 6 仕事に集中したい
- 7 結婚生活又は家族生活を負担に感じる
- 8 その他()

未婚化・晩婚化の原因では、「経済的に不安がある」(73.3%)が7割強と最も多く、「仕事と家庭の両立に不安がある」(51.9%)が5割強、「結婚生活又は家族生活を負担に感じる」(46.3%)が4割台半ばで続く。一方、「仕事に集中したい」(14.8%)は1割台半ばである。



地域別

地域別でみると、地域間で最も大きな差がある項目は、「男女の出会いの機会が少ない」で、丹波(43.1%)、北播磨(41.4%)、淡路(41.1%)、但馬(40.8%)、西播磨(39.7%)では4割前後と多いが、神戸(21.3%)、阪神北(28.7%)は2割台に止まっており、丹波と神戸では21.8ポイントの差が生じている。次に大きな差があるのは、「仕事と家庭の両立に不安がある」で、東播磨(59.1%)で6割近く、阪神北(54.8%)で5割台半ばあるが、丹波(41.7%)、北播磨(42.1%)、淡路(42.6%)、但馬(43.9%)では4割台前半に止まり、東播磨と丹波で17.4ポイントの差が生じている。

未婚化・晩婚化の原因【地域別】

(%)

	1 男女の出会いの機会が少ない	2 仕事と家庭の両立に不安がある	3 家庭・職場・地域で結婚を後押しする雰囲気弱い	4 異性との付き合いに不慣れな者が多い	5 経済的に不安がある	6 仕事に集中したい	7 結婚生活又は家族生活を負担に感じる	8 その他
全 県	30.5	51.9	31.1	21.3	73.3	14.8	46.3	8.5
地域別								
神 戸	21.3	53.5	33.7	19.8	74.8	14.7	46.9	11.2
阪神南	31.1	50.4	26.0	21.7	76.0	15.7	49.6	7.9
阪神北	28.7	54.8	32.3	23.3	71.0	12.2	46.6	9.0
東播磨	34.6	59.1	26.8	18.7	75.5	12.8	47.1	8.6
北播磨	41.4	42.1	34.6	26.8	67.9	16.1	42.1	8.6
中播磨	32.7	50.2	32.3	18.7	70.8	18.7	43.6	5.8
西播磨	39.7	50.6	35.2	21.9	72.3	14.2	45.5	4.5
但 馬	40.8	43.9	35.0	26.1	69.9	12.0	43.6	4.9
丹 波	43.1	41.7	30.0	28.3	64.0	17.0	41.7	7.1
淡 路	41.1	42.6	29.8	25.2	73.0	16.7	38.7	4.6
地域間の差	21.8	17.4	9.2	9.6	12.0	6.7	11.0	6.7

性別 / 性・年代別

性別では、「異性との付き合いに不慣れな者が多い」が女性(16.8%)より男性(26.7%)で 9.9 ポイント多いほかは、男女間で特段の差はみられない。

性・年代別でみると、男性より女性で年代間の差が出ている項目が多い。

男性では、「結婚生活又は家族生活を負担に感じる」が、4割台の年代が多い中、40代(57.2%)では5割台後半に及ぶ一方で、70代、80歳以上(ともに31.2%)では3割強に止まり、その差は26ポイントとなっている。

女性では、「結婚生活又は家族生活を負担に感じる」が30代(63.3%)と40代(60.9%)で6割を超えるが、70代(27.3%)と80歳以上(33.3%)では3割前後であり、30代と70代で36ポイントの差が生じている。また、「経済的に不安がある」が、60代までの年代は7割～8割台半ばと多いが、70代(56.4%)と80歳以上(53.5%)では5割台半ばに止まっている。逆に、「家庭・職場・地域で結婚を後押しする雰囲気」が弱い」が、70代(49.6%)で約5割、60代(35.8%)と80歳以上(33.2%)で3割を超えているが、50代までの年代では2割前後に止まっている。

未婚化・晩婚化の原因【性別】

(%)

	1 男女の出会いの機会が少ない	2 仕事と家庭の両立に不安がある	3 家庭・職場・地域で結婚を後押しする雰囲気弱い	4 異性との付き合いに不慣れな者が多い	5 経済的に不安がある	6 仕事に集中したい	7 結婚生活又は家族生活を負担に感じる	8 その他
全 県	30.5	51.9	31.1	21.3	73.3	14.8	46.3	8.5
性別								
男 性	31.8	49.2	33.6	26.7	75.3	11.6	43.4	8.4
女 性	29.5	54.0	29.1	16.8	71.9	17.3	48.8	8.6
性別間の差	2.3	4.9	4.5	9.9	3.4	5.6	5.4	0.1

未婚化・晩婚化の原因【性・年代別、男性】

(%)

	1 男女の出会いの機会が少ない	2 仕事と家庭の両立に不安がある	3 家庭・職場・地域で結婚を後押しする雰囲気弱い	4 異性との付き合いに不慣れな者が多い	5 経済的に不安がある	6 仕事に集中したい	7 結婚生活又は家族生活を負担に感じる	8 その他
全 県	30.5	51.9	31.1	21.3	73.3	14.8	46.3	8.5
性・年代別								
男 性								
20代	29.9	49.8	29.3	22.4	78.5	18.6	48.6	12.0
30代	35.1	51.7	24.0	22.8	77.4	13.9	45.8	11.5
40代	26.5	47.8	26.5	27.5	79.0	10.4	57.2	10.6
50代	32.3	54.9	33.7	22.6	76.9	13.7	43.0	4.9
60代	33.5	48.9	42.8	28.4	76.4	7.9	41.1	7.9
70代	31.4	43.7	42.0	35.0	63.6	8.5	31.2	6.1
80以上	31.9	41.0	27.7	28.8	73.0	13.0	31.2	6.6
年代間の差	8.5	13.9	18.8	12.6	15.5	10.7	26.0	7.1

未婚化・晩婚化の原因【性・年代別、女性】

(%)

	1 男女の出会いの機会が少ない	2 仕事と家庭の両立に不安がある	3 家庭・職場・地域で結婚を後押しする雰囲気弱い	4 異性との付き合いに不慣れな者が多い	5 経済的に不安がある	6 仕事に集中したい	7 結婚生活又は家族生活を負担に感じる	8 その他
全 県	30.5	51.9	31.1	21.3	73.3	14.8	46.3	8.5
性・年代別								
女 性								
20代	31.1	64.6	19.0	12.4	84.4	22.4	50.3	8.3
30代	34.8	52.3	19.1	13.4	74.5	20.7	63.3	9.7
40代	20.0	57.3	22.0	16.9	71.5	22.1	60.9	15.5
50代	28.9	59.1	23.9	10.3	83.3	17.4	53.7	8.7
60代	32.5	52.6	35.8	20.8	71.9	8.9	43.6	4.5
70代	29.7	45.8	49.6	19.7	56.4	14.9	27.3	6.3
80以上	30.9	46.4	33.2	28.5	53.5	20.2	33.3	6.4
年代間の差	14.8	18.8	30.6	18.2	30.9	13.5	36.0	10.9

職業別

職業別では、全県1位の「経済的に不安がある」が、契約・派遣社員(84.9%)、会社等の役員(82.9%)、パート・アルバイト(81.9%)で8割を超えるが、その他無職(64.3%)では6割台半ばとなっており、20ポイント程度の差が生じている。

「仕事と家庭の両立に不安がある」が、一番大きな差が出ており、学生(63.5%)で6割を超えるが、会社等の役員(30.7%)では3割に止まり、32.8ポイントの差が生じている。

未婚化・晩婚化の原因【職業別】 (％)

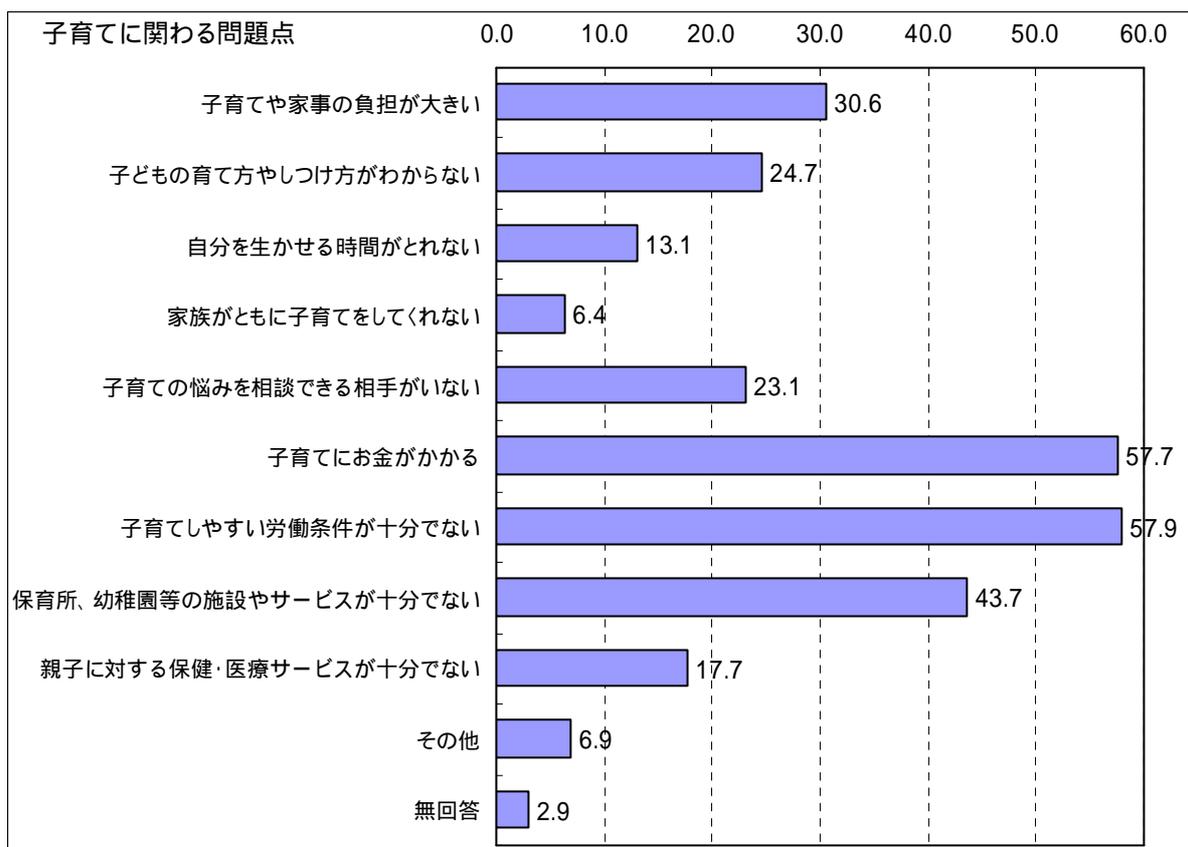
	1 男女の出会いの機会が少ない	2 仕事と家庭の両立に不安がある	3 家庭・職場・地域で結婚を後押しする雰囲気が弱い	4 異性との付き合いに不慣れな者が多い	5 経済的に不安がある	6 仕事に集中したい	7 結婚生活又は家族生活を負担に感じる	8 その他
全 県	30.5	51.9	31.1	21.3	73.3	14.8	46.3	8.5
職業別								
自営業	32.7	45.5	32.0	25.3	72.5	15.4	43.6	13.1
正規社員(職員)	32.4	55.4	25.7	21.2	76.6	15.8	49.9	7.8
会社等の役員	23.4	30.7	46.5	19.8	82.9	9.0	54.3	17.9
契約・派遣社員	31.8	58.1	27.4	14.5	84.9	7.8	53.1	8.1
パート・アルバイト	28.1	53.0	25.5	15.8	81.9	15.0	52.9	5.3
主婦(主夫)	26.9	55.0	30.5	17.3	70.5	18.9	50.5	9.5
学生	26.6	63.5	31.5	14.4	75.8	25.6	44.4	16.2
その他無職	31.9	47.5	39.6	27.8	64.3	11.5	35.0	5.7
職業間の差	9.3	32.8	21.1	13.4	20.7	17.9	19.3	12.5

(2)子育てに関わる問題点

問8 今の子育てを取り巻く環境において、あなたは、何が特に問題であると思いますか。この中から3つ選んで 印をつけて下さい。

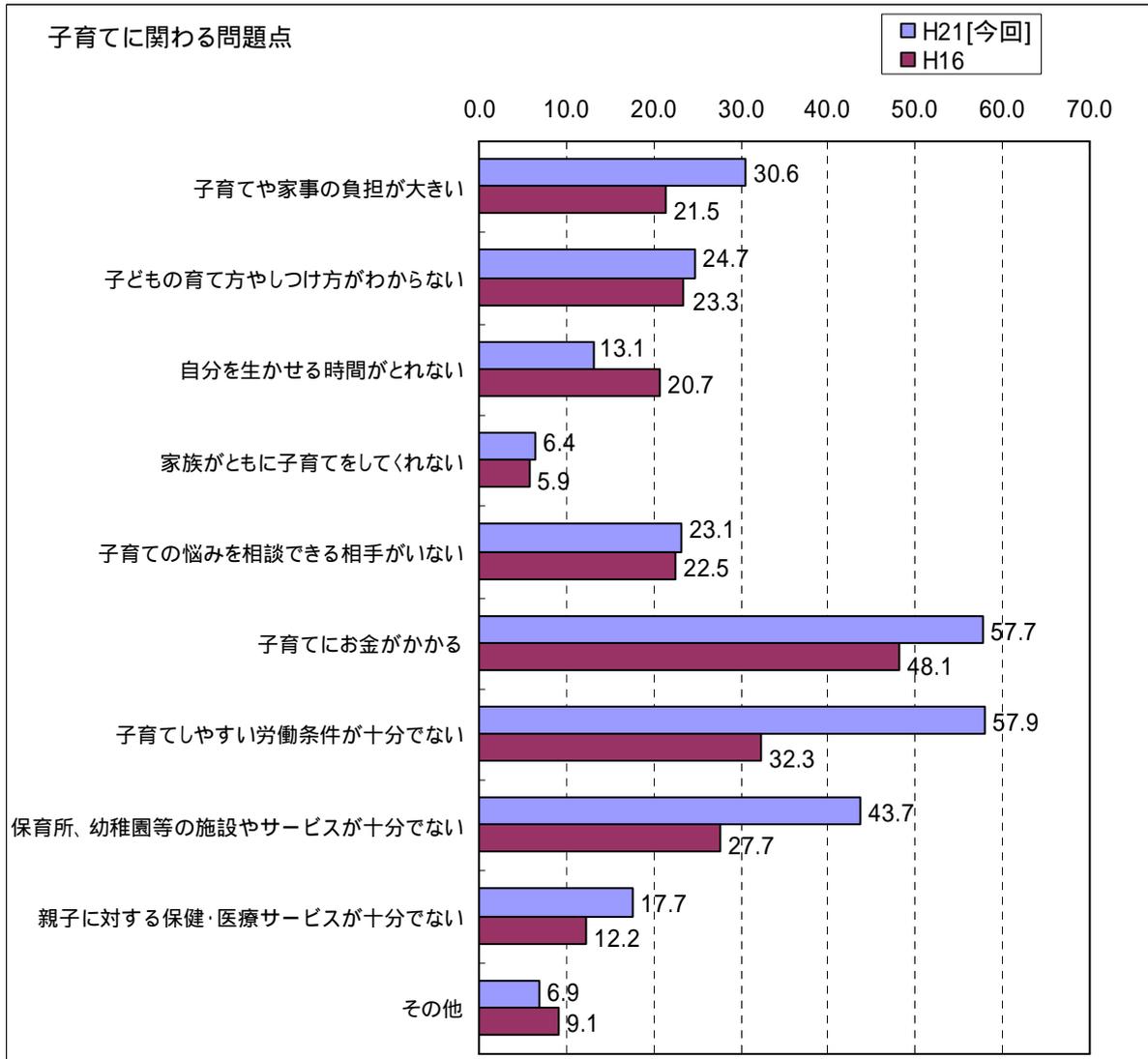
- 1 子育てや家事の負担が大きい
- 2 子どもの育て方やしつけ方がわからない
- 3 自分を生かせる時間がとれない
- 4 家族がともに子育てをしてくれない
- 5 子育てに関する悩みや不安を相談できる相手や場所がない
- 6 子育てにお金がかかる
- 7 子育てしやすい労働条件が十分でない
- 8 保育所・幼稚園や児童館などの施設やサービスが十分でない
- 9 親子に対する保健・医療サービスが十分でない
- 10 その他

子育てに関わる問題点では、「子育てしやすい労働条件が十分でない」(57.9%)と「子育てにお金がかかる」(57.7%)が、5割台後半で拮抗しており、「保育所、幼稚園等の施設やサービスが十分でない」(43.7%)が4割強、「子育てや家事の負担が大きい」(30.6%)が3割で続く。一方、「家族がともに子育てをしてくれない」(6.4%)は1割を下回る。



平成 16 年調査との比較

本県が平成 16 年に実施した県民意識調査での結果と比較すると、前回は、「子育てにお金がかかる」(48.1%)が最も多くなっており、これに続く「子育てしやすい労働条件が十分でない」(32.3%)とは 15.8 ポイントの差が生じていた。この「子育てしやすい労働条件が十分でない」と「保育所、幼稚園等の施設やサービスが十分でない」の比率が、前回と比べ、それぞれ 25.6 ポイント(32.3% 57.9%)、16 ポイント(27.7% 43.7%)と大きく増加している。



地域別

地域別でみると、地域間の差が10ポイント以内に収まっている項目が多い中、「保育所、幼稚園等の施設やサービスが十分でない」が、神戸(49.6%)、阪神南(47.6%)、阪神北(43.4%)、東播磨(41.6%)で4割を超えるが、最も少ない淡路(30.1%)を含め、他の6地域では3割台となっており、神戸と淡路の差は19.5ポイントある。

子育てに関わる問題点【地域別】

(%)

	1 子育てや家事の負担が大きい	2 子どもの育て方やしつけ方がわからない	3 自分を生かせる時間がない	4 家族がともに子育てをしてくれない	5 子育ての悩みを相談できる相手がいない	6 子育てにお金がかかる	7 子育てしやすい労働条件が十分でない	8 保育所、幼稚園等の施設やサービスが十分でない	9 親子に対する保健・医療サービスが十分でない	10 その他
全 県	30.6	24.7	13.1	6.4	23.1	57.7	57.9	43.7	17.7	6.9
地域別										
神 戸	29.1	22.9	9.3	5.4	21.3	58.9	55.4	49.6	20.2	7.4
阪神南	32.3	26.4	16.1	6.7	23.6	54.7	56.7	47.6	17.3	7.9
阪神北	28.0	24.0	12.9	9.3	26.9	55.6	61.6	43.4	14.7	7.5
東播磨	30.4	28.0	11.3	6.2	21.4	61.9	60.3	41.6	16.0	4.7
北播磨	33.2	21.1	18.2	7.9	23.9	51.1	58.9	34.6	17.5	7.1
中播磨	32.3	25.7	14.4	5.1	24.1	59.9	58.0	38.9	13.6	6.6
西播磨	31.9	25.8	15.5	6.5	24.5	60.3	57.4	37.7	20.3	5.5
但 馬	30.4	23.6	12.9	5.5	22.7	55.2	60.1	33.7	23.9	4.9
丹 波	29.7	23.7	16.6	6.0	21.6	53.4	59.0	37.1	18.7	7.1
淡 路	37.2	22.3	17.7	3.5	20.6	60.6	56.0	30.1	20.6	7.4
地域間の差	9.3	6.9	8.9	5.8	6.3	10.8	6.2	19.5	10.3	3.2

性別、性・年代別

性別で、特段の差はみられない。

性・年代別でみると、全県集計で1位の「子育てしやすい労働条件が十分でない」と2位の「子育てにお金がかかる」が、男女とも、20～40代(6～7割程度)で年代間の中で上位を占めており、70代(いずれも4割台)で最も少なくなっている。

一方、「子どもの育て方やしつけ方がわからない」が、女性の20～40代で1割台と他の年代(2割台半ば～3割)より少なくなっている。

子育てに関わる問題点【性別】

(%)

	1 子育てや家事の負担が大きい	2 子どもの育て方やしつけ方がわからない	3 自分を生かせる時間がとれない	4 家族がともに子育てをしてくれない	5 子育ての悩みを相談できる相手がいない	6 子育てにお金がかかる	7 子育てしやすい労働条件が十分でない	8 保育所、幼稚園等の施設やサービスが十分でない	9 親子に対する保健・医療サービスが十分でない	10 その他
全 県	30.6	24.7	13.1	6.4	23.1	57.7	57.9	43.7	17.7	6.9
性別										
男 性	31.7	27.9	12.4	5.7	21.9	60.4	57.2	42.7	18.3	6.9
女 性	29.7	22.1	13.4	6.9	24.1	55.6	58.4	44.6	17.3	6.8
性別間の差	2.0	5.8	1.1	1.2	2.2	4.8	1.2	1.9	1.1	0.1

子育てに関わる問題点【性・年代別、男性】

(%)

	1 子育てや家事の負担が大きい	2 子どもの育て方やしつけ方がわからない	3 自分を生かせる時間がとれない	4 家族がともに子育てをしてくれない	5 子育ての悩みを相談できる相手がいない	6 子育てにお金がかかる	7 子育てしやすい労働条件が十分でない	8 保育所、幼稚園等の施設やサービスが十分でない	9 親子に対する保健・医療サービスが十分でない	10 その他
全 県	30.6	24.7	13.1	6.4	23.1	57.7	57.9	43.7	17.7	6.9
性・年代別										
男 性										
20代	29.6	38.7	16.0	1.0	19.0	59.7	65.7	39.5	15.0	7.2
30代	26.9	15.3	20.2	4.7	11.3	70.6	70.5	44.8	18.7	7.3
40代	41.1	19.5	12.6	6.7	13.9	71.9	61.2	33.9	20.3	12.9
50代	25.0	37.0	7.7	7.0	30.4	61.3	53.6	40.4	20.0	6.3
60代	33.1	29.6	11.1	6.7	25.8	54.1	53.3	52.5	17.6	3.9
70代	28.3	31.5	7.7	6.7	31.6	44.1	44.4	46.3	12.8	7.7
80以上	48.1	23.0	14.2	3.6	11.2	65.0	52.1	22.9	29.7	2.4
年代間の差	23.1	23.3	12.5	6.0	20.4	27.7	26.1	29.6	16.9	10.4

子育てに関わる問題点【性・年代別、女性】

(%)

	1 子育てや家事の負担が大きい	2 子どもの育て方やしつけ方がわからない	3 自分を生かせる時間がとれない	4 家族がともに子育てをしてくれない	5 子育ての悩みを相談できる相手がいない	6 子育てにお金がかかる	7 子育てしやすい労働条件が十分でない	8 保育所、幼稚園等の施設やサービスが十分でない	9 親子に対する保健・医療サービスが十分でない	10 その他
全 県	30.6	24.7	13.1	6.4	23.1	57.7	57.9	43.7	17.7	6.9
性・年代別										
女 性										
20代	28.5	15.6	14.2	6.1	21.5	59.0	70.2	55.4	25.0	2.6
30代	33.0	12.0	18.4	4.9	14.0	60.6	73.7	47.5	23.1	8.1
40代	32.9	19.8	11.7	8.2	19.8	66.9	67.4	39.1	17.8	8.4
50代	31.7	25.8	10.1	8.1	27.7	56.5	56.0	51.5	12.4	7.3
60代	24.0	25.8	11.8	7.9	31.5	52.0	55.0	48.9	16.0	8.1
70代	29.2	25.5	15.9	7.7	25.3	43.4	40.1	30.7	14.9	4.0
80以上	27.6	29.9	14.7	2.7	28.1	47.3	42.5	37.6	13.2	4.3
年代間の差	8.9	17.9	8.3	5.5	17.6	23.5	33.5	24.7	12.6	5.8

職業別

職業別では、「子育てしやすい労働条件が十分でない」と「子育てにお金がかかる」が、ともに正規社員(職員)で6割台半ばと最も多く、パートアルバイトが6割で続いている。一方、その他無職が、ともに4割台と最も少なくなっている。

子育てに関わる問題点【職業別】

(%)

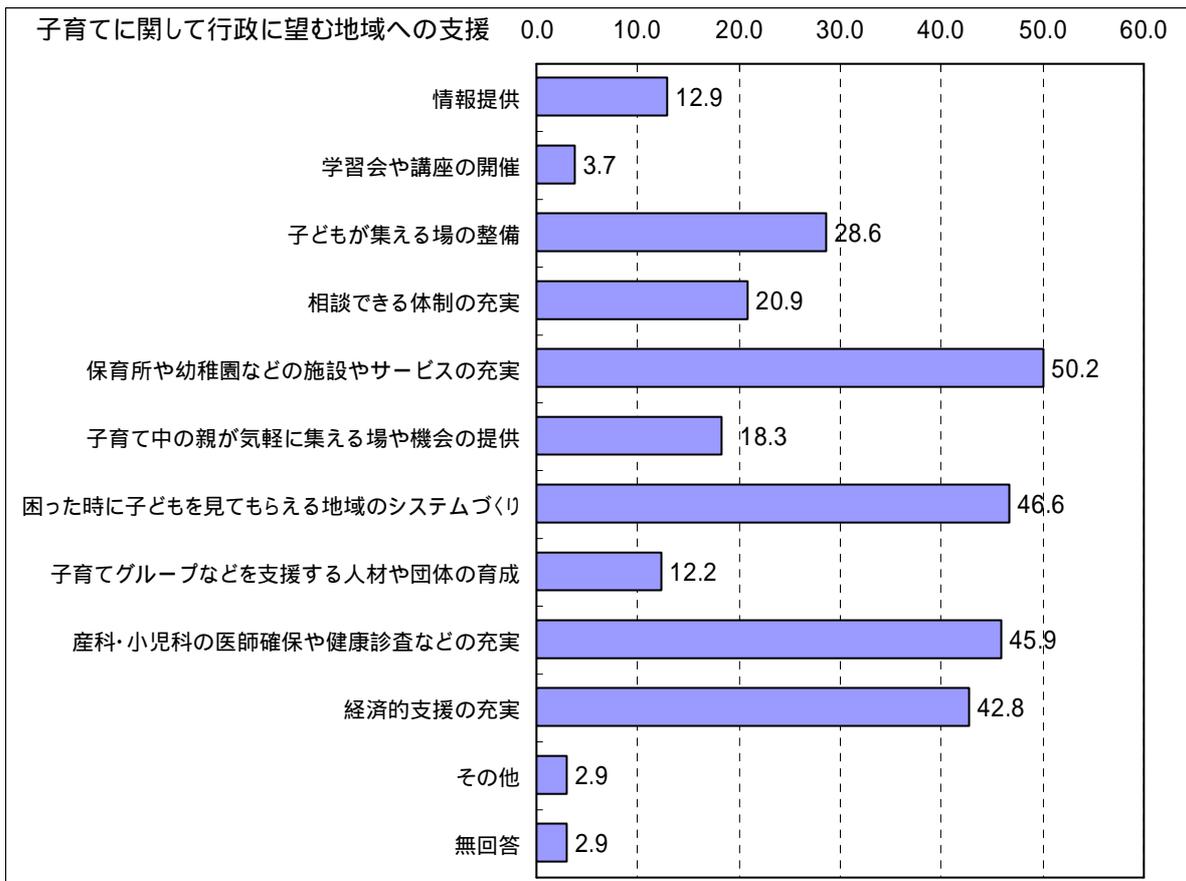
	1 子育てや家事の負担が大きい	2 子どもの育て方がわからない	3 自分を生かせる時間がない	4 家族がともに子育てをしてくれない	5 子育ての悩みを相談できる相手がいない	6 子育てにお金がかかる	7 子育てしやすい労働条件が十分でない	8 保育所、幼稚園等の施設やサービスが十分でない	9 親子に対する保健・医療サービスが十分でない	10 その他
全 県	30.6	24.7	13.1	6.4	23.1	57.7	57.9	43.7	17.7	6.9
職業別										
自営業	31.7	29.6	12.5	4.4	19.4	58.8	51.6	40.6	15.7	11.9
正規社員(職員)	32.3	20.1	13.9	6.3	19.6	65.0	66.4	45.6	16.4	6.1
会社等の役員	23.9	30.3	6.4	1.2	34.4	53.1	53.2	57.9	25.3	4.4
契約・派遣社員	34.0	27.1	16.5	7.8	29.2	57.7	61.7	45.4	17.6	0.7
パートアルバイト	24.2	25.3	12.4	9.3	24.5	60.7	60.8	40.5	17.9	9.4
主婦(主夫)	35.5	19.9	13.5	6.1	21.8	58.9	59.9	44.1	20.3	7.1
学生	33.3	34.8	14.4	2.1	27.0	54.7	62.4	41.9	16.6	11.9
その他無職	27.8	30.2	12.6	6.9	27.2	46.0	46.8	42.1	16.7	5.3
職業間の差	11.6	14.9	10.1	8.1	15.0	19.0	19.7	17.4	9.6	11.2

(3)子育てに関して行政に望む地域への支援

問 8-2 地域で子育てを支援する行政の取組として、特にどのようなものを望みますか。この中から3つ選んで 印をつけてください。

- 1 情報提供
- 2 学習会や講座の開催
- 3 子どもが集える場の整備
- 4 相談できる体制の充実
- 5 保育所や幼稚園などの施設やサービスの充実
- 6 子育て中の親が気軽に集える場や機会の提供
- 7 困った時に子どもを見てもらえる地域のシステムづくり
- 8 子育てグループなどを支援する人材や団体の育成
- 9 産科・小児科の医師確保や健康診査・保健指導などの充実
- 10 経済的支援の充実
- 11 その他

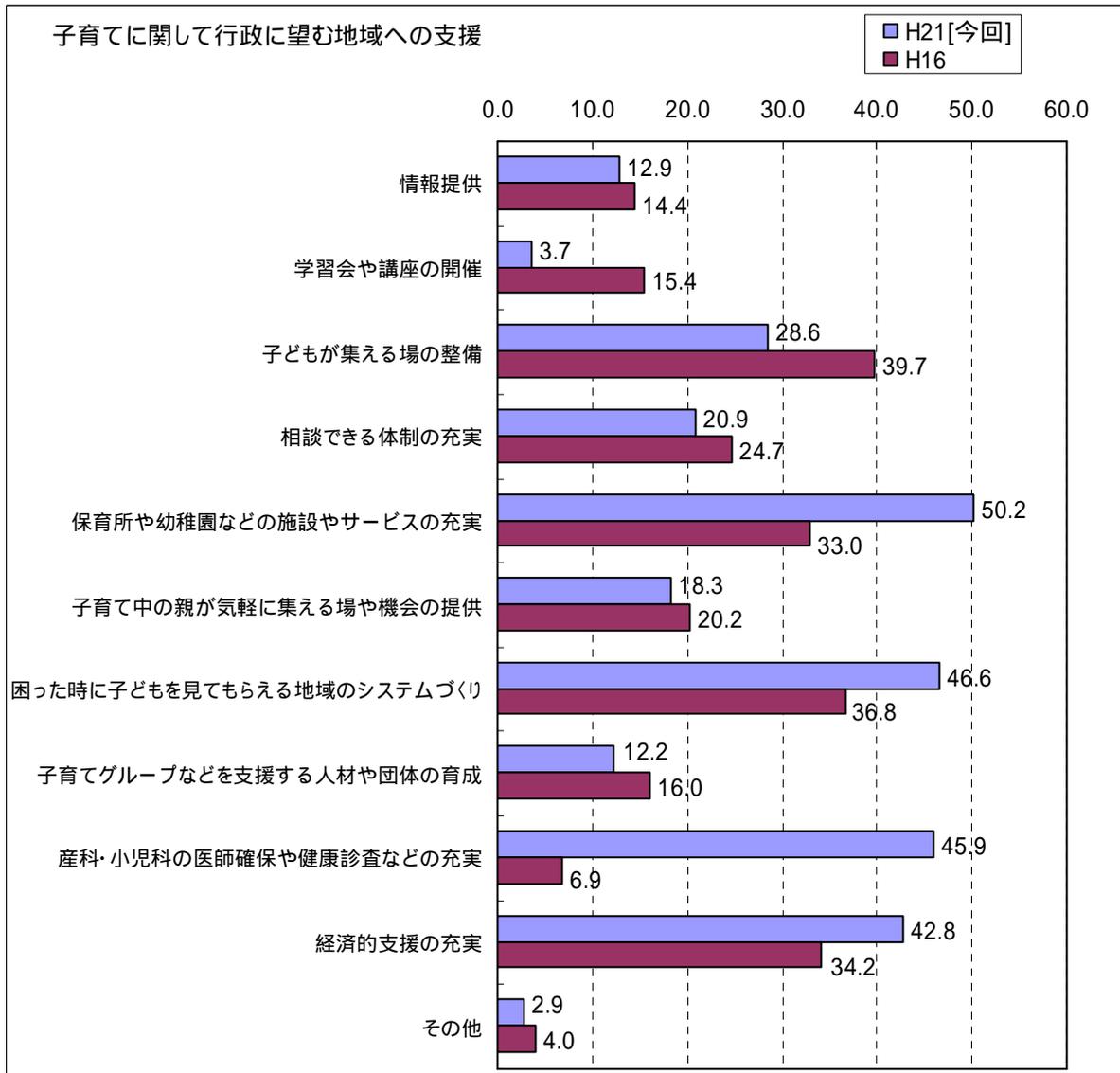
子育てに関して行政に望む地域への支援では、「保育所や幼稚園などの施設やサービスの充実」(50.2%)が5割で最も多く、「困った時に子どもを見てもらえる地域のシステムづくり」(46.6%)、「産科・小児科の医師確保や健康診査などの充実」(45.9%)、「経済的支援の充実」(42.8%)が4割台で続く。一方、「学習会や講座の開催」(3.7%)は僅かであり、「子育てグループなどを支援する人材や団体の育成」(12.2%)や「情報提供」(12.9%)は1割強である。



平成 16 年調査との比較

本県が平成 16 年に実施した県民意識調査での結果と比較すると、前回は「子どもが集える場の整備」が約 4 割で最も多くなっていたが、今回は前回より 11.1 ポイント減少(39.7% 28.6%)し、3 割を下回っている。逆に、今回最も多かった「保育所や幼稚園などの施設やサービスの充実」は、前回より 17.2 ポイント増加(33.0% 50.2%)している。

「産科・小児科の医師確保や健康診査などの充実」は、前回の選択肢では「妊産婦や乳幼児などの健康診査や保育指導など保健医療の充実」としていた。



地域別

地域別でみると、全項目の中で最も大きな地域差が出ているのが、「産科・小児科の医師確保や健康診査などの充実」で、但馬(58.9%)、西播磨(55.5%)、丹波(54.1%)で5割台半ばと多いが、淡路(38.3%)、阪神北(40.1%)、阪神南(40.6%)では4割前後に止まっている。また、「保育所や幼稚園などの施設やサービスの充実」が、阪神南(54.7%)、神戸(51.9%)、阪神北(50.2%)で5割を超えるが、淡路(39.7%)、但馬(41.1%)では4割前後に止まっている。

子育てに関して行政に望む地域への支援【地域別】

(%)

	1 情報提供	2 学習会や講座の開催	3 子どもが集える場の整備	4 相談できる体制の充実	5 保育所や幼稚園などの施設やサービスの充実	6 子育て中の親が気軽に集える場や機会の提供	7 困った時に子どもを見てもらえる地域のシステムづくり	8 子育てグループなどを支援する人材や団体の育成	9 産科・小児科の医師確保や健康診査などの充実	10 経済的支援の充実	11 その他
全 県	12.9	3.7	28.6	20.9	50.2	18.3	46.6	12.2	45.9	42.8	2.9
地域別											
神 戸	12.4	2.7	27.5	20.9	51.9	17.4	46.9	12.0	46.9	43.8	1.6
阪神南	12.6	3.9	28.3	22.8	54.7	18.9	43.7	13.0	40.6	43.3	3.5
阪神北	12.9	3.9	32.6	19.7	50.2	19.4	46.6	14.3	40.1	42.3	3.6
東播磨	14.4	3.1	26.8	22.6	49.8	16.0	50.6	9.7	50.6	42.4	3.1
北播磨	13.6	3.2	30.0	20.0	43.2	22.1	42.1	13.2	48.9	45.4	4.6
中播磨	12.5	5.4	28.0	20.2	48.2	18.3	47.1	11.3	44.4	43.2	3.9
西播磨	12.9	4.8	29.0	19.0	48.1	18.7	48.1	14.2	55.5	39.0	2.9
但 馬	11.0	4.3	28.8	17.8	41.1	17.5	47.9	11.3	58.9	37.1	1.8
丹 波	11.0	5.3	23.7	19.4	47.7	18.7	44.2	11.0	54.1	41.0	2.1
淡 路	18.4	3.9	31.2	18.1	39.7	22.3	49.6	11.0	38.3	42.2	3.2
地域間の差	7.5	2.7	8.9	5.0	15.0	6.4	8.4	4.6	20.6	8.2	3.1

性別、性・年代別

性別では、「困った時に子ども見てもらえる地域のシステムづくり」が男性(39.9%)より女性(52.2%)で12.3ポイント多い。逆に、「経済的支援の充実」が女性(38.2%)より男性(48.4%)で10.2ポイント多くなっている。

性・年代別で見ると、全県で1位だった「保育所や幼稚園などの施設やサービスの充実」が、女性では年代が上がるほど少なくなる傾向にあり、最も多い20代(68.4%)で7割近いが、最も少ない80歳以上(33.6%)では3割前半に止まっている。一方、男性では、最も多い60代(64.7%)で6割台半ばと、他の年代(5割～5割台半ば)より多くなっており、逆に70代(39.2%)では4割を下回り最も少なくなっている。

また、「経済的支援の充実」でも、女性では年代が上がるほど少なくなっており、最も多い20代(57.5%)で5割台後半であるが、最も少ない80歳以上(26.7%)では2割台半ばになっている。一方、男性では、20～40代で5割台半ば～6割台半ばと多いが、60代～80歳以上では3割台に止まっている。

子育てに関して行政に望む地域への支援【性別】

(%)

	1 情報提供	2 学習会や 講座の開 催	3 子どもが集 える場の 整備	4 相談できる 体制の充 実	5 保育所や 幼稚園な どの施設 やサービ スの充実	6 子育て中 の親が気 軽に集え る場や機 会の提供	7 困った時 に子ども を見ても らえる地 域のシス テムづく り	8 子育てグ ループな どを支援 する人材 や団体の 育成	9 産科・小 児科の医 師確保や 健康診査 などの充 実	10 経済的支 援の充実	11 その他
全 県	12.9	3.7	28.6	20.9	50.2	18.3	46.6	12.2	45.9	42.8	2.9
性別											
男 性	13.1	3.6	29.0	20.6	53.8	17.9	39.9	13.7	44.3	48.4	2.7
女 性	12.9	3.6	28.1	21.0	47.4	18.6	52.2	11.0	47.2	38.2	3.1
性別間の差	0.2	0.1	0.9	0.4	6.3	0.7	12.3	2.7	3.0	10.2	0.4

子育てに関して行政に望む地域への支援【性・年代別、男性】

(%)

	1 情報提供	2 学習会や 講座の開 催	3 子どもが集 える場の 整備	4 相談できる 体制の充 実	5 保育所や 幼稚園な どの施設 やサービ スの充実	6 子育て中 の親が気 軽に集え る場や機 会の提供	7 困った時 に子ども を見ても らえる地 域のシス テムづく り	8 子育てグ ループな どを支援 する人材 や団体の 育成	9 産科・小 児科の医 師確保や 健康診査 などの充 実	10 経済的支 援の充実	11 その他
全 県	12.9	3.7	28.6	20.9	50.2	18.3	46.6	12.2	45.9	42.8	2.9
性・年代別											
男 性											
20代	11.5	7.8	25.3	22.2	49.5	22.7	37.3	10.0	47.8	54.3	1.7
30代	14.4	2.9	27.4	15.9	54.2	15.2	33.8	7.6	50.4	64.1	5.3
40代	9.7	4.5	28.7	20.4	49.1	10.0	50.9	12.1	46.9	59.9	2.1
50代	9.0	1.0	36.0	21.1	56.2	18.5	38.2	18.4	40.2	48.5	1.5
60代	12.3	4.3	26.0	19.5	64.7	18.9	45.5	14.9	41.3	39.4	2.1
70代	20.0	2.0	29.1	26.9	39.2	23.0	37.9	17.1	41.3	32.0	3.9
80以上	20.2	6.0	31.8	19.5	55.2	19.6	18.9	14.9	47.3	38.8	1.7
年代間の差	11.2	6.8	10.7	11.0	25.5	13.0	32.0	10.7	10.2	32.1	3.8

子育てに関して行政に望む地域への支援【性・年代別、女性】

(%)

	1 情報提供	2 学習会や 講座の開 催	3 子どもが集 える場の 整備	4 相談できる 体制の充 実	5 保育所や 幼稚園な どの施設 やサービ スの充実	6 子育て中 の親が気 軽に集え る場や機 会の提供	7 困った時 に子ども を見ても らえる地 域のシス テムづく り	8 子育てグ ループな どを支援 する人材 や団体の 育成	9 産科・小 児科の医 師確保や 健康診査 などの充 実	10 経済的支 援の充実	11 その他
全 県	12.9	3.7	28.6	20.9	50.2	18.3	46.6	12.2	45.9	42.8	2.9
性・年代別											
女 性											
20代	7.9	2.8	28.2	17.2	68.4	18.3	38.6	4.6	50.4	57.5	2.5
30代	11.5	3.6	33.1	17.4	50.0	11.3	53.6	8.3	54.6	50.4	2.9
40代	14.4	2.8	34.2	12.4	45.8	15.3	54.2	12.0	49.7	42.9	5.0
50代	12.5	3.4	24.1	21.1	49.5	24.7	54.4	14.1	46.5	38.6	2.1
60代	14.3	3.7	23.3	24.6	48.3	20.2	59.4	10.8	49.4	28.6	3.0
70代	14.4	4.5	25.9	28.9	38.1	20.7	45.7	10.3	34.7	27.8	3.0
80以上	12.5	3.6	28.7	28.9	33.6	20.8	50.6	16.3	40.1	26.7	0.9
年代間の差	6.5	1.8	10.9	16.5	34.9	13.4	20.8	11.7	20.0	30.8	4.1

職業別

職業別で、一番大きな職業間の差が出ているのが、「経済的支援の充実」で、正規社員(職員)(53.7%)と契約・派遣社員(52.0%)で5割を超えているが、学生(23.3%)で2割台、その他無職(34.0%)、主婦(主夫)(37.2%)でも3割台に止まっている。また、「保育所や幼稚園などの施設やサービスの充実」が、会社等の役員(70.6%)で7割、契約派遣・社員(65.3%)で6割台半ばと、他の職業(概ね4割台)より多い。「子どもが集える場の整備」では、学生(43.5%)で4割強、主婦(34.6%)で3割台半ばと他の職業(2割台)より多くなっている。

子育てに関して行政に望む地域への支援【職業別】

(%)

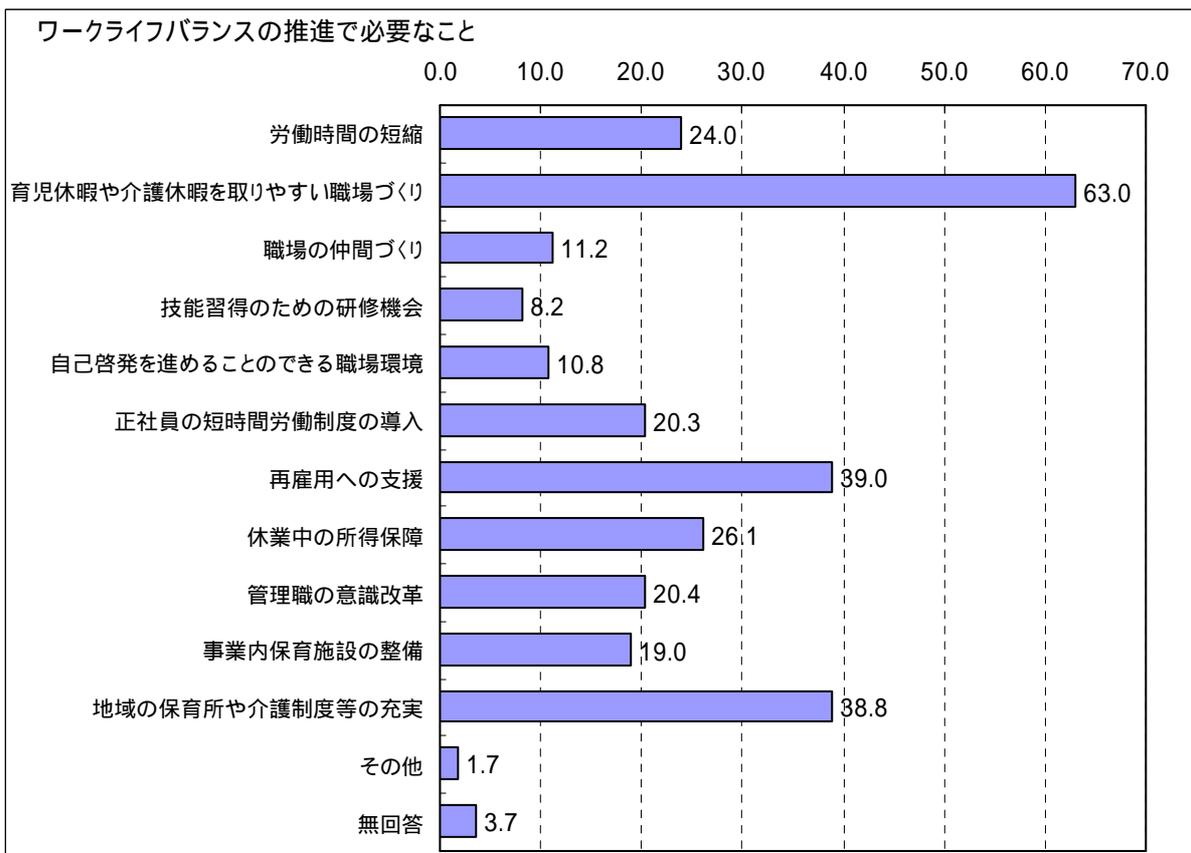
	1 情報提供	2 学習会や 講座の開催	3 子どもが集 える場の 整備	4 相談できる 体制の充 実	5 保育所や 幼稚園な どの施設 やサービ スの充実	6 子育て中 の親が気 軽に集え る場や機 会の提供	7 困った時 に子ども を見ても らえる地 域のシス テムづく り	8 子育てグ ループな などを支 援する人 材や団体 の育成	9 産科・小 児科の医 師確保や 健康診査 などの充 実	10 経済的支 援の充実	11 その他
全 県	12.9	3.7	28.6	20.9	50.2	18.3	46.6	12.2	45.9	42.8	2.9
職業別											
自営業	14.4	5.8	28.4	19.4	48.8	17.0	47.6	12.1	41.6	41.9	5.1
正規社員(職員)	10.0	2.0	27.9	16.5	56.2	15.8	47.6	11.1	47.9	53.7	2.2
会社等の役員	9.4	2.2	21.5	16.1	70.6	16.5	52.5	16.0	41.0	45.5	1.3
契約・派遣社員	14.4	3.7	29.7	15.1	65.3	18.8	41.1	9.9	43.2	52.0	2.9
パートアルバイト	18.7	4.4	28.1	18.1	48.8	18.0	46.7	10.9	47.6	42.5	5.1
主婦(主夫)	12.6	3.8	34.6	20.2	43.5	21.7	52.0	11.8	49.4	37.2	2.9
学生	11.3	9.8	43.5	28.5	47.8	30.4	47.3	9.0	43.3	23.3	3.8
その他無職	14.0	4.3	24.4	30.1	44.4	19.2	40.9	14.6	43.2	34.0	1.8
職業間の差	9.3	7.9	22.0	15.0	27.1	14.6	11.6	7.0	8.4	30.4	3.8

(4)ワークライフバランスの推進に必要なこと

問9 「仕事と生活のバランス」を推進するために、特に必要だと思うものを次の中から3つ選んで 印をつけて下さい。

- 1 労働時間の短縮
- 2 育児休暇や介護休暇を取りやすい職場づくり
- 3 職場の仲間づくり
- 4 技能の習得のための研修機会
- 5 自己啓発を進めることのできる職場環境
- 6 正社員の短時間労働制度の導入
- 7 再雇用への支援
- 8 休業中の所得保障
- 9 管理職の意識改革
- 10 事業内保育施設の整備
- 11 地域の保育所や介護制度等の充実
- 12 その他()

ワークライフバランスの推進で必要なことでは、「育児休業や介護休暇を取りやすい職場づくり」(63.0%)が6割を超えており、「再雇用への支援」(39.0%)と「地域の保育所や介護制度等の充実」(38.8%)が4割弱で続いている。一方、「技能習得のための研修機会」(8.2%)、「自己啓発を進めることのできる職場環境」(10.8%)、「職場の仲間づくり」(11.2%)は1割前後である。



地域別

項目ごとに地域間の差をみると、「休業中の所得保障」(淡路 35.5%、神戸 23.3%)の 12.2 ポイントが最も大きく、次いで、「地域の保育所や介護制度等の充実」(阪神北 43.0%、丹波 32.5%)で 10.5 ポイントの地域差が生じている。このほかの項目は、10 ポイント以内となっている。

ワークライフバランスの推進で必要なこと【地域別】

(%)

	1 労働時間の短縮	2 育児休暇や介護休暇を取りやすい職場づくり	3 職場の仲間づくり	4 技能習得のための研修機会	5 自己啓発を進めることのできる職場環境	6 正社員の短時間労働制度の導入	7 再雇用への支援	8 休業中の所得保障	9 管理職の意識改革	10 事業内保育施設の整備	11 地域の保育所や介護制度等の充実	12 その他
全 県	24.0	63.0	11.2	8.2	10.8	20.3	39.0	26.1	20.4	19.0	38.8	1.7
地域別												
神 戸	23.6	62.0	9.3	7.4	10.1	17.1	37.2	23.3	24.8	21.7	38.8	1.2
阪神南	23.6	59.8	11.0	10.2	9.8	24.4	36.6	29.5	19.7	19.7	37.0	3.1
阪神北	24.7	66.3	9.7	7.9	11.5	19.4	41.6	24.0	17.6	17.9	43.0	2.5
東播磨	27.2	67.7	12.5	6.2	12.1	19.8	37.7	25.7	16.7	17.9	42.8	0.8
北播磨	18.2	61.8	15.7	10.7	11.4	17.5	46.4	26.1	19.3	16.8	36.4	3.2
中播磨	26.8	61.1	12.1	7.8	10.9	24.1	39.3	26.8	21.4	19.1	35.4	0.8
西播磨	21.3	67.4	13.5	10.6	9.7	24.5	42.3	26.5	18.1	15.5	38.4	0.6
但 馬	20.9	58.6	14.7	8.9	13.2	19.0	42.3	27.9	18.4	12.0	40.5	1.5
丹 波	22.6	65.0	13.1	4.9	9.5	20.5	38.9	28.3	19.1	17.7	32.5	1.8
淡 路	21.6	63.8	9.9	9.2	12.4	17.0	41.1	35.5	15.2	17.0	35.1	2.1
地域間の差	9.0	9.1	6.4	5.8	3.6	7.5	9.8	12.2	9.6	9.7	10.5	2.6

性別、性・年代別

性別では、「育児休暇や介護休暇を取りやすい職場づくり」が男性(57.2%)より女性(67.8%)で10.6ポイント多く、逆に、「労働時間の短縮」が女性(19.1%)より男性(29.9%)で10.8ポイント多くなっており、他の項目ではこれ以上の差は生じていない。

性・年代別でみると、大きな年代差が生じているのは、男性では、「地域の保育所や介護制度等の充実」の30.7ポイントで、3割台の年代が多い中、60代(50.7%)で5割と多いが、20代(20.0%)では2割に止まる。次いで、「労働時間の短縮」の25.2ポイントで、年代が上がるほど、減少する傾向にあり、最も多い20代(43.1%)で4割を超えるが、70代(17.9%)、80歳以上(19.2%)では2割に満たない。

次に、女性では、「休業中の所得保障」の27.9ポイントが最も大きく、2割台前半の年代が多い中、20代(44.4%)では4割台半ばと最も多い。次いで、「管理職の意識改革」の20.1ポイントで、30～50代で2割台となっているが、60代以上では1割前後と少なくなっている。

ワークライフバランスの推進に必要なこと【性別】

(%)

	1 労働時間の短縮	2 育児休暇や介護休暇を取りやすい職場づくり	3 職場の仲間づくり	4 技能習得のための研修機会	5 自己啓発を進めることのできる職場環境	6 正社員の短時間労働制度の導入	7 再雇用への支援	8 休業中の所得保障	9 管理職の意識改革	10 事業内保育施設の整備	11 地域の保育所や介護制度等の充実	12 その他
全 県	24.0	63.0	11.2	8.2	10.8	20.3	39.0	26.1	20.4	19.0	38.8	1.7
性別												
男 性	29.9	57.2	12.3	9.0	14.5	17.6	38.4	27.0	23.3	15.7	36.4	2.6
女 性	19.1	67.8	10.2	7.6	7.7	22.5	39.5	25.2	18.1	21.7	40.9	1.1
性別間の差	10.8	10.6	2.1	1.4	6.8	4.8	1.2	1.8	5.2	6.0	4.5	1.5

ワークライフバランスの推進に必要なこと【性・年代別、男性】

(%)

	1 労働時間の短縮	2 育児休暇や介護休暇を取りやすい職場づくり	3 職場の仲間づくり	4 技能習得のための研修機会	5 自己啓発を進めることのできる職場環境	6 正社員の短時間労働制度の導入	7 再雇用への支援	8 休業中の所得保障	9 管理職の意識改革	10 事業内保育施設の整備	11 地域の保育所や介護制度等の充実	12 その他
全 県	24.0	63.0	11.2	8.2	10.8	20.3	39.0	26.1	20.4	19.0	38.8	1.7
性・年代別												
男 性												
20代	43.1	65.4	11.8	4.6	12.4	23.1	38.3	31.3	26.3	13.3	20.0	0.9
30代	37.2	49.6	11.2	8.1	12.1	21.7	33.6	29.5	31.7	23.0	32.3	2.3
40代	37.2	47.8	12.7	8.8	19.5	22.5	33.0	24.8	32.1	10.0	30.1	4.7
50代	31.4	56.6	13.3	6.5	16.7	13.9	44.0	31.0	24.0	14.2	35.1	2.6
60代	23.1	63.5	11.9	10.6	10.8	15.2	45.2	21.2	15.7	16.0	50.7	1.7
70代	17.9	58.9	10.9	15.8	14.9	13.6	36.0	24.4	17.3	16.7	37.6	2.3
80以上	19.2	61.0	16.6	4.9	20.1	15.6	25.9	36.4	13.7	14.7	35.6	4.7
年代間の差	25.2	17.6	5.7	11.2	9.3	9.5	19.4	15.3	18.4	13.0	30.7	3.8

ワークライフバランスの推進に必要なこと【性・年代別、女性】

(%)

	1 労働時間の短縮	2 育児休暇や介護休暇を取りやすい職場づくり	3 職場の仲間づくり	4 技能習得のための研修機会	5 自己啓発を進めることのできる職場環境	6 正社員の短時間労働制度の導入	7 再雇用への支援	8 休業中の所得保障	9 管理職の意識改革	10 事業内保育施設の整備	11 地域の保育所や介護制度等の充実	12 その他
全 県	24.0	63.0	11.2	8.2	10.8	20.3	39.0	26.1	20.4	19.0	38.8	1.7
性・年代別												
女 性												
20代	24.1	70.9	12.5	4.9	4.5	32.8	33.9	44.4	14.9	12.2	44.1	0.2
30代	23.0	63.8	8.2	6.6	9.6	29.7	30.7	22.6	28.9	31.8	36.3	1.8
40代	22.3	67.2	9.1	8.8	6.1	20.5	43.4	24.4	24.0	24.0	42.2	0.2
50代	16.1	75.8	10.6	6.2	7.2	18.8	46.7	22.2	20.0	23.1	41.2	1.1
60代	17.6	69.8	9.8	6.0	7.3	25.5	42.9	29.1	10.3	19.5	45.0	0.9
70代	15.3	62.6	14.0	13.3	9.7	14.9	35.3	16.5	12.9	17.5	37.5	1.9
80以上	15.6	62.2	7.7	8.4	9.0	15.3	38.3	22.9	8.8	16.8	40.2	1.8
年代間の差	8.8	13.6	6.3	8.4	5.2	17.9	16.0	27.9	20.1	19.6	8.7	1.6

職業別

職業別では、「地域の保育所や介護制度等の充実」で最も大きな職業間の差が生じており、最も多い会社等の役員(59.0%)と最も少ない学生(28.3%)で 30.6 ポイントの差がある。次いで、「育児休暇や介護休暇を取りやすい職場づくり」の 28.9 ポイントだが、前者とは逆に、学生(77.7%)で最も多く、会社等の役員(48.8%)で最も少なくなっている。

ワークライフバランスの推進に必要なこと【職業別】

(%)

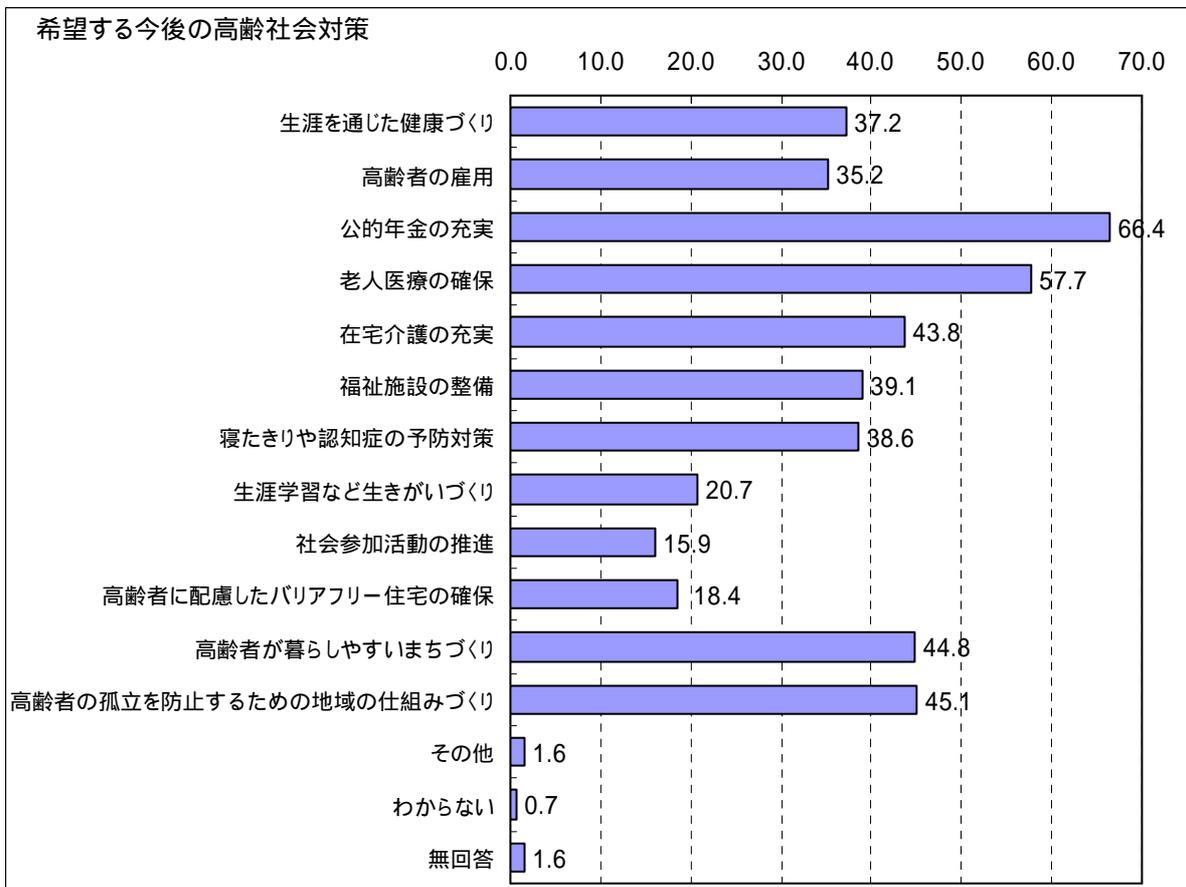
	1 労働時間の短縮	2 育児休暇や介護休暇を取りやすい職場づくり	3 職場の仲間づくり	4 技能習得のための研修機会	5 自己啓発を進めることのできる職場環境	6 正社員の短時間労働制度の導入	7 再雇用への支援	8 休業中の所得保障	9 管理職の意識改革	10 事業内保育施設の整備	11 地域の保育所や介護制度等の充実	12 その他
全 県	24.0	63.0	11.2	8.2	10.8	20.3	39.0	26.1	20.4	19.0	38.8	1.7
職業別												
自営業	15.7	59.1	15.9	9.7	15.3	16.0	40.9	32.1	17.2	16.2	41.8	1.9
正規社員(職員)	34.9	58.4	10.1	5.9	10.6	26.2	33.2	26.4	31.2	17.3	34.9	1.8
会社等の役員	16.2	48.8	17.7	5.3	22.8	19.9	41.8	31.2	13.1	11.6	59.0	2.5
契約・派遣社員	24.8	67.3	14.1	12.8	22.8	6.0	52.3	25.2	12.2	14.1	42.2	1.1
パート・アルバイト	16.6	69.7	11.8	7.7	7.1	21.7	48.1	26.5	17.5	21.8	35.0	1.2
主婦(主夫)	21.8	71.9	6.6	7.7	8.0	22.6	42.9	23.7	14.7	24.7	42.5	2.1
学生	34.8	77.7	13.1	2.5	7.5	13.3	43.1	38.2	22.2	17.2	28.3	2.1
その他無職	19.9	60.2	12.3	11.3	9.6	15.8	34.1	23.7	16.8	19.2	38.6	1.7
職業間の差	19.1	28.9	11.1	10.4	15.8	20.2	19.1	14.5	18.9	13.0	30.6	1.4

(5) 希望する今後の高齢社会対策

問 10 あなたは、今後の高齢社会対策において、どのような政策に重点を置くことを希望しますか。この中からいくつでも選んで 印をつけて下さい。

- 1 生涯を通じた健康づくり
- 2 高齢者の雇用
- 3 公的年金の充実
- 4 老人医療の確保
- 5 在宅介護の充実
- 6 福祉施設の整備
- 7 寝たきりや認知症の予防対策
- 8 生涯学習など生きがいづくり
- 9 社会参加活動の推進
- 10 高齢者に配慮したバリアフリー住宅の確保
- 11 高齢者が暮らしやすいまちづくり
- 12 高齢者の孤立を防止するための地域の仕組みづくり
- 13 その他()
- 14 わからない

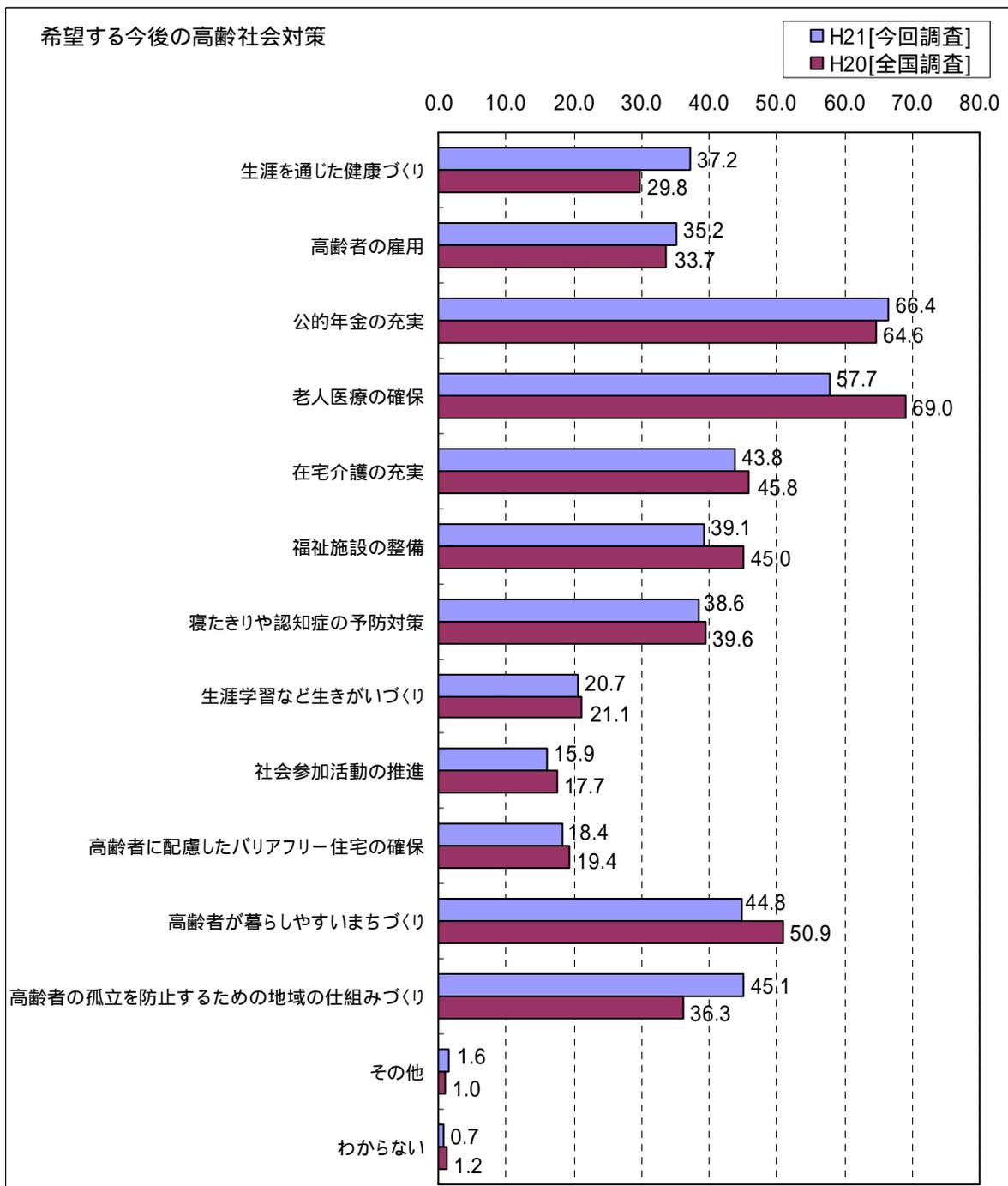
希望する今後の高齢社会対策では、「公的年金の充実」(66.4%)が6割台半ばと最も多く、「老人医療の確保」(57.7%)が5割台後半、「高齢者の孤立を防止するための地域の仕組みづくり」(45.1%)、「高齢者が暮らしやすいまちづくり」(44.8%)、「在宅介護の充実」(43.8%)が4割台で続いている。一方、「社会参加活動の推進」(15.9%)、「高齢者に配慮したバリアフリー住宅の確保」(18.4%)は1割台である。



【参考：平成 20 年の全国調査との比較】

調査対象者や調査方法、選択肢数など異なる部分があるが、参考までに、内閣府が平成 20 年に実施した調査結果と比較した。

前回の「子供が健やかに生まれ育つための環境づくり」の選択肢を今回は設けていないため、表示していない。



地域別

地域別でみると、全県集計での上位3項目のうち、3位の「高齢者の孤立を防止するための地域の仕組みづくり」が10ポイントを超える差が生じており、4割台の地域が多い中、阪神南(50.0%)で5割に及ぶ一方、丹波(37.1%)では3割台に止まっている。このほかの項目の地域差をみても、大きくて10ポイント程度に止まっている。

希望する今後の高齢社会対策【地域別】

(%)

	1 生涯を通じた健康づくり	2 高齢者の雇用	3 公的年金の充実	4 老人医療の確保	5 在宅介護の充実	6 福祉施設の整備	7 寝たきりや認知症の予防対策	8 生涯学習など生きがいづくり	9 社会参加活動の推進	10 高齢者に配慮したバリアフリー住宅の確保	11 高齢者が暮らしやすいまちづくり	12 高齢者の孤立を防止するための地域の仕組みづくり	13 その他	14 わからない
全 県	37.2	35.2	66.4	57.7	43.8	39.1	38.6	20.7	15.9	18.4	44.8	45.1	1.6	0.7
地域別														
神 戸	38.8	38.0	64.3	58.9	41.9	39.5	35.7	19.8	19.0	19.4	42.2	44.2	1.6	0.4
阪神南	35.8	37.8	68.5	55.5	50.0	41.3	41.7	22.8	16.1	22.0	48.4	50.0	1.6	2.0
阪神北	38.4	35.8	64.2	59.9	45.5	45.5	40.5	24.0	17.9	19.7	47.0	48.4	2.5	0.4
東播磨	36.2	30.7	69.6	54.9	40.5	34.6	35.8	17.1	14.8	16.3	44.4	45.1	1.6	0.0
北播磨	37.9	35.4	68.6	61.1	41.4	36.4	40.7	25.7	10.4	15.4	42.1	41.1	2.1	0.0
中播磨	36.2	33.9	65.0	57.2	42.0	37.4	42.8	17.1	13.2	18.3	45.5	40.1	0.8	1.2
西播磨	35.2	32.9	68.7	58.1	42.6	36.1	39.4	23.9	12.6	14.8	45.2	45.2	2.3	0.0
但 馬	42.9	27.3	66.3	57.4	47.2	34.4	32.2	17.5	13.2	10.4	43.6	42.6	1.2	0.3
丹 波	31.8	29.7	63.6	57.2	39.9	35.3	38.2	17.0	12.4	12.7	45.6	37.1	1.8	0.0
淡 路	31.9	31.2	66.7	60.3	39.4	36.5	37.9	20.9	12.8	14.5	41.8	40.1	1.1	0.7
地域間の差	11.1	10.7	6.0	6.2	10.6	11.2	10.6	8.8	8.6	11.6	6.6	12.9	1.7	2.0

性別、性・年代別

性別では、「高齢者の孤立を防止するための地域の仕組みづくり」(男 40.6%、女 48.9%)が男性より女性で多い程度で、他の項目では特段の差は生じていない。

性・年代別で見ると、男女とも「高齢者の雇用」(男 26.9ポイント、女 40.0ポイントの差)で年代間の差が大きく生じており、男性では20～40代が4割台だが、80歳以上(19.8%)では2割を下回る。女性でも、30代(49.0%)、40代(46.3%)で4割台後半と多いが、80歳以上(9.1%)では1割に満たない。

このほか、20ポイントを超える年代差が生じているのは、男性では、「生涯を通じた健康づくり」(21.4ポイント)で、女性では、「高齢者の孤立を防止するための地域の仕組みづくり」(25.8ポイント)、「生涯を通じた健康づくり」(23.7ポイント)、「福祉施設の整備」(22.1ポイント)である。

希望する今後の高齢社会対策【性別】

(%)

	1 生涯を通じた健康づくり	2 高齢者の雇用	3 公的年金の充実	4 老人医療の確保	5 在宅介護の充実	6 福祉施設の整備	7 寝たきりや認知症の予防対策	8 生涯学習など生きがいづくり	9 社会参加活動の推進	10 高齢者に配慮したバリアフリー住宅の確保	11 高齢者が暮らしやすいまちづくり	12 高齢者の孤立を防止するための地域の仕組みづくり	13 その他	14 わからない
全 県	37.2	35.2	66.4	57.7	43.8	39.1	38.6	20.7	15.9	18.4	44.8	45.1	1.6	0.7
性別														
男 性	38.7	37.4	64.9	57.6	42.3	38.7	36.4	21.5	18.0	15.9	42.3	40.6	2.6	1.2
女 性	36.0	33.6	67.5	57.7	45.1	39.6	40.3	20.1	14.3	20.6	47.1	48.9	0.9	0.3
性別間の差	2.6	3.8	2.6	0.1	2.7	0.8	3.9	1.4	3.6	4.7	4.8	8.3	1.7	0.9

希望する今後の高齢社会対策【性・年代別、男性】

(%)

	1 生涯を通じた健康づくり	2 高齢者の雇用	3 公的年金の充実	4 老人医療の確保	5 在宅介護の充実	6 福祉施設の整備	7 寝たきりや認知症の予防対策	8 生涯学習など生きがいづくり	9 社会参加活動の推進	10 高齢者に配慮したバリアフリー住宅の確保	11 高齢者が暮らしやすいまちづくり	12 高齢者の孤立を防止するための地域の仕組みづくり	13 その他	14 わからない
全 県	37.2	35.2	66.4	57.7	43.8	39.1	38.6	20.7	15.9	18.4	44.8	45.1	1.6	0.7
性・年代別														
男 性														
20代	28.1	42.6	66.1	48.1	32.0	42.0	35.1	24.4	22.0	20.2	36.2	33.5	3.7	4.3
30代	33.1	44.3	58.6	49.0	40.2	37.7	37.9	23.2	15.5	18.9	40.3	38.2	1.9	3.1
40代	32.0	46.7	66.6	51.9	44.0	39.6	40.0	27.4	17.8	16.3	37.6	44.2	3.7	1.1
50代	35.0	34.0	65.4	61.6	40.4	41.9	35.0	17.2	14.8	11.9	45.4	43.2	2.1	0.0
60代	49.5	32.0	69.7	60.4	47.8	40.0	38.0	22.6	18.9	14.3	46.8	48.9	2.9	0.0
70代	44.3	36.0	62.3	68.0	42.4	31.6	30.5	18.7	22.8	14.8	40.4	30.0	1.1	0.7
80以上	43.1	19.8	61.8	64.0	45.5	36.0	37.2	11.1	12.2	20.3	47.1	33.2	3.6	0.0
年代間の差	21.4	26.9	11.1	19.9	15.8	10.4	9.4	16.2	10.6	8.4	10.9	19.0	2.6	4.3

希望する今後の高齢社会対策【性・年代別、女性】

(%)

	1 生涯を通じた健康づくり	2 高齢者の雇用	3 公的年金の充実	4 老人医療の確保	5 在宅介護の充実	6 福祉施設の整備	7 寝たきりや認知症の予防対策	8 生涯学習など生きがいづくり	9 社会参加活動の推進	10 高齢者に配慮したバリアフリー住宅の確保	11 高齢者が暮らしやすいまちづくり	12 高齢者の孤立を防止するための地域の仕組みづくり	13 その他	14 わからない
全 県	37.2	35.2	66.4	57.7	43.8	39.1	38.6	20.7	15.9	18.4	44.8	45.1	1.6	0.7
性・年代別														
女 性														
20代	21.8	37.8	69.4	51.1	47.6	45.8	40.4	30.5	25.5	29.7	50.5	52.5	0.4	0.0
30代	39.9	49.0	65.2	52.0	46.4	48.5	42.5	25.1	18.0	23.5	51.8	59.6	0.2	0.0
40代	33.1	46.3	58.5	57.2	44.7	44.4	39.6	21.8	19.1	18.6	44.0	57.8	0.6	0.4
50代	35.5	38.7	75.4	55.8	46.4	43.2	34.6	22.9	16.1	15.4	47.6	45.3	2.3	0.0
60代	35.1	27.8	73.8	65.2	40.9	35.4	42.7	16.0	8.4	21.4	47.5	47.1	1.0	0.1
70代	45.6	14.4	65.5	59.9	46.7	26.3	45.4	11.4	8.8	22.5	46.1	40.5	0.2	0.0
80以上	39.9	9.1	60.9	57.6	49.2	31.9	37.8	14.4	6.0	17.0	40.6	33.7	1.1	0.5
年代間の差	23.7	40.0	16.9	14.1	8.3	22.1	10.8	19.0	19.5	14.4	11.2	25.8	2.0	0.5

職業別

職業別では、職業間の差は、「在宅介護の充実」が 28.4 ポイントと最も大きく、「高齢者の雇用」、「高齢者の孤立を防止するための地域の仕組みづくり」、「公的年金の充実」も 20 ポイントを超えている。

希望する今後の高齢社会対策【職業別】

(%)

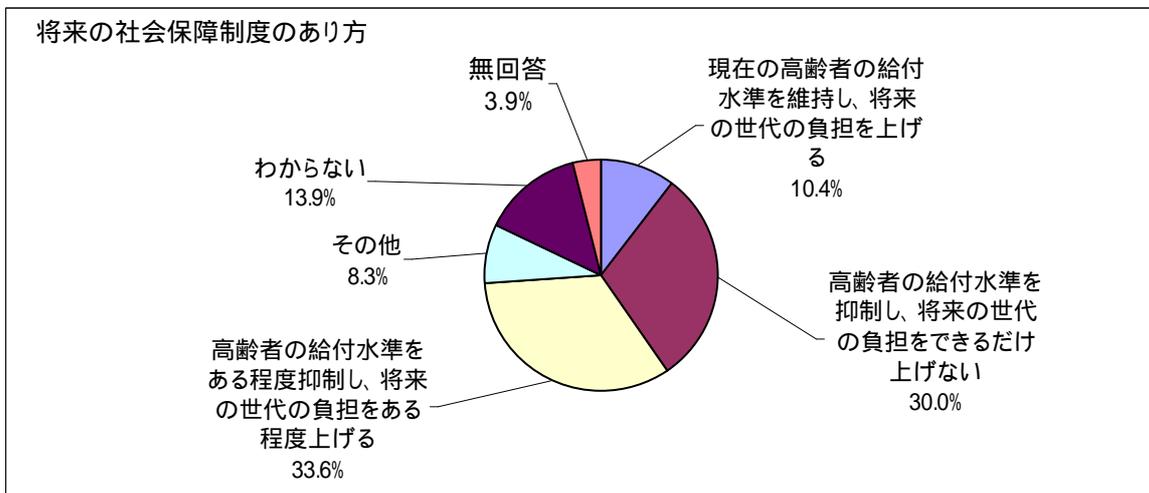
	1 生涯を通じた健康づくり	2 高齢者の雇用	3 公的年金の充実	4 老人医療の確保	5 在宅介護の充実	6 福祉施設の整備	7 寝たきりや認知症の予防対策	8 生涯学習など生きがいづくり	9 社会参加活動の推進	10 高齢者に配慮したバリアフリー住宅の確保	11 高齢者が暮らしやすいまちづくり	12 高齢者の孤立を防止するための地域の仕組みづくり	13 その他	14 わからない
全 県	37.2	35.2	66.4	57.7	43.8	39.1	38.6	20.7	15.9	18.4	44.8	45.1	1.6	0.7
職業別														
自営業	43.1	35.8	68.6	62.9	45.0	35.5	40.7	24.3	14.6	15.5	39.1	42.8	2.7	1.1
正規社員(職員)	34.0	44.6	66.7	50.5	42.4	39.2	36.2	22.5	16.2	15.3	46.3	47.8	1.1	0.8
会社等の役員	44.4	31.2	67.3	62.6	58.8	46.4	43.9	29.5	29.6	15.3	34.8	57.9	4.8	0.0
契約・派遣社員	32.5	44.5	73.3	51.6	30.4	50.3	28.8	29.4	18.7	14.3	42.9	43.9	4.8	1.6
パートアルバイト	33.4	41.4	66.0	61.5	43.5	39.7	41.4	14.3	13.0	22.2	49.7	46.0	1.2	0.0
主婦(主夫)	36.2	31.5	70.6	60.7	45.4	43.0	38.5	23.9	18.0	20.0	48.1	49.0	0.6	0.1
学生	27.4	39.9	50.1	49.4	33.2	46.8	37.5	25.0	25.3	31.6	45.2	34.3	0.0	3.8
その他無職	42.1	20.9	61.0	61.2	46.2	32.8	41.6	14.3	13.3	21.3	41.8	39.3	2.1	0.8
職業間の差	17.0	23.7	23.2	13.5	28.4	17.5	15.1	15.2	16.6	17.3	14.9	23.6	4.8	3.8

(6) 将来の社会保障制度のあり方

問 11 少子・高齢化が進むと将来の負担をする世代が減ります。これを踏まえた将来の社会保障制度について、あなたの考え方に近いものを次の中から1つ選んで番号に 印をつけて下さい。

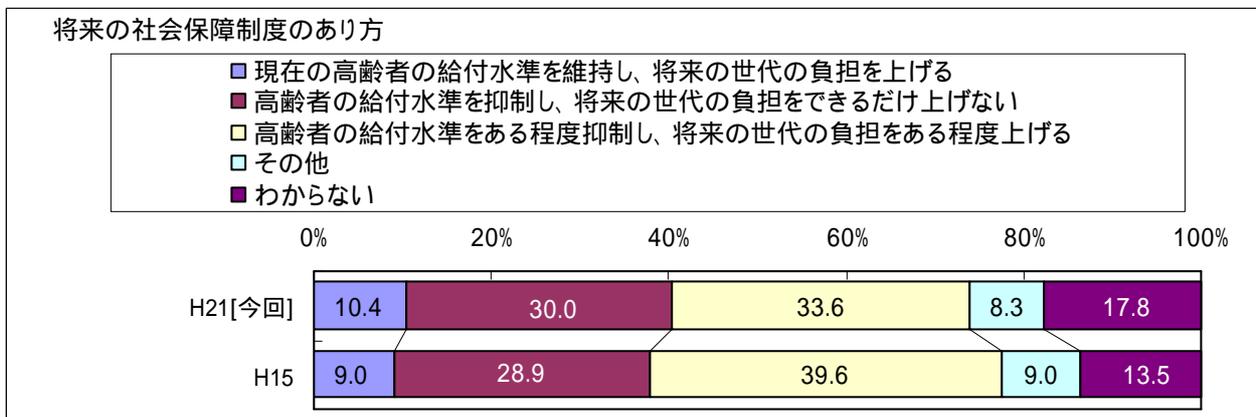
- 1 現在の高齢者の給付水準を維持し、将来の世代の負担を上げる
- 2 高齢者の給付水準を抑制し、将来の世代の負担をできるだけ上げない
- 3 高齢者の給付水準をある程度抑制し、将来の世代の負担をある程度上げる
- 4 その他()
- 5 わからない

将来の社会保障制度のあり方では、「高齢者の給付水準をある程度抑制し、将来の世代の負担をある程度上げる」(33.6%)が3割強と最も多いが、「高齢者の給付水準を抑制し、将来の世代の負担をできるだけ上げない」(30.0%)も3割ある。「現在の高齢者の給付水準を維持し、将来の世代の負担を上げる」(10.4%)は1割に止まっている。



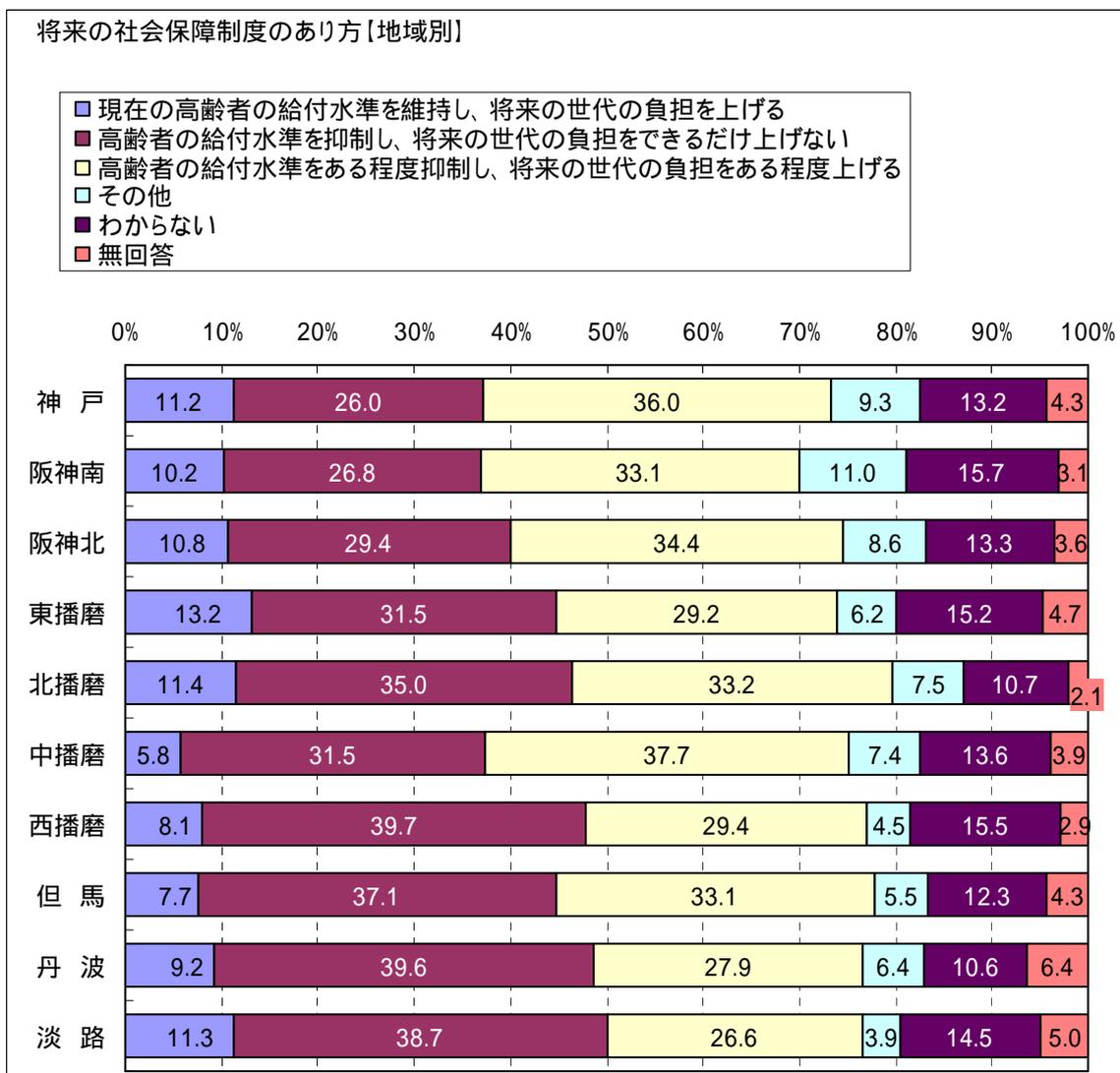
平成 15 年調査との比較

本県が平成 15 年に実施した県民意識調査での結果と比較すると、前回も「高齢者の給付水準をある程度抑制し、将来の世代の負担をある程度上げる」(39.6%)が最も多く、次いで、「高齢者の給付水準を抑制し、将来の世代の負担をできるだけ上げない」(28.9%)となっているが、前者は、今回 6 ポイント減少(39.6% 33.6%)しているが、後者は、1.1 ポイント増加(28.9% 30.0%)している。



地域別

地域別でみると、「高齢者の給付水準を抑制し、将来の世代の負担をできるだけ上げない」が西播磨(39.7%)、丹波(39.6%)、淡路(38.7%)で約4割と多いが、神戸(26.0%)、阪神南(26.8%)、阪神北(29.4%)では2割台に止まっている。



性別、性・年代別

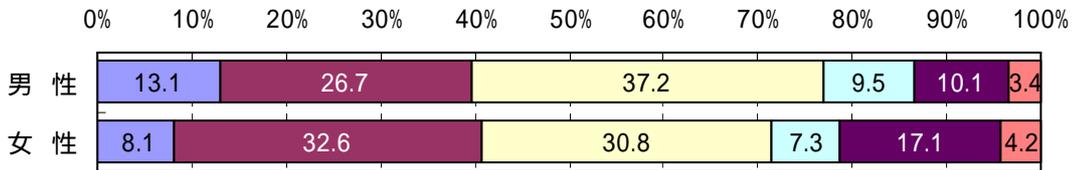
性別では、「現在の高齢者の給付水準を維持し、将来の世代の負担を上げる」(男 13.1%、女 8.1%)と「高齢者の給付水準をある程度抑制し、将来の世代の負担をある程度上げる」(男 37.2%、女 30.8%)が女性より男性で多く、「高齢者の給付水準を抑制し、将来の世代の負担をできるだけ上げない」(男 26.7%、女 32.6%)が男性より女性で多くなっている。

性・年代別でみると、「現在の高齢者の給付水準を維持し、将来の世代の負担を上げる」が、男性では、20代(4.1%)、30代(8.2%)、80歳以上(9.8%)で1割を下回るが、40~70代では1割を超え、特に60代(19.7%)は2割近い。女性では、20~60代で1割を下回り、70代(10.5%)で1割となり、80歳以上(20.1%)では2割に及ぶ。

また、「高齢者の給付水準をある程度抑制し、将来の世代の負担をある程度上げる」が、男性では、30~50代で4割前後あるが、80歳以上(26.9%)では2割台半ばに止まる。一方、女性では、20~50代で3割台だが、60代~80歳以上では2割台に止まっており、男女とも高い年代で少ない傾向となっている。

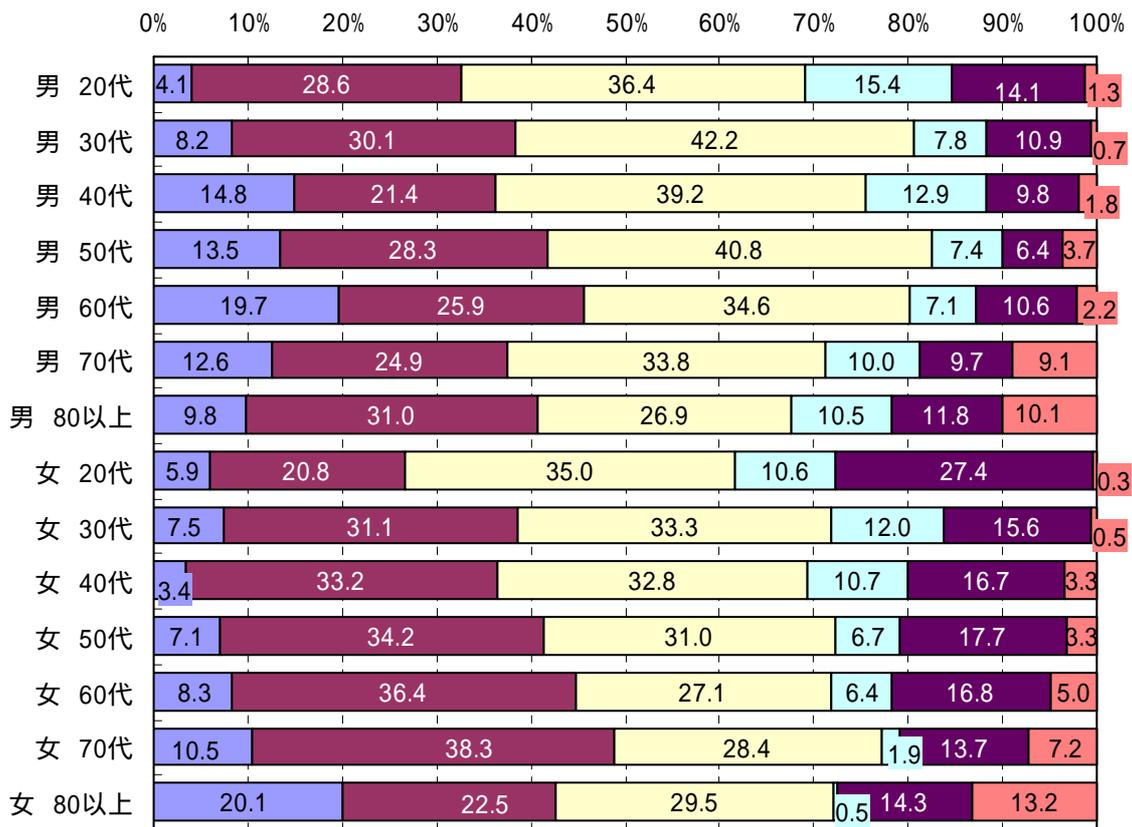
将来の社会保障制度のあり方【性別】

- 現在の高齢者の給付水準を維持し、将来の世代の負担を上げる
- 高齢者の給付水準を抑制し、将来の世代の負担をできるだけ上げない
- 高齢者の給付水準をある程度抑制し、将来の世代の負担をある程度上げる
- その他
- わからない
- 無回答



将来の社会保障制度のあり方【性・年代別】

- 現在の高齢者の給付水準を維持し、将来の世代の負担を上げる
- 高齢者の給付水準を抑制し、将来の世代の負担をできるだけ上げない
- 高齢者の給付水準をある程度抑制し、将来の世代の負担をある程度上げる
- その他
- わからない
- 無回答



職業別

職業別では、「高齢者の給付水準を抑制し、将来の世代の負担をできるだけ上げない」が3割前後の職業が多い中、主婦(主夫)(38.8%)、会社等の役員(36.1%)で3割台後半に及び一方、契約・派遣社員(21.6%)、その他無職(24.6%)では2割台前半に止まり、10ポイント以上の差が生じている。

